

2023 年度
年 報

Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

目次

I 年度事業計画

1. 2023年度重点事業	1
2. 中期計画・年度計画	4

II 組織・運営

1. 2023年度 教員一覧	14
2. 2023年度 職員一覧	15
3. 運営組織	16
4. 内部質保証	17
1) 今年度の取り組み	
2) 次年度に向けての課題	
3) 評価体制図	
4) 内部質保証システム体系図	
5. 大学運営	20
1) 今年度の取り組み	
2) 次年度に向けての課題	
3) 大学運営委員会組織および委員一覧	
4) 大学運営関係委員会 2023年度活動報告	
5) アドミッションオフィス	
6) 外部資金獲得状況	
6. 学部運営	37
1) 今年度の取り組み	
2) 次年度に向けての課題	
3) 学部委員会組織および委員一覧	
4) 教授会	
5) 学部委員会の活動報告	
7. 研究科運営	48
1) 今年度の取り組み	
2) 課題	
3) 研究科委員会組織および委員一覧	
4) 研究科委員会	
5) 大学院委員会の活動報告	
8. 事務局運営	54
1) 今年度の取り組み	
2) 課題	

III 看護学部教育活動

1. カリキュラム	56
1) 教育目的・目標	
2) ディプロマポリシー	
3) 教育課程表	
4) カリキュラムポリシー	
5) カリキュラムマップ	
6) 2023年度 実習施設一覧	
7) 選択科目受講者数	
8) 他大学との単位互換の状況	

2. 学生の受け入れ	67
1) アドミッションポリシー	
2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧	
3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧	
3. 学生支援	70
1) 在籍学生数	
2) チューター制度	
3) オフィスアワー制度	
4) 特待生制度	
5) 奨学金制度（2023年度奨学生数）	
6) 自治会活動支援	
7) 国家試験支援体制・状況	
8) 国家試験合格状況一覧	
9) キャリア支援体制・状況	
10) 就職・進路状況一覧（2023年度卒業生）	
11) 2023年度学生相談利用状況一覧	
12) 学生生活調査結果	
13) 後援会との連携	
14) 同窓会との連携	

IV 看護学研究科修士課程教育活動

1. カリキュラム	78
1) 教育目的・目標	
2) ディプロマポリシー	
3) 教育課程表	
4) カリキュラムポリシー	
5) カリキュラムマップ	
6) 2023年度 実習施設一覧	
7) 研究指導教員一覧	
8) 研究指導関係スケジュール	
9) 学位論文審査基準	
10) 2023年度 修士論文タイトル	
2. 学生の受け入れ	87
1) アドミッションポリシー	
2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧	
3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧	
4) 科目等履修生	
5) 履修証明プログラム	
6) 研究生	
3. 学生支援	89
1) 在籍学生数	
2) 修業年限内の修了率	
3) 研究費助成制度・獲得状況	
4) 就職・進路状況	
5) 専門看護師（CNS）、認定看護管理者 資格取得状況一覧	
6) 修士論文投稿状況一覧	
7) 学生生活調査結果	

V 看護学研究科博士後期課程教育活動

1. カリキュラム	91
1) 教育目的・目標	
2) ディプロマポリシー	
3) 教育課程表	
4) カリキュラムポリシー	
5) 大学院博士課程 研究指導教員一覧	
6) 研究指導関係スケジュール	
7) 学位論文審査基準	
8) 2023年度 博士学位論文テーマ一覧	
2. 学生の受け入れ	95
1) アドミッションポリシー	
2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧	
3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧	
3. 学生支援	96
1) 在籍学生数	
2) 修業年限内の修了率	
3) 研究費助成制度・獲得状況	
4) 就職・進路状況	
5) 修了年度 入学年度 論文の投稿状況	

VI ヘルスプロモーションセンター

1. 組織	97
2. 地域連携委員会活動報告	97
3. プラットフォーム	98
1) プラットフォーム活動概要	

VII 学術情報センター・図書館

1. 組織	101
1) 図書館課	
2. 情報管理・図書委員会活動報告	101
3. 学術情報センター・図書館主催活動実績	102
4. 図書・製本雑誌・視聴覚資料	102
5. 年間購読新聞	102
6. 年間購読雑誌	102
7. 電子ジャーナル	103
8. 利用者数	103
9. 相互利用件数	104

VIII IR室

1. 活動目的	105
2. 構成員	105
3. 活動概要	105

IX 国際交流

1. MOUに基づく交流	106
2. 語学研修プログラム	106

X 新型コロナウイルス感染予防対策本部の活動	
1. 組織図	107
2. 基本方針	108
XI 教員研究業績・社会活動一覧	109

I 年度事業計画

1. 2023 年度重点事業

中期計画 事業項目名	II 教育課程・学修成果 6 学生支援 (2) きめ細かな学生支援
事業名	ポートフォリオの試用開始
事業目的	メソフィアにポートフォリオ機能を追加することにより、学生自身の技術到達度のセルフチェックが可能となる。また、学生が経年で自身の DP 到達度・看護技術達成度等を確認することができる。なお、本事業は開学 20 周年記念事業の一部として実施される。
事業内容	メソフィアへ学修ポートフォリオ機能の追加 (1) ポートフォリオメニュー画面追加、自己評価アンケート結果画面追加 (2) 教員が教員ポータルシステムで学生のポートフォリオを見ながら指導できる機能を追加 (3) 学生が学生ポータルシステムで実習ごとにコメントを入力できる機能を追加
事業期間	令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月
予算概算額 (千円)	5,500 千円
達成状況	e- ポートフォリオの運用を目指してデモサイトで確認を行った。教員説明会を実施し、学生説明会の準備をした。

中期計画 事業項目名	II 教育課程・学修成果 3 質の高い教育の実践 (2) 大学院の教育
事業名	老年看護専門看護師教育課程の新設
事業目的	卓越した実践能力を有する専門看護師を育成するため、令和 6 年度入試よりコースを新設し入学希望者の増加を図る。
事業内容	修士課程の教育課程をより充実し、魅力あるものにするため、新たに老年看護分野の専門看護師教育課程を設置する。 令和 5 年 7 月に日本看護系大学協議会へ申請する。
事業期間	令和 5 年 7 月
予算概算額 (千円)	213 千円
達成状況	担当教員変更にかかる追加申請を行った。認定証を受け取り、申請書類（最終ファイル）を提出した。コースにかかる開講スケジュールを決定した。

中期計画 事業項目名	II 教育課程・学修成果 2. 赤十字の特色ある教育の推進と人材育成 (4) 開学 20 周年記念事業の実施
事業名	開学 20 周年記念事業
事業目的	開学 20 周年にあたり赤十字看護師の養成という基本的な方針をより明確にすることを目的に今まで以上に充実した教育環境の整備、事業を企図する。開学 20 周年を機に「赤十字学」を学問領域として立ち上げ、学園全体の教育に還元することを目標とする。
事業内容	(1) 学習環境の整備に関わる事業 (2) 教育研究の改善に関わる事業 (3) 20 周年記念に関わる事業
事業期間	令和 4 年 11 月～令和 6 年 3 月
予算概算額 (千円)	60,000 千円
達成状況	7 月 4 日に日本赤十字学園富田理事長の講演会を開催した。また、10 月 26 日に LED ビジョンを用いて特別講演会を開催した。11 月 11 日に豊田市、中部ブロック各県支部・赤十字病院、実習施設の関係者、地域住民および教職員が臨席し、開学 20 周年記念式典・記念講演・シンポジウムが滞りなく挙行され開学 20 周年記念式典等予定されていた年間行事は全て滞りなく実施できた。中部ブロックの赤十字関係者、地域住民を始め、多くの来学者に日頃の感謝の気持ちをお伝えすることができた。記念誌も年度内に完成した。

中期計画 事業項目名	II 教育課程・学修成果 3. 質の高い教育の実践 (3) 多様なメディア (ICT) を活用した教育 ① 情報通信教育 (ICT) を活用した教育の推進
事業名	学内の PC 等ネットワーク関連機器・設備の更新整備
事業目的	コロナ禍での授業体制・対応の経験を活かし、必要なスペックの端末や設備を更新整備し、ICT を活用した多角的で柔軟な授業の促進を実現する。
事業内容	(1) 令和 7 年 10 月に Windows10 サポートが終了するため、学内の PC を更新する。 (2) サーバー及び周辺機器の更新について仕様を確定する。
事業期間	令和 5 年度～令和 7 年度
予算概算額 (千円)	110,000 千円
達成状況	予定どおり学内 PC を更新した。コロナ禍での経験を活かし、Zoom 配信できる機能も追加した。

中期計画 事業項目名	II 教育課程・学修成果 3. 質の高い教育の実践 (3) 多様なメディア (ICT) を活用した教育 ① 情報通信教育 (ICT) を活用した教育の推進
事業名	DX 推進プロジェクト
事業目的	令和 3 年度に「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に採択され、令和 4 年度より学内の演習において、シミュレーション教育、また実習施設と大学の実習におけるオンライン連携を実施している。令和 5 年度はこの取組みを継続し、学生の臨床実践能力を育成する。
事業内容	<p>(1) ワイヤレス超音波画像診断装置 基礎看護学領域科目「ヘルスアセスメント応用」「基礎看護技術 II」にて同装置を用いた演習を展開する。さらに在宅看護学領域や災害看護学領域と連携し、将来的には災害場面等で同装置を活用できる看護職者の育成を促進する。</p> <p>(2) ハイブリッドシミュレーター 成人看護学領域関連科目での活用に加え、老年看護学領域や災害看護学領域等との共同活用を計画し、全学的に看護専門領域が連携し、学生の臨床実践能力を育成する。</p> <p>(3) 携帯型タブレットを用いた多地点統合型看護実習 実習施設との調整を進め、順次、多地点統合型看護実習ができる実習施設を拡大していく。</p>
事業期間	令和 5 年度
予算概算額 (千円)	712 千円
達成状況	補助対象となったシミュレーションは、臨床実践能力育成を目的に各看護学領域で活用されており、令和 6 年度以降も継続的に活用される予定である。

2. 中期計画・年度計画

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2024 年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
内部質保証 教育研究組織	1. 内部質保証	定期的な点検・評価	教育の質保証委員会、自己点検・評価委員会 教育改善学生委員会 IR 室 経営会議	学務課 総務課	外部評価や授業評価等の PDCA サイクルを循環させることで、内部質保証システムの運用・展開を図る。外部評価として、「参加会」及び「中部ブロック各県支部・赤十字病院連絡協議会」から評価を受ける。	1. 評価体制図に基づく、PDCA サイクルの円滑な実施	・学修成果調査を実施した。 ・授業評価を実施した。その結果について評価委員を任命して評価を実施する。 ・参加会を 2/6 に開催し、参加者から意見をもらい評価を受けた。 ・中部ブロック各県支部・赤十字病院連絡協議会を 2/26 に開催し、委員から意見をもらい評価を受けた。	達成
				大学基準協会認証評価の基準に沿って蓄積した情報を分析し、自己点検報告書を作成する。	2-1. 年報の作成	1月に各関係部署に原稿作成を依頼し、年報作成の業者手続きを行った。	達成	
					学生による授業評価の実施、教育改善に関する教育改善学生委員との意見交換の実施等を行い、教育改善に反映させる。	2-2. 大学基準協会認証評価に向けて準備を行う。	3月末までに関係書類を完成させ、大学基準協会へ提出した。	達成
					学生による授業評価の実施、教育改善に関する教育改善学生委員との意見交換の実施等を行い、教育改善に反映させる。	3. 学生評価や教育改善学生委員との意見交換を行い、教育改善に反映させる。	改善内容については、教育改善学生委員会の学生委員を始め、メンフィアにて学内周知を行った。今年度 2 回目の委員会はメール審議にて開催し、意見集約を行った。学生からの提案をもとに、学内で緊急に対応を要する案件かどうか今後検討を進める。	達成
						4. 大学として必要なデータの確定と蓄積	・アセスメントプランに基づきデータを確定した。	達成
					大学の理念・目的に照らして、学部組織の設置状況が適切であるか評価する。	令和 3 年度達成済		
					大学の理念・目的に照らして、大学院組織の設置状況が適切であるか評価する。	令和 3 年度達成済		
	(1) 看護学部	経営会議	総務課 企画・地域交流課 学務課 図書館課	大学の理念・目的に照らして、アドミッションオフィス組織の設置状況が適切であるか評価する。	アドミッションオフィス組織の定期的な検証の継続	アドミッションオフィス規程を制定した。	達成	
	(2) 大学院			大学の理念・目的に照らして、事務局組織の設置状況が適切であるか評価する。	事務局組織の定期的な検証の継続	学園本部へ第三次中期計画の最終評価を回答した。次年度に向けた課題として、研究力の強化、赤十字病院への就職率の向上、大学院修士課程の定員確保が挙げられる。	達成	
	(3) アドミッションオフィス			大学の理念・目的に照らして、アドミッションオフィス組織の設置状況が適切であるか評価する。	アドミッションオフィス組織の定期的な検証の継続	アドミッションオフィス規程を制定した。	達成	
	(4) 事務局	事務局		大学の理念・目的に照らして、事務局組織の設置状況が適切であるか評価する。	事務局組織の定期的な検証の継続	学園本部へ第三次中期計画の最終評価を回答した。次年度に向けた課題として、研究力の強化、赤十字病院への就職率の向上、大学院修士課程の定員確保が挙げられる。	達成	
	(5) ヘルспロモーションセンター	経営会議		講座への参加者数、教職員の休日出勤による負担等の両側面から活動を点検評価する。	ヘルспロモーション組織の定期的な検証の継続	公開講座については、今後 3 年間の中期計画を立案した。また、専門職向け研修会については、次年度の計画を策定した。	達成	
	(6) 学術情報センター・図書館			ビジョンの「研究力向上」を目指し、研究支援体制の充実を図り、公開した論文数、科学研究費への応募数・採択率等から活動を点検評価する。	外部の競争的研究資金の情報提供を積極的に行うとともに、論文投稿に関する講習会等を企画、実施する。	・医中誌 Web、最新看護索引 Web、CINAHL、RefWorks（文献管理支援ツール）の利用実績を把握している。その結果に基づき、よりいっそうの利用促進策を検討した結果、CINAHL 講習会のオンデマンド配信を次年度も継続することとなった。 ・研究支援体制の課題解決に向けた取り組みを実施した結果、来年度の具体的な改善策を検討した。	達成	
	(7) IR 室				令和 4 年度に設置した IR 室において、経営戦略、教育の質保証、本学の研究成果、国内外の教育研究・大学運営等に関する情報の収集・分析・提言を行う。	受験者数の増加、教員の教育力の向上、事務職員の能力向上の具体的な方策を示すことを目的とし、収集した情報をもとに提言書を作成した。	達成	

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2024年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等		
教育研究等環境	1. 全学的な教学マネジメントの確立	(1) 全学的な教学マネジメントの確立	教育の質保証委員会	学務課	教育の質保証委員会を責任主体として、ディプロマポリシー（学位授与方針）及びカリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）の適切性について評価し改善する。また、内部評価として、授業評価、学生アンケート、教育改善学生委員からの評価について、教育の質保証委員会が改善を検討する。なお、外部評価については、経営会議を責任主体とするが、教学マネジメントに関する内容については、教育の質保証委員会が改善を検討する。	アセスメントポリシーに即して、各種評価を適正に実施する。	アセスメントプランに則して各種評価を適正に実施した。	達成	
						令和5年度前期授業評価アンケートに基づき教育の質保証委員会でも検討した。改善依頼が必要な科目はなかった。また、DP評価として、修了時アンケートを実施した。	達成		
						1. ルーブリック等を用いた学修成果調査の結果についてIR室が行った分析に基づき改善を検討する。	学修成果調査の調査方法についてリッカー形式に変更した。また、年度末ガイダンスで学修成果調査を実施し、昨年度より回答率が上昇した。IR室において分析を行う。	達成	
						2. カリキュラムマップに基づくディプロマポリシーごとのGPAを算出し、入試方法と卒業時の学修の到達度を評価する。	2019年度入学の学生について、1年次から4年次までのGPA比較をし、その分析結果をAOに共有し、入学選抜の妥当性について検証するよう伝えた。また、2018年度入学の学生についてもGPAの比較・分析を行った。	達成	
	2. 赤十字の特色ある教育の推進と人材育成	(1) 赤十字の理念に基づく教育の充実	赤十字教育・災害看護教育などの教育実践力の維持・向上	教務委員会	学務課	カリキュラムの教養科目に「赤十字」を位置付け、専門科目に「災害看護学」を置き、赤十字の理念に基づく教育を実施する。	1. 明治村の日本赤十字社中央病院棟（現日本赤十字社医療センター）の見学を通して、日本赤十字社の歴史を学び、小集団活動で、赤十字の大学で看護学を学ぶ意義を考える。	2名の学生が履修し、赤十字社の歴史について学修し、赤十字で学ぶ意義を考えることができた。次年度は履修者数を増やすため、1年後期の授業開始日に後期授業開始にあたっての、履修オリエンテーションを実施することを計画した。	達成
							2. 教育課程において赤十字の原則や国際人道法についての教育を行う。赤十字の国際救済事業は開発協力事業への関心を高める。	令和6年度の「国際救済看護論実習」について8月末～9月にインドネシアに訪問し、現地で収集した情報をもとに次年度の計画を立てた。また、令和6年度の「国際救済看護論実習」の開講に向け、日本赤十字学園本部と調整を行って授業計画を作成し、その内容と今後のスケジュールについて学生へオリエンテーションした。次年度の赤十字関連科目のシラバスを作成し、非常勤講師委嘱に向けた準備を行った。	達成
						3. 災害看護学に関する教育を実施する。	2年生「災害看護学概論」、3年生「災害看護学技術演習Ⅰ」の対象学年全員が授業を通して災害看護学教育を実施した。また、「災害看護学援助論」、「災害看護学技術演習Ⅱ」の授業を開講し、履修者の単位認定を行った。次年度の災害看護学関連科目については、授業計画を作成するとともに予算編成およびシラバスチェックなどの準備を行った。	達成	
						4. 本学卒業生が赤十字病院で活躍するイメージを育む。	看護プロフェッショナルセミナーを1年生全員履修し、医療施設で働く専門職の姿についてイメージを育てた。次年度に向けて教員向けアンケートを実施した。また、次年度の「看護プロフェッショナルセミナー」について、担当教員を確定させるとともに、授業計画を立案し、学生が今後のキャリアについてイメージを拡張するための学外協力者（卒業生の看護師・保健師・助産師、患者体験者）を選定した。	達成	

I 年度事業計画

	計画項目		担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2024年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
教育研究等環境	2. 赤十字の特色ある教育の推進と人材育成	(2) 保健・医療・福祉の現場を支える人材の育成	より広い地域で活躍する人材の育成	学生委員会	学務課	赤十字病院と協同関係を深め、人材を育成する。また、卒業生70%以上が赤十字病院への就職することを旨とする。	1. 赤十字病院との協同関係を深める。 2. 赤十字病院への就職者を前年度より増やす。	12月11日に赤十字病院説明会を開催し、就職先としての赤十字病院を紹介した。当日、各赤十字病院の人事担当者が来学したため、卒業生の様子、次年度の採用状況、奨学生募集状況等の情報収集を行った。また、令和6年2月9日に開催された看護部長会に学長、学部長が参加し、就職活動状況、進路希望状況、受験先等の情報を共有した。また、次年度の病院説明会の開催日を公表し、参加を求めた。 赤十字病院等に奨学生募集がある場合は本学にも要項等を送っていたくよう依頼文書を送付した。	達成
				大学院 教務・学生委員会	学務課	大学院看護学研究科、看護管理学領域に設置した認定看護管理者コースにて認定看護管理者を育成した。認定審査の合格状況を把握する。	修了後の認定看護管理者コース生の認定看護管理者取得状況を把握する。	令和6年1月に調査を実施し、対象者全員から回答を得た。調査結果を資格取得者一覧に反映させた。	達成
	(3) 赤十字ネットワークとの連携		国際交流委員会	総務課	海外の赤十字看護大学との交流協定締結に向けて、対象大学の拡大と交流の深化を促進する。	1. 海外語学研修については学生に対して希望者を募り派遣を決定する。	・令和6年3月9日～26日オーストラリア研修を実施し、現地で、医療機関訪問やプログラムについて情報収集を行った。 帰国後、同行教員の報告を受け、令和6年4月委員会にて同行教員の評価、アンケート結果を基に、プログラムの内容評価を行う。(次年度も同プログラムを継続するか審議する) ・海外研修の6大学共同実施について、次年度教員視察を行うことを決定した。	達成	
						2. タイ赤十字看護大学との交流を継続していく。(受入・派遣)	8月27日～9月3日に本学学生3名をタイ赤十字看護大学に派遣した。また、12月17日～27日にタイ赤十字看護大学学生3名を受け入れた。 6つの医療施設の見学、本学ヘルスアセスメントの演習への参加した。また、学生とともに日本の歴史・文化・生活に触れることができた。さらに、プログラム及びホームステイのアンケート結果を元に評価した。例年に比べ、学生との交流が多く相互理解が深まった点を評価し、継続。 次年度は、学内授業への参加、「赤十字」に特化したプログラム内容を検討していく。STINと次年度も相互で受入・派遣を継続することを確認した。 日程・スケジュール確定が課題であったため、次年度のタイ赤十字看護大学と受入および派遣について、日程調整している。	達成	
	(4) 開学20周年記念事業の実施	令和5年度より追加	-	-	経理課	開学20周年にあたり赤十字看護師の養成という基本的な方針をより明確にすることを目的に今まで以上に充実した教育環境の整備、事業を企図する。開学20周年を機に「赤十字」を立ち上げ、学園全体の教育に還元することを目標とする。事業内容として、学習環境の整備に関わる事業、教育研究の改善に関わる事業、20周年記念に関わる事業を実施する。	本学の講堂に設置されている映像機器を一新し、高画質のLEDビジョンなど通信機能を向上させた最新の機器を導入する。	LEDビジョンの設置が完了し、教職員ならびに設備担当者への説明会を開催した。実際の利用に向けて操作訓練を適宜行った。今後、講義や式典等イベントで活用していく。	達成
					総務課 学務課	開学20周年の行事を成功させる。	7月4日に日本赤十字学園富田理事長の講演会を開催した。また、10月26日にLEDビジョンを用いて特別講演会を開催した。11月11日に豊田市、中部ブロック各県支部・赤十字病院、実習施設の関係者、地域住民および教職員が出席し、開学20周年記念式典・記念講演・シンポジウムが滞りなく挙行され開学20周年記念式典等予定されていた年間行事は全て滞りなく実施できた。中部ブロックの赤十字関係者、地域住民を始め、多くの来学者に日頃の感謝の気持ちをお伝えすることができた。記念誌も年度内に完成する。3月22日に開催予定のプロジェクト会議において最終評価を行う。	達成	
					教育の質保証委員会	学務課	災害看護に特化した災害看護教育環境を整備し、災害看護教育の充実を図る。	領域の要望する物品の中から領域予算での整備品目をリストから除外し、希望順位の高さの評価を行い、年度内整備に向けて業者と調整中である。	達成
					-	図書館課 経理課	赤十字史料を活用し近代史の研究者や関係研究者とともに学術交流を行い「赤十字」を立ち上げる。	・令和6年1月9日：第2回学園内会議 ・令和6年1月19日：第3回学園内会議 ・令和6年1月24日：第4回検討会 ・令和6年2月29日：第4回学園内会議以上の会議を経て、デジタル化への仕様がほぼ固まった。	達成
	-	-	いとすぎプロジェクト	敷地内に1本残っているイタリア・ソルフェリーノの丘から送られ種から育てられた糸杉を挿し木等により増やし、由緒ある糸杉について伝えていくことを目的にプロジェクトを進める。	20本程度発根している状態で、春頃に植替えを予定している。	達成			

計画項目		担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2024年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
3. 質の高い教育の実践	(1) 学部の教育	①学生の学修活性化及び効果的な教育	教務委員会	学務課	豊かな人間性を培い、正解のない問題に直面する社会の中で自ら判断して答えを導きだす能力を育むため、専門科目を効果的に組合せた教育課程の編成に努める。	学生の主体的な学びを促進する時間割を作成する。これまで実績を積んだ遠隔授業のノウハウを効果的に活用してオンデマンドも取り入れた教育活動を進める。 令和6年4月より学生が学修状況及び到達度を自己管理するとともに、チューターが学修支援を効果的に行えるように、学務システム上の成績・授業評価・看護技術到達度と連動したe-ポートフォリオのシステムを構築し、試用を開始する。	来年度の開講時間帯をなるべく固定した時間割を作成した。動画配信システムの次年度タイトルを決めた。	達成
			学修ポートフォリオプロジェクト				e-ポートフォリオの運用を目指してデモサイトで確認を行った。教員説明会を実施し、学生説明会の準備をした。	達成
		②学生の学修成果の修得状況の把握・評価	IR室	学務課 総務課	学生の学修時間と学修成果について調査を実施し、調査データの分析、公表を行う。	教務委員会において、学生の学修時間と学修成果についての調査を実施する。実施した調査データをIR室で分析し、公表する。ディプロマサプリメントの発行をとおして、学生の正課内外の学修成果修得状況の可視化を図るとともに、卒業時のディプロマポリシーごとのGPA値について分析・評価を行う。	学修時間・学修成果の調査を、後定期試験終了後に年度末ガイダンスの一環として実施した。昨年度より回収率が向上した。卒業生に対してディプロマサプリメントの発行を行った。	達成
	(2) 大学院の教育	①修士課程	大学院教務・学生委員会 大学院研究科委員会	学務課	大学院修士課程の専門看護師コース（新教育課程38単位）（小児看護学領域、精神看護学領域）及び新たに設置した認定看護管理者コース（看護管理学領域）の教育の充実を図る。また、履修証明プログラムを新教育課程に合わせて改編し、文部科学省から職業実践力育成プログラム（BP）として認定された。令和2年度から受講生の受け入れ、適切に運用する。さらに、移転したサテライトキャンパス（名古屋第二赤十字病院 日赤愛知災害管理センター）を有効的に活用する。	1. 修士課程の夜間・土曜開講、長期履修制度を継続し、社会人学生が履修しやすい環境を整える。 2. 専門看護師（小児）38単位の教育課程を継続する。 3. 認定看護管理者コースの教育課程を継続する。 5. 社会人等を対象とした履修証明プログラム「看護教育プログラム」、「看護研究プログラム」「災害看護実践プログラム」について履修期間を1年に改定し受講者の利便性を高めるとともにプログラムの内容を引続き検討する。	夜間・土曜・オンライン開講を活用した令和6年度の開講スケジュールを作成するとともに、令和6年度入学生の長期履修の認定手続きを行った。	達成
						6. 令和6年度老年看護学CNSコースの開設に向けて準備する。	担当教員変更にかかる追加申請を行った。認定証を受け取り、申請書類（最終ファイル）を提出した。コースにかかる開講スケジュールを決定した。	達成
						7. サテライトキャンパスを有効的に活用する。	サテライトキャンパスに関する設問を含むキャンパスライフアンケートの結果を確認し活用方法を検討した。	達成
5. 赤十字学園5大学での共同看護学専攻に参画する。 2. 研究指導教員、科目担当教員を増やし、教育体制を強化する。						5大学で協力しながら共同看護学専攻に参画した。 研究科長会議で検討した内容について、翌年度からの指導体制に反映できるよう準備をした。 修了生を2名輩出した。	達成	
②博士課程		共同看護学専攻 連絡協議会	学務課	共同看護学専攻博士後期課程における教育の質向上を図るとともに修了生を輩出する。			達成	
(3) 多様なメディア（ICT）を活用した教育	①情報通信教育（ICT）を活用した教育の推進	教務委員会	学務課 経理課 総務課 ネットワーク支援室	遠隔教育システム利用によるリアルタイムでの双方向の遠隔授業を検討する。また、Zoomなどを大学院教育に活用して利便性を高くする。さらにアクティブラーニングを推進するため、動画配信システムやラーニングポッドを効果的に活用する。	1. 学生の学内情報通信環境の安定運用の推進を図る。 2. Zoom等の遠隔教育システムの効果的な活用、オンデマンド教材の作成と運用等を支援する。	webセキュリティソフト等の適切設定により安全なインターネット接続環境を確保している。 コロナ感染症に伴う自宅待機者等に向けて、遠隔教育システムZoomの活用をして授業をリアルタイム配信した。令和6年度入学生から、電子教科書の導入を決定し、利用できる体制を整備した。	達成	
			DX推進プロジェクト				3. DX推進に向けて、令和3年度に立ち上げたプロジェクトチームを中心に引き続き効果的な教材開発を検討する。令和4年度より学内の演習において、シミュレーション教育・超音波診断装置を活用した教育、また実習施設と大学の実習におけるオンライン連携を実施している。令和5年度はこの取組みを継続し、学生の臨床実践能力を育成する。	補助対象となったシミュレーションは、臨床実践能力育成を目的に各看護学領域で活用されており、令和6年度以降も継続的に活用される予定であること経理課予算ヒアリングの際に各領域に確認した。
		②他大学等との単位互換の促進				ICTを利用した単位互換制度について学園本部とともに検討を進める。	赤十字学園内大学間での単位互換構想について引き続き検討をする。	グランドデザインにおいて赤十字の教育共同体を発展させるための方針が示され、学園の委員会・検討部会で協議している。

教育研究等環境

I 年度事業計画

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2024年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等			
教育研究等環境	4 優秀な学生の受け入れ（社会人を含む）	(1) 学生の受け入れ方針の適切な設定	アドミッションオフィス 入試・広報委員会 大学院 入試・広報委員会	企画・地域交流課	アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）は既に設定したが、その適切性について継続的に検討する。	入学段階で身に付けていることが求められる資質・能力等や、評価・判定の方法・基準について具体的に示す。	各選抜区分と「学力の3要素」評価方法および本学の求める学生像を募集要項、ホームページへ掲載した。現在募集要項に反映させているのが独自選抜と共通テスト利用選抜のみであるため、すべての試験区分においてこれを反映させる。	達成		
		(2) 学生募集方法及び入学選抜制度の適切な設定			大学入学者選抜改革の導入を見据えた入試方法について、継続的に検討する。	1. 優秀な学生を安定的に確保するため、推薦制度について検討する。 2. 総合的な英語力の評価について、4技能を評価するために外部の英語資格・検定試験を活用し、入学者選抜において英語力を明確に評価できるように従来の項目とは別枠を検討する。 3. 特待生制度を有効活用できる入試方法を検討する。	アドミッションオフィスにおいて総合型選抜の導入、指定校枠の増加、出願条件である評定平均値について検討をした。指定校枠の増加および出願条件である評定平均値について、入試・広報委員の意見を集約した。 独自選抜にて外部の英語資格・検定試験を活用した入試を実施した。利用状況は、20人の利用があった。 アドミッションオフィスにおいて、特待生制度を有効活用できる入試方法を検討する予定である。	達成 達成 達成		
	(3) 入学定員及び収容定員の適切な管理	-			総務課	文部科学省の入学定員厳格化、愛知県内における看護学部増設、18歳人口の減少を踏まえ、入学定員を管理する。	1. 文部科学省による入学定員の厳格化及び設置等にかかる認可の基準から平均入学定員超過率が平成31年度以降1.15倍未満と定められていることから、本学では1.12倍の134名（入学定員120名）を確保する。	高等学校長推薦選抜志願者数は26名、うち合格者26名、赤十字特別推薦選抜志願者は15名、うち合格者は15名、社会人特別選抜志願者数は1名、うち合格者は1名となった。大学独自選抜受験者は231名うち合格者133名、大学入学共通テスト利用選抜（前期A）受験者は109名うち合格者27名、大学入学共通テスト利用選抜（前期B）受験者は108名うち合格者は52名となった。大学入学共通テスト利用選抜（後期）受験者は3名のうち合格者1名となった。上記から歩留り率を確定した。	高等学校長推薦選抜志願者数は26名、うち合格者26名、赤十字特別推薦選抜志願者は15名、うち合格者は15名、社会人特別選抜志願者数は1名、うち合格者は1名となった。大学独自選抜受験者は231名うち合格者133名、大学入学共通テスト利用選抜（前期A）受験者は109名うち合格者27名、大学入学共通テスト利用選抜（前期B）受験者は108名うち合格者は52名となった。大学入学共通テスト利用選抜（後期）受験者は3名のうち合格者1名となった。上記から歩留り率を確定した。	達成
						大学院修士課程及び共同看護学専攻の入学定員の確保に努める。	2. 大学院修士課程及び共同看護学専攻の入学定員を確保するため、大学院説明会等を実施する。	令和6年度大学院入学試験において、第1回および第2回併せた受験者は修士課程7名、博士課程3名となり、博士課程においては定員を満たすことができた。定員確保に向けて、大学院説明会の実施内容を検討した。	達成	
								次年度に向けて大学院説明会チラシの内容及び送付先等広報方法について検討した。	達成	
									達成	
	5 教員・教員組織	(1) 教員・教員組織編成	-	総務課	教員組織計画に基づき適切に運用する。また、カリキュラム改正に伴う領域別の教員定数の妥当性と教員組織編成について継続的に検討する。さらに、教員の選考基準を明示し、公募により適任者を広く求める。	カリキュラム改正や臨地実習日数増減等に伴い適宜見直される領域別教員配置を人事委員会や経営会議において適正な配置となるよう随時見直しを行い、配置に合わせて公募・採用を実施する。教員の資格審査基準に関する規程に則り選考を行う。	教員の資格審査基準に則り昇任人事の推薦を受け審査を行い、11月教授会を経て人事委員会において昇任が決定された。対象者に選考結果を通知し、同意書を受領した。	達成		
					(2) 教職員の資質向上（FD・SDの高度化）	FD・SD委員会	総務課	FD・SDマップを充実させて、企画を実施し、教学マネジメントに関する教職員の資質向上を図る。	1. 内外の専門研修・勉強会へ継続的に参加し、教育力・事務能力の向上を図る。 2. FD・SDマップに基づき、年間を通じて教育力・研究力・教学マネジメント力を上げるための取り組みを継続する。	職員の外部研修受講者の調整および教職員対象のオンライン研修会などの参加呼びかけを行い、受講状況を確認した。 令和5年度FD・SDマップに沿って研修会等を適宜実施した。また、令和6年度のマップを完成させ、2月教授会・教員会議において共有した。
				研究時間を含む研究環境を整備する。	3. 研究時間の確保についての改善に向けた検討及び研究環境の効果的な整備品の検討を始める。	教授会、研究科委員会構成員のうち希望者にタブレットを貸与したことにより、研究室以外から会議・研修会等への参加が可能となった。	達成			

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2024年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等				
教育研究等環境	6 学生支援 (1) 奨学生制度・特待生制度の適切な活用と外部支援の獲得	学生委員会	学務課	奨学生制度及び特待生制度を適切に活用する。(赤十字病院を中心とした奨学金制度を広く周知し、経済的困難者に対し学業継続を支援する。また、優秀な学生の確保に努める。また、本学独自の特待生制度の効果的な運用を図る。)	1. 全国の赤十字病院の奨学金制度について、広く在学生に周知し、経済的困難者に対し学業継続を支援する。	引き続き、本学に通知のあった全国の病院、自治体等の奨学金情報を随時学生に配信している。	達成				
					2. 奨学生制度を利用する学生について資質、成績向上に向けて支援する。	講義への出欠等に問題がある学生にはチューターから指導を行っている。	達成				
					3. 愛知県支部特別奨学金制度を有効活用し、経済的困難者への支援につなげる。	愛知県支部が行うC特別奨学生説明会に在学生が参加し、学生生活のプレゼンを行った。2年生に向け、B特別奨学生の募集があることを周知した。3月19日にB特別奨学生説明会をZoomで開催した。	達成				
					4. 特待生制度を活用し、学業成績優秀者を経済的側面から支援する。	教授会にて決定し、対象者5名に特待生決定通知書を送付した。	達成				
					5. 奨学金を受けている学生の追跡調査を行い評価する。	奨学金を受けた学生の追跡調査について検討を行っている。	達成				
	(2) きめ細かな学生支援	①修学支援	教務委員会	学務課 総務課	入学前教育の実施等の高大連携を継続すると共に、その方法について継続的に検討する。	1. 教務委員会を中心に入学前の学生を大学の講義に受入を行う。 2. 高大連携プロジェクトとして入学前教育の見直しを継続する。	推薦入学試験での入学予定者に対して授業見学及び交流会を実施した。授業見学者は15名、交流会は9名の参加であった 令和6年度の入学前教育課題を大学独自選抜等の合格者へ送付した。	達成			
				高大連携プロジェクト			3. 国家試験対策委員会を中心に、新卒者の看護師・保健師国家試験の全国平均合格率以上を目指す。また、既卒者への支援を行い国家試験の合格率向上を目指す。	業者による特別講義を行った。年間計画に従って模擬試験を実施するとともに、希望する学生に対し、追加して模擬試験を行った。	達成		
				国試対策委員会	国家試験対策を企画・提供して学生を支援する。	4. 成績不良者に対して基礎力を向上させる支援を全学的に取り組む。	成績不振の学生に対し、特別講義の受講にくわえ、受験勉強の教室を確保し、毎日受験勉強の進行状況を確認しながら支援した。	達成			
			学生委員会	学生の主体的な学修を推進するための支援環境(チューター制度、学生相談等の活用)の充実を図る。	1. チューター教員を中心に、学部長、科目担当教員の相談・支援ラインを強化し、職員間の情報共有を密にしながら学生の抱える問題に迅速に対応する。	2. 就業しながら修学をすすめる大学院生の相談については、研究指導教員を中心に対応していく。	学生に問題が起きていることを確認した部署は迅速に役職者およびチューターに連絡を行うことを徹底しており、チューターは役職者の指示のもと必要な支援を行っている。 院生からの相談に対して、研究指導教員を中心に対応をした。	達成			
		②生活支援	学生委員会	大学院教務・学生委員会	ハラスメント防止のための研修会を継続して実施する。	3. 学生相談室のカウンセラーと学部長、学生キャリア支援担当者と連携し、学生ニーズに応じた相談およびハラスメント相談を手配することにより、適切な支援へ繋ぐ。	学部生、新入教職員を対象にハラスメント研修会を実施し、相談窓口の周知を行った。2024年度版ハラスメント防止パンフレットの作成を進めた。	達成			
				倫理委員会	大学生協が学生の食育環境改善及び必要物品購入の利便性に資するように、運営を支援する。	4. 生協の福利厚生の上をを図る。また、安定的な運営を目指す。	コロナ禍による制約によりメニュー数が減少していたが、食器使用の再開及び故障備品の整備によりメニュー数を増やし、学生及び教職員に対する福利厚生の充実を図ることができた。また、そのことを掲示により学生及び教職員に周知した。	達成			
				－							
		③キャリア支援	学生委員会	学務課 総務課	赤十字病院と連携して、キャリア支援体制を整備する。	チューター教員を中心に学生の奨学金採用試験、就職試験の対策や相談に随時対応する。また、チューター教員を中心に卒業後の臨床等でのキャリアアップについて、随時相談に応じる。	3年生に対して行った就職活動状況調査の結果をチューターに配布し、よりきめ細かな就職活動支援が行えるようにした。	達成			
					学生の自治会活動・クラブ・サークル活動について、学生委員会を中心に支援を行う。	学生の自治会活動、クラブ・サークル活動について、学生委員会やサークル顧問を中心に支援を行う。	ICDおよび顧問の助言により、クラブ・サークル活動が再開し1年が経過したが、クラブ・サークル活動を原因とするクラスターは発生していない。引き続きサークル顧問が支援を行う。	達成			
					(3) 校友ネットワークの確立	学生委員会	学務課 総務課	日本赤十字学園の6看護大学の学生間の相互交流を積極的に支援する。	日本赤十字学園の6大学交流会を実施する。	学園本部に対して6大学交流会参加報告書を提出した。	達成
								平成30年度に同窓会規程が改定されて、会員資格の拡大、会員管理システムが導入された。同窓会組織の運営が順調に機能するように支援する。	1. 大学事務局に委託されている同窓会事業について、事務局業務を中心に引き続き支援を行う。また、在学生会員でもある自治会メンバーも同窓会役員となり、在学生と卒業生が協力して活動できるよう支援を行う。 2. 元学長及び名誉教授、寄付者等を卒業式等式典に招き、本学の支援へつなげる	10月14日に役員会・総会・里帰りイベントを開催した。里帰りイベントには54名の参加があった。役員に本学の卒業支援の在り方を相談し、イベントの同時開催等協力していくこととなった。また、2月15日に同窓会役員会を開催し、次年度の学生援助費の用途、新卒者交流会の後援、スケジュール、里帰りイベントの開催内容等を決定した。 第3四半期に見直しした招待リストを基に招待状を送付した。残念ながらご出席は残念ながらなかったが、電話等で近況をお知らせいただいた。次回式典でのご出席に向けてご案内を継続する。	達成

I 年度事業計画

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2024年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
教育研究等環境	1 教育研究等環境の方針	-	経理課	大学設置後50年を見据え、電気、空調、給排水、外壁等、中長期補修計画を策定する。	建物および建物付属設備の整備計画を具体的に作成し、計画的に整備する。	次年度整備予定の建物付帯設備（冷温水機他）の整備時期等について、関連業者と打合せを行い、学園本部及び学内における入札手続きを進めた。次年度の建物修繕についても、実施時期について、打ち合わせを進める。	達成	
				教育研究用機器備品について、10年整備計画に基づき整備する。	教育研究用機器備品の10か年計画に基づき、予算ヒアリングにあわせて機器の稼働状況・状態を確認し整備の緊急度・優先度の評価を行う。また、現状のカリキュラムや教育活用内容に則したシミュレーター整備状況を検証した上で、教育研究等に必要環境整備を実施する。	年度内の備品整備の遅れ等がないかを確認し、次年度の整備に向けて、必要備品スケジュールを確認し、調整を行った。	達成	
				教育研究用機器備品について、領域を超えて共用して有効に活用する。	教育研究用機器備品等の共同使用の基盤を整え、有効活用を促す。	備品の在庫確認および次年度予算申請をもとに備品等共同使用可能なものについて、確認を行った。	達成	
				中長期補修計画に基づき、電気、空調、給排水、外壁等を計画的に更新整備する。	大規模修繕計画（5ヶ年）に基づき、予算編成時に更新の必要性や適切性について検討を重ねたうえで、整備を実施する。	経年劣化等の緊急性及び必要性の高いものを順次、修繕を実施した。	達成	
				教育研究用機器備品について、定期的に点検し運用する。	固定資産（医療器械・演習用モデル人形等）整備計画（10ヶ年計画）に基づき、予算編成時に更新の必要性や適切性について検討を重ねたうえで、整備を実施する。	今後の固定資産（医療器械・演習用モデル人形等）整備計画（5ヶ年計画）を作成した。また、年度内の備品整備の遅れ等がないかを確認し、次年度の整備に向けて、必要備品スケジュールを確認し、調整を行った。	達成	
	2 研究活動の充実強化と社会還元	-	学術情報センター・図書館	学術情報センター・図書館を中心に、研究活動充実強化のための「研究費を獲得できる支援」「研究を遂行できる支援」「研究成果を公表できる支援」の体制を構築する。	助成金データベースを更新する。また、教員・院生への研究支援の充実を図る。さらに、リポジトリの充実を図る。	9件の公募情報を教員に周知した。また4月の教職員オリエンテーションに向けて、「研究に役立つ本」の展示計画を立てた。	達成	
	3 競争的外部研究資金等の確保	(1) 科学研究費補助金の獲得と体制の整備	研究推進・紀要委員会	学務課 学術情報センター・図書館 経理課	外部研究資金を確保するため、全教員が科学研究費助成事業へ申請する。また、学術情報センター・図書館事業として、計画調書作成を支援する。	1. 科学研究費助成事業について、令和5年度（令和6年度採択分）には全員が応募する。（研究代表者・分担者） 2. 研究推進・紀要委員会および経理課を中心に、研究計画書作成上の留意点等についての研修会を開催し、学術情報センター・図書館で研究計画書のレビューを行うことで、採択率の向上を図る。	令和6年度科研費において9件の応募のうち、5件の採択があった。また、科研費の動画講座を活用し、来年度の科研費獲得にむけた研修会を実施した。	達成
				探択される研究計画調書については、情報科学分野との融合による研究が採択されやすいことを把握した。来年度の研究支援に生かしていくこととした。	達成			
		(2) 大学教育改革支援事業への積極的応募	教育の質保証委員会	経理課	私立大学等改革総合支援事業（タイプ1～3）の評価要件を把握して学内体制を整備し、採択を目指す。	私立大学等総合改革支援事業（タイプ1～3）に応募し、採択を得る。	タイプ1およびタイプ3において採択されたことを確認した。	達成
		(3) 学園研究助成金の効果的な配分	教育の質保証委員会	経理課 学務課	教員が競争的資金を確保するよう積極的に申請するための方策を図る。	1. 赤十字と看護・介護に関する研究について、応募数を前年度以上に増やす。	応募した3件全て採択された。（当初5件の応募だったが、その内2件を基金の応募に変更した）	達成
2. 日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金について、若手研究者の応募数を前年度以上に増やす。					応募した3件のうち2件採択された。（当初1件の応募だったが、赤十字助成で応募した2件を基金への応募に変更した）	達成		
3. 学生支援事業について学生向けに周知を行い、応募が増えるよう支援を行うとともに、学生の活動の幅を広めることができるよう体制を整える。	学生支援事業の助成金の交付を受けた。翌年度も6大学交流に参加していく。				達成			

計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2024年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
1 地域社会との連携強化	(1) 自治体等との連携・協力の促進	地域連携委員会	企画・地域交流課 総務課 学務課 経理課	豊田市、大学、高専の地域包括連携協定に基づき、連携の充実を図る。また、地域包括連携協定に基づくプラットフォーム形成大学との共催による公開講座、合同での入試説明会及びFD・SD研修の実施について検討する。	1. 市内大学と形成したプラットフォームにて、合同入試説明会を開催する。 2. 市内大学と形成したプラットフォームにて、合同FD・SDを実施する 3. 市内大学と形成したプラットフォームにて、防災に関する履修証明プログラムを実施する。 4. 市内大学と形成したプラットフォームにて、施設利用を促進する。	改革総合支援事業の設問内容が変更になったため、合同説明会に代わり、学生募集活動等に係る取組として豊田プラットフォーム共同で高校訪問とニーズ調査を実施した。 9月28日に「私立大学におけるインボイス制度～円滑な導入にむけて～」と題し、オンラインにてSD研修会を実施した。中京大学、愛知工業大学、豊田高専の参加があった。 6月20日に愛知工業大学本山キャンパスにおいて1名の受講者に対し、「社会人防災マイスター養成講座 講義・演習」を実施した。8月1日に研究発表会及び修了式を実施し、第15回の養成講座を修了した。10月3日愛知工業大学自由ヶ丘キャンパスにて「第16回社会人防災マイスター養成講座」開講式を行った。令和6年6月18日に演習を実施する予定である。 豊田PFにおいて豊田地域医療センターを構成員として受け入れたことを確認した。継続的な共同研究を視野にしている。	達成 達成 達成 達成
	(2) 地域社会への貢献	豊田高校 医療看護コース 検討会議	企画・地域交流課	高大連携協定に基づき、愛知県立豊田高等学校「医療・看護コース」との連携を継続する。	愛知県立豊田高等学校との高大連携協定に基づき、同校普通科に新設された「医療・看護コース」の教育内容充実と相互の教育・研究活動を活性化させる。	令和5年度のスケジュール通り「看護ページ」を進め12月に終了した。「健康生活支援演習」を8月3日、4日、7日の3日間で実施した。検討会議にて今年度の授業の振り返りを行い、次年度の授業内容を検討し計画を立案した。新学習指導要領に即した評価基準については豊田高校の案を基に確定する予定である。	達成
2 地域住民への生涯学習の場の提供	地域連携委員会	企画・地域交流課 総務課 学務課 経理課	ヘルスプロモーションセンターの事業計画を検討する。また、地域住民を対象とした公開講座を開催する。さらに、地域で働く専門職向け研修会を開催する。	1. 逢妻交流館、宮口上区等地区のイベントに参加する。	宮口上フェスタは11月4日に開催され、教職員として1名参加した。また、次年度の実施計画について検討した。	達成	
				2. ブラジル人学校 EAS で身体測定を行う。	3月14日にEASにおいて身体計測を実施した。身長、体重を測定した。35名の参加者があった。	達成	
				3. 豊根村教育委員会と共同で地域住民への健康教育等の生涯学習講座を行う。	3月26日に豊根村保健福祉センターにて「血行促進のためのフットマッサージ」と題し、開催した。7名の参加者があった。	達成	
				4. 健康寿命延伸に関する高齢者の摂食嚥下障害予防リスク評価システムを推進する。 ツバメ体操を普及する。	1月25日にスカイワードあさひ6階ひまわりホールにて摂食嚥下障害予防のための講義とつばめ体操を実施した。42名の参加者があった。	達成	
				5. 専門職向けの研修会や地域住民を対象とした公開講座を開催する。	以下のとおりを開催した。 専門職向け研修会 第1回：7月29日にZoomを利用し、「ケア実践の事例研究：「ケアの意味をみつめる事例研究」の進め方・まとめ方」を開催し、137名の参加者があった。 第2回：9月9日に本学にて、「学会で発表をしてみよう！」を開催し、6名の参加者があった。 第3回：10月14日にZoomを利用し、「看護職としてのキャリアとwell-being」を開催し、46名の参加者があった。 第4回：12月17日にZoomを利用し、「人とチームを育てるコーチングスキル」を開催し、88名の参加者があった。第5回：令和6年2月3日に本学にて、「ケアする人・される人が共に癒される癒しのアロマハンドマッサージ」を開催し、34名の参加者があった。 公開講座 第1回：令和6年3月9日に益富交流館にて、「あじわうは健康のもと」を開催し、25名の参加者があった。 第2回：令和6年3月16日にとよた市民活動センターにて、「居酒屋健康管理室」を開催し、12名の参加者があった。	達成	
3 社会的活動の促進	経営会議	総務課 企画・地域交流課	裁量労働制に基づき、兼職申請について適切に対応する。 豊田市の審議会委員等への就任について適切に対応する。	働かすぎによる健康面の観点から教育兼職の在り方について検討する。	兼職取扱要領に基づき運用しており、要領は教職員に周知している。	達成	
				1. 地域診断について助言を行う。	森田教授が対応している。	達成	
				2. 豊田市子どもにやさしいまちづくり推進協議会で助言を行う。	野口教授が対応している。	達成	
				3. 豊田市感染症診査協議会で助言を行う。	下間教授が対応している。	達成	
4. 豊田市不良な生活環境を解消するための審議会での助言を行う。	原田准教授が対応している。	達成					

社会連携
社会貢献

I 年度事業計画

計画項目			担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2024年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等	
業務運営 財務	1 法人・大学ガバナンスの維持・向上	(1) 法人・大学運営体制	①効率的な大学運営	経営会議	経理課	学長直下の経営会議、教育の質保証委員会及び人事委員会を適切に運営し、大学運営及び経営を安定化させる。また、教育の質保証のPDCAサイクルを円滑に循環させ、改善を図る。	学長直下の経営会議、教育の質保証委員会及び人事委員会を適切に運営し、大学運営及び経営を安定化させる。	策定した令和6年度予算をもとに、将来安定的な経営を目指すための経営改善計画を策定した。	達成
				経営会議	総務課	平成28年度～30年度に主要な規程の改訂が終了したので、残る規程を整備する。	平成28年度～30年度に主要な規程の改訂が終了したので、残る規程を整備する。	準則変更に基づいて学則、院則の見直しを行った。また、自己点検の中で整備不十分の評価がなされた規程類について、作成・改訂を行った。	達成
				経営会議	経理課	本学の将来構想について方向性（移転または現状維持）を決定する。	本学の将来構想について方向性（移転または現状維持）を決定する。	昨年度実施した建物調査により今後30年以上の耐久性があることが判明したため、現時点では移転しないこととなった。	達成
				-	総務課	会議資料を電子化保存し、会議のペーパーレス化を実現する。	会議資料を電子化保存し、会議のペーパーレス化を実現する。	令和4年度末に整備したiPadの貸出を行った。会議資料の保存についてTeamsを活用し、ペーパーレスで運用している。ペーパーレス化に伴い学内データサーバ容量の逼迫状況が課題となった。経営会議、教員会議等で周知を行い、改善に向けて事務局への協力を要請した。	達成
	(2) コンプライアンスの維持・向上	-	-	総務課	総務課	専門業務型裁量労働制を継続して実施し、適切な労働環境を維持する。	整備した労働環境（裁量労働制）の精査を行う。	準則変更に伴い本学就業規則の改訂を行った。労働者への説明の機会を設け、専門業務型裁量労働制の同意に向けて協定書更新の手続きを進めている。	達成
				教育の質保証委員会	総務課	公的研究費不正防止のための環境整備として、備品・予算執行管理・内部監査等を適正に実施し、啓発のための研修会を実施する。	公的研究費の不正使用防止に関するコンプライアンス教育及び啓発活動計画を完了する。	教員会議にて内部監査実施報告を行った。また、次年度に向けて不正防止計画の見直しを行った。後期内部監査は監査対象者の選定を行い、年度予算執行状況を確認しながら内部監査を行う。	達成
				人事委員会	総務課	適正な定員管理を実施し、教員の任期制度を適正に運用する。	1. 任期制の適正運用 2. 適正な定員管理 3. 適正な教員選考人事	令和5年度及び令和6年度に任期を迎える教員を対象として令和6年2月に面接を実施し、任期の更新可否等について対象者に通知した。 令和6年度教員配置を確定した。 教員選考規程等々に則り選考を実施した。	達成 達成 達成
	(3) 広報の充実	入試・広報委員会 大学院入試委員会	企画・地域交流課	-	最新情報を随時ホームページ・SNSに掲載する。また、広報戦略に基づき、広報計画を策定し、実行する体制を構築する。	1. ホームページ及び大学案内を活用し、高校生・受験生やその保護者を対象とし、本学に対する認知度及びイメージの更なる向上を目指す。またスマートフォン対応Webサイトを作成したためこれらを活用し、情報発信を行う。(Twitterによる情報発信)	ホームページにおいて、オープンキャンパス開催日のお知らせ、20周年記念事業「理事長特別講演会」の開催、タイ赤十字看護大学への学生派遣を掲載し、また1分動画についても更新した。テレビ愛知放送の「5時スタ」へ南谷准教授が「看護師不足 人材確保のための方策とは」をテーマとし出演した。また、ホームページにおいて、20周年記念事業「特別講演会」記念式典・記念講演会・シンポジウム」の開催、入試情報（推薦選抜・社会人特別選抜）を掲載し、トップページにて広報動画「救う人を、育む～拝啓 あの時、私。～」の広報を行った。さらに、ホームページにおいて、大学独自選抜、大学入学共通テスト（前期A・B）、大学入学共通テスト（後期）、6看護大学連携併願にかかる入試情報、能登半島エールプロジェクト、一般向け公開講座の開催について広報を行った。	達成	
					2. Zoomを用いた相談会を実施し、受験生と接する機会を増やす。	9月9日にZoom相談会を開催し、15名の参加があった。Zoom個別相談会総括を作成した。次年度の課題として参加者の受験状況から来年度の実施の有無と名称変更の検討が挙げられた。	達成		
					3. 進学情報サイトへ登録し多くの学生へPRする。進学説明会へ積極的に参加する。また、高校への出前講座を企画する。	大学概要、進学説明会の実施。質問箱の設置等、定期的なメール配信を実施した。リターゲティング広告からエン트리ーマッチ広告へ切り替え、11月・12月に実施した。また、進学説明会の2024卒参加者62名のうち15名、オープンキャンパスの2024卒参加者339名のうち104名の志願者があった。	達成		
					7月10日に豊田東高等学校にて出前講座を実施した。「看護師としてのキャリアを考える」テーマとし、24名の参加者があった。また、12/18（月）緑高等学校にてワークショップ「医療の世界を感じよう」を実施した。	達成			

	計画項目	担当委員会等	担当部署	最終ゴール（最終年度末の達成目標数値等）	2024 年度最終達成内容	実施内容	年度末の達成状況等			
業務運営 財務	2 経営・財政基盤の確立	(1) 経営意識の醸成	－	経理課	教職員に対し、四半期ごとに決算報告、光熱水費使用量報告を行う。	大学経営の方策については最高決定機関（経営会議）からの迅速な意思決定のもと、各種会議等を通じて、その取り組みを理解した上で、教職員が教育・研究活動を推進していけるような一体感を醸成する。	2月の経営会議にて審議決定された令和6年度予算について、教職員に周知した。収支改善計画についての審議も行った。	達成		
			経営会議	企画・地域交流課	経営会議の審議結果を定期的に教職員に報告する。	教授会、教員会議にて報告する。	教授会、教員会議にて審議結果、報告事項を報告している。	達成		
		(2) 経営基盤の確立	－	経理課	18歳人口減少を踏まえ、将来の収支予測を作成し、減収対策を検討する。また、私立学校等経常費補助金の獲得に努める。	事業実績と収入と経費の検証・分析を行い、健全な経営と事業活動におけるコストパフォーマンスを考慮したスクラップ&ビルドを実行する。共有可能な物品は、学内全体で共有し、無駄な整備を排除する。また、長期的な施設整備計画等に基づき、教育研究環境を維持することとする。	教育研究等環境の整備に関する方針を制定した。また、令和6年度予算において、収支改善計画を策定し、学園本部へ提出した。	達成		
	(3) 教育研究向上のための財源確保	教育の質保証委員会	経理課	サポーターズ募金を継続する。	大学経営に貴重な収入源となる寄付金確保に向けて、継続的な寄付の勧奨及びサポーターズ募金の募集を行い、広報活動としてHP上で寄付の勧奨及び、寄付者への定期的な大学案内と寄付のお願いを行う。	新たな寄付獲得にむけてDM発送先について確認した。また、新たな寄付獲得にむけて病院など赤十字関係施設へ相談した。		達成		
				資産運用による安定的な財源の確保を目指す。	普通預金に預けている資金を定期預金および社債等にあて、受取利息等による安定的な財源の確保を目指す。	満期となった特定資産において社債の購入を行った。また、年度末にむけて運用資産の確認をおこなった。		達成		
				科学研究費へ申請し、公的研究費の確保に努める。	外部資金（科学研究費）の申請を多くの教員が行うよう働きかけることで採択数を増やし、教育研究向上のための財源に充てる。	外部資金の情報を教員あて配信し、相談を受け付けた。		達成		
	3 教職員の確保と質的向上	(1) 適切な人事交流等	－	総務課	愛知県支部及び愛知県内日赤施設との職員の人事交流を維持する。	愛知県支部を始め管内赤十字施設、法人本部・赤十字5大学との人事交流の検討及び実施。	令和6年度の愛知県内赤十字施設からの事務職員転入について検討され、配置が確定した。	達成		
					中部ブロック内赤十字病院と連携して、看護職員を期限付き教員として受け入れ連携することを推進する。	教員において、臨床と教育を密接に繋ぐ関係を構築するため、中部ブロック内赤十字病院と出向制度を活用した人事交流を行う。	令和6年度は出向制度を活用した教員配置は行わない。	達成（出向制度の活用については現在は実施していない）		
	4 危機管理体制の構築等	(1) 危機管理と安全管理	災害対策委員会	総務課	日赤愛知災害管理センター（令和2年度開設）において、災害時には生活拠点支援が実施できるように体制を整備する。	日赤愛知災害管理センターにおいて、災害時には生活拠点支援が実施できるように体制を整備する。	日赤愛知災害管理センターでの支援活動は距離・人員・物品面も考慮し可能性が低い。大学付近の地域住民への支援を継続するため、災害対応個別マニュアルの見直しと「自主避難場所利用」に関する対応マニュアルの作成を行い、地域住民（宮口一色自治区）との覚書期間延長を行った。自治区新役員との連携は次年度4月以降に調整する。	達成		
					新型コロナウイルス感染予防対策本部衛生委員会 教務・学生委員会	総務課 学務課	感染症対策フローの見直しを行い、適切に運用する。	新型コロナウイルスを始めとした感染予防対策を継続する。	新型コロナウイルス感染予防対策本部は11月30日をもって解散した。今後は2名のICDに相談しながら担当委員会を中心に教授会にて審議決定していくこととなった。次年度に向けて感染対策について教授会、経営会議等で議論した。	達成
							学生への啓発活動を継続する。	川柳大会の入選作品を掲示し、学生の感染対策に対する意識向上を促した。一年間に行った学生への啓発活動について学生委員会内で総括した。		達成
		(2) 環境意識の向上とエコ対策	経営会議	経理課	光熱水費節約を継続的に実施する。	ECOマニュアルを作成し、教員、学生へ周知している。また、各講義室には未使用時の電灯OFFを促すよう、カードを貼り、周知する。	四半期光熱水費利用状況（前年度対比）を四半期ごとに教員会議において報告し、節電状況を周知した。	達成		

II 組織・運営

1. 2023年度 教員一覧

【専任教員】

職位		氏名	任期
学長	教授	鎌倉 やよい	2016年4月1日～2024年3月31日
学部長	教授	山田 聡子	2022年4月1日～2024年3月31日
研究科長	教授	百瀬 由美子	2022年4月1日～2024年3月31日
学術情報センター・図書館長	特任教授	下間 正隆	2018年9月1日～2024年3月31日
ヘルスプロモーションセンター長	教授	東野 督子	2023年4月1日～2025年3月31日

【看護学部】

領域	職位	氏名
一般教養	准教授	鈴木 寿摩
	准教授	松崎 久美
専門基礎	特任教授	下間 正隆
	教授	森田 一三
基礎看護学	助教	高見 精一郎
	教授	山田 聡子
	准教授	中島 佳緒里
	准教授	巻野 雄介
	講師	竹内 貴子
	助教	近藤 絵美
	助教	西久保 ひろみ
	助手	高下 翔
	助手	福岡 友理恵
	看護管理学	准教授
助教		下久保 亮太
成人看護学	教授	東野 督子
	教授	カルデナス暁東
	准教授	石黒 千映子
	講師	栩川 綾子
	助教	田口 栄子
	助教	河村 諒
	助教	谷口 純平
	助教	石田 咲
災害看護学	助手	石原 佳代子
	特任教授	小林 洋子
	講師	長尾 佳世子
老年看護学	講師	藤井 愛海
	教授	小林 尚司
	准教授	清水 みどり
	准教授	天木 伸子
	講師	橋本 亜弓
在宅看護学	助教	近藤 香苗
	特任教授	百瀬 由美子
	講師	深谷 由美
母性看護学	講師	武田 智美
	教授	野口 眞弓
	准教授	岡津 愛子
小児看護学	講師	千葉 朝子
	助手	草深 真菜
	特任教授	大西 文子
	教授	岡田 摩理
精神看護学	准教授	神道 那実
	講師	遠藤 幸子
	助手	鳥居 賀乃子
公衆衛生看護学	准教授	原田 真澄
	助教	飯田 大輔
	助教	山本 壮則
	教授	長谷川 喜代美
	准教授	清水 美代子

【大学院 修士課程】

領域・分野		職位	氏名
学長		教授	鎌倉 やよい
研究科長		特任教授	百瀬 由美子
基礎育成看護学	看護管理学	准教授	南谷 志野
		教授	山田 聡子
	看護教育・技術学	准教授	中島 佳緒里
		准教授	巻野 雄介
	成人看護学	教授	東野 督子
		教授	カルデナス暁東
	母性看護学	准教授	石黒 千映子
		教授	野口 眞弓
	小児看護学	准教授	岡津 愛子
		特任教授	大西 文子
老年・在宅看護学	教授	岡田 摩理	
	准教授	神道 那実	
	特任教授	百瀬 由美子	
	教授	小林 尚司	
地域共生看護学	准教授	清水 みどり	
	准教授	天木 伸子	
	准教授	原田 真澄	
精神看護学	教授	長谷川 喜代美	
	教授	森田 一三	
地域看護学	准教授	清水 美代子	
	特任教授	小林 洋子	
	講師	長尾 佳世子	
災害看護学	講師	藤井 愛海	
	教授	下間 正隆	
共通科目		教授	下間 正隆

【大学院 博士後期課程】

職位	氏名
教授(学長)	鎌倉 やよい
特任教授(研究科長)	百瀬 由美子
教授	山田 聡子
教授	野口 眞弓
特任教授	大西 文子
教授	東野 督子
教授	森田 一三
教授	長谷川 喜代美
教授	カルデナス暁東
教授	小林 尚司

2. 2023年度 職員一覧

【事務局】

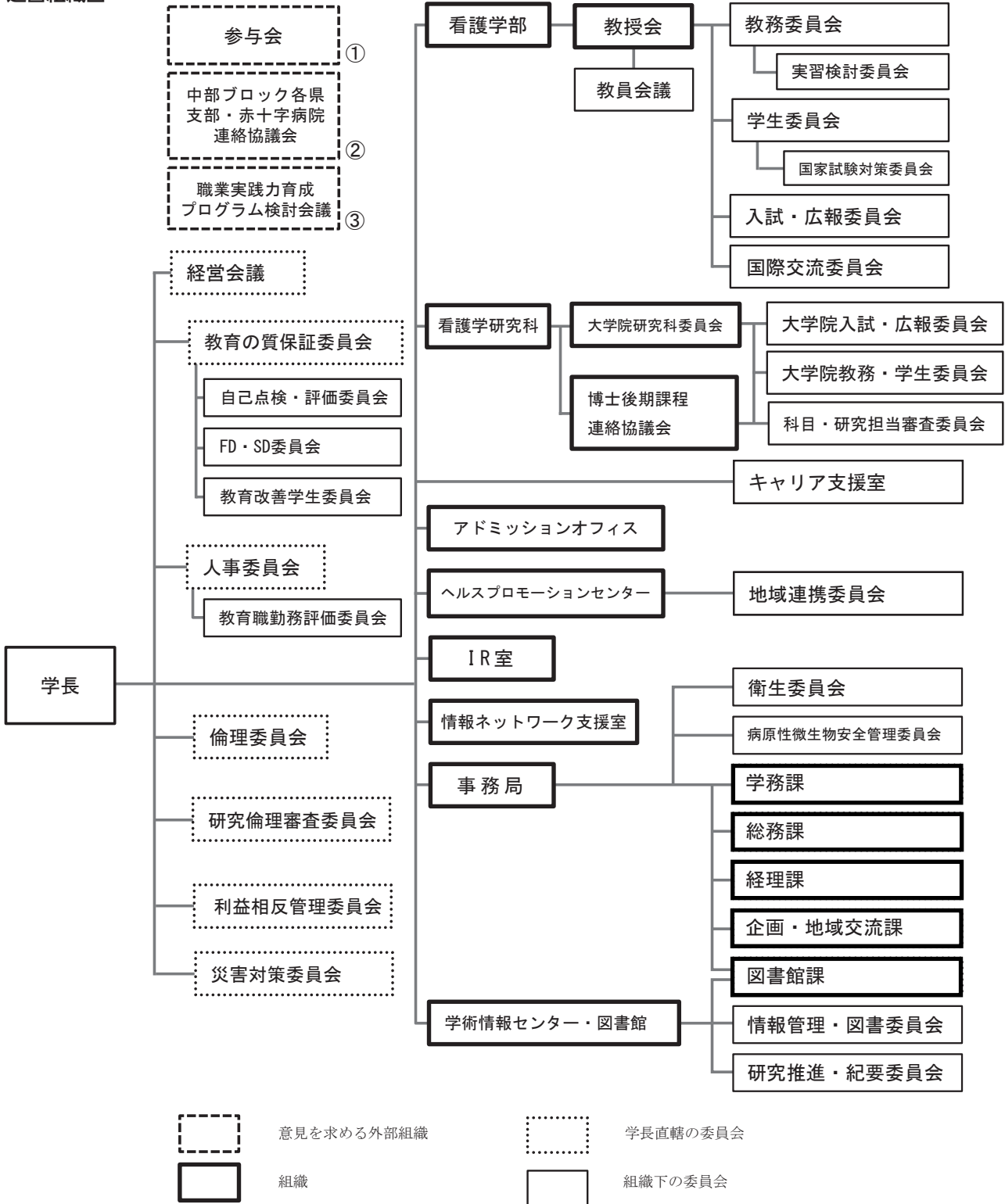
職名	氏名
事務局長	小林 寿
参事	ロベル 智子
学務課長	加藤 信子
係長	鳥居 貴代
係長	木村 美希
主事	芝口 太一
主事	松原 なつほ
一般（契約）	三木 幸子
総務課長	恒川 美智子
係長	佐藤 遼
係長	谷川 歩
主事	稲垣 玲
経理課長（兼）	恒川 美智子
係長	田内 真由美
係長	櫛田 堅二
主事	澤村 瑛美
主事	洞口 詩織里
一般（契約）	岩田 高人
企画・地域交流課長	中島 伸一
係長	中根 春波
主事	寺本 庄吾
主事	奥 映理菜

【学術情報センター・図書館】

職名	氏名
学術情報センター・図書館長	下間 正隆
図書館課長（兼）	ロベル 智子
司書	村瀬 悠香代
司書（嘱託）	水野 真理子
一般（嘱託）	池上 健二
司書（契約）	高橋 美帆

3. 運営組織

運営組織図



 意見を求める外部組織 学長直轄の委員会
 組織 組織下の委員会

①、②は経営会議が所掌する
 ③は教育の質保証委員会が所掌する

(2024. 1. 22 経営会議承認)

4. 内部質保証

1) 今年度の取り組み

学校法人日本赤十字学園第3次中期（2019～2023年度）に基づき、教育の質保証委員会が下部組織である学部教務委員会、大学院教務学生会及びFD・SD委員会で遂行すべき教育の質向上に関する事項について教育の質保証委員会において報告、検討し、今年度の達成状況を把握し進捗管理を行った。2023年度は第三期中期計画の最終年度であり、中期目標の最終達成状況の評価も行い、すべての項目において達成していることを確認、承認した。また、学園のランドデザイン策定に基づき教育に関する本学の第4次中期計画及び2024年度計画を作成した。

次年度に大学基準協会による大学機関別認証評価を受審するため、自己点検評価報告書を作成し、年度末に提出した。この点検評価及び報告書作成に際し、不足していた教育の質保証に関する方針の策定や規程等の修正を行った。

(1) 第3次中期計画における令和5年度目標の達成状況

内部質保証に関する4半期ごとの目標達成状況をPDCAサイクルの円滑な運用とともに、教育の質保証委員会で確認した。アセスメントポリシーは、学園のランドデザイン策定時の用語変更指示に従い、アセスメントプランに変更した。ルーブリック評価に関しては、卒業時の評価にはそぐわない等の理由により、各ディプロマ・ポリシーで求める能力を要約した力を5段階で評価することとした。また、授業評価アンケート、キャンパスライフアンケート、看護教育における卒業時の技術到達度自己評価を実施し、結果をホームページに掲載した。さらに、教育改善学生委員会については、前期はWeb会議、後期は学生委員の日程調整が困難なため書面審議として実施した。キャンパスライフアンケート及び教育改善学生委員会において、学部生から要望の多かったトイレ環境の改善、大学院生の書類提出のデジタル化の推進等に対応した。

(2) 内部質保証システムの見直し

内部質保証の実施をより具体的に、円滑に機能させるために、内部質保証推進規程の改定と実施要綱の見直しを行った。主な改定は、内部質保証全体について責任を持つ部署やIR室の位置づけや機能の明確化、運営組織図における外部組織の位置づけを整理した。

(3) 学修ポートフォリオシステムの構築

学生が学修の過程および成果を評価することにより、次に取り組むべき課題をみつけステップアップすることを支援するため、2022年度からプロジェクトチームを設置し検討を進めてきた。

2023年度には学修ポートフォリオシステムを構築し、学務システムのメソフィア上で2024年度より運用する準備を整えた。

このシステムにより、学生はセメスター毎に自身の取り組み状況と成績を振り返り、教員との面談を通して学修課題と対策を明確化し、次のセメスターでの学修に役立てることができるようになる。また、看護学実習にも同システムを活用し、実習科目ごとに看護技術到達度の振り返りや目標管理を行い、次の実習に学びをつなげていくことが期待できる。

(4) 取り組みや評価の基準を明確にするための各種方針の策定

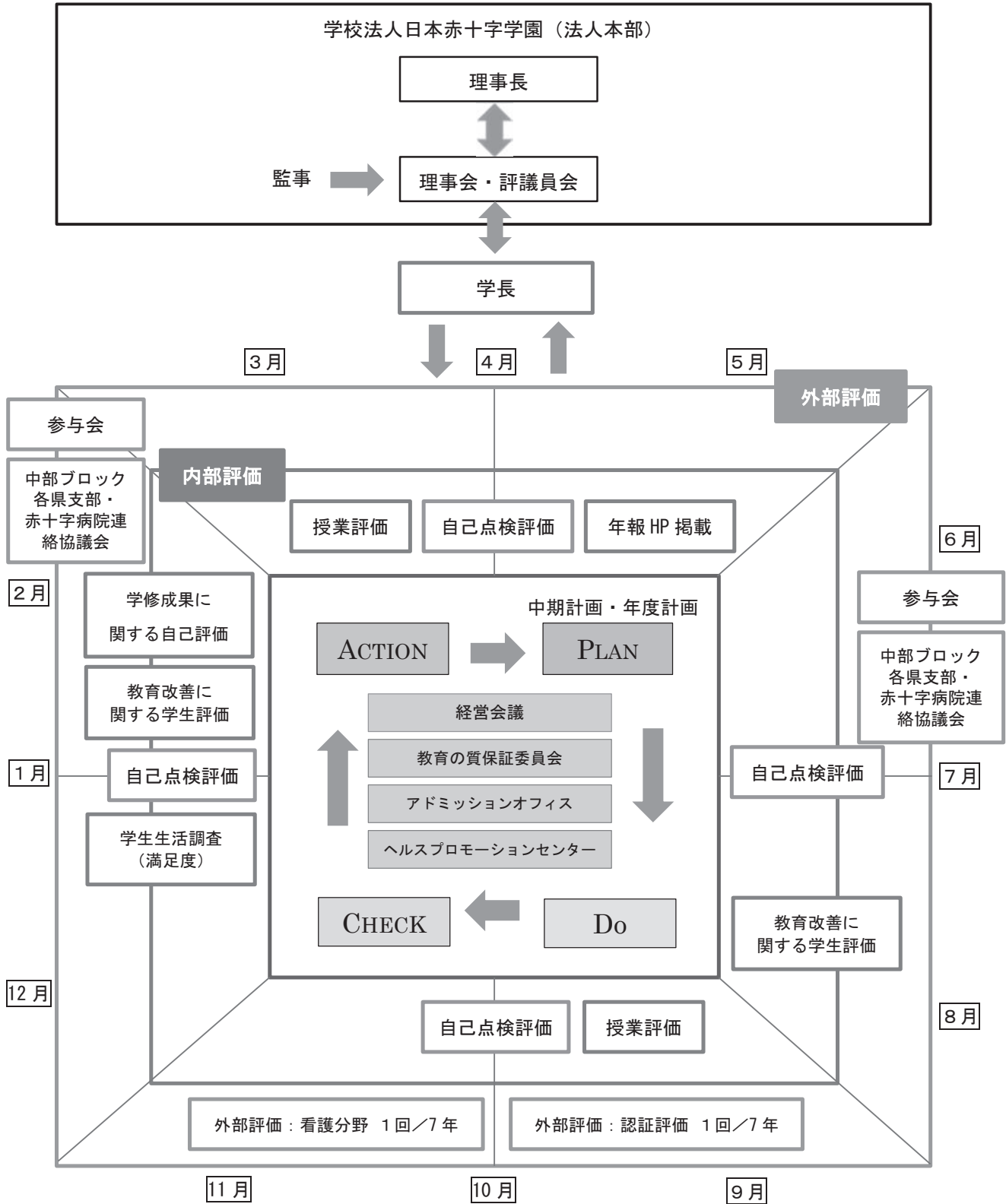
内部質保証を推進し点検・評価を行ったところ、教育、学生生活及び教員組織等の基本方針の策定が不足していることが判明し、①3ポリシー（DP、CP、AP）策定の基本方針、②学生支援方針、③本学が求める教員像及び教員組織の編成方針の策定を行った。

(5) 次年度に予定している大学基準協会による認証評価受審のための自己点検・評価報告書を作成した。

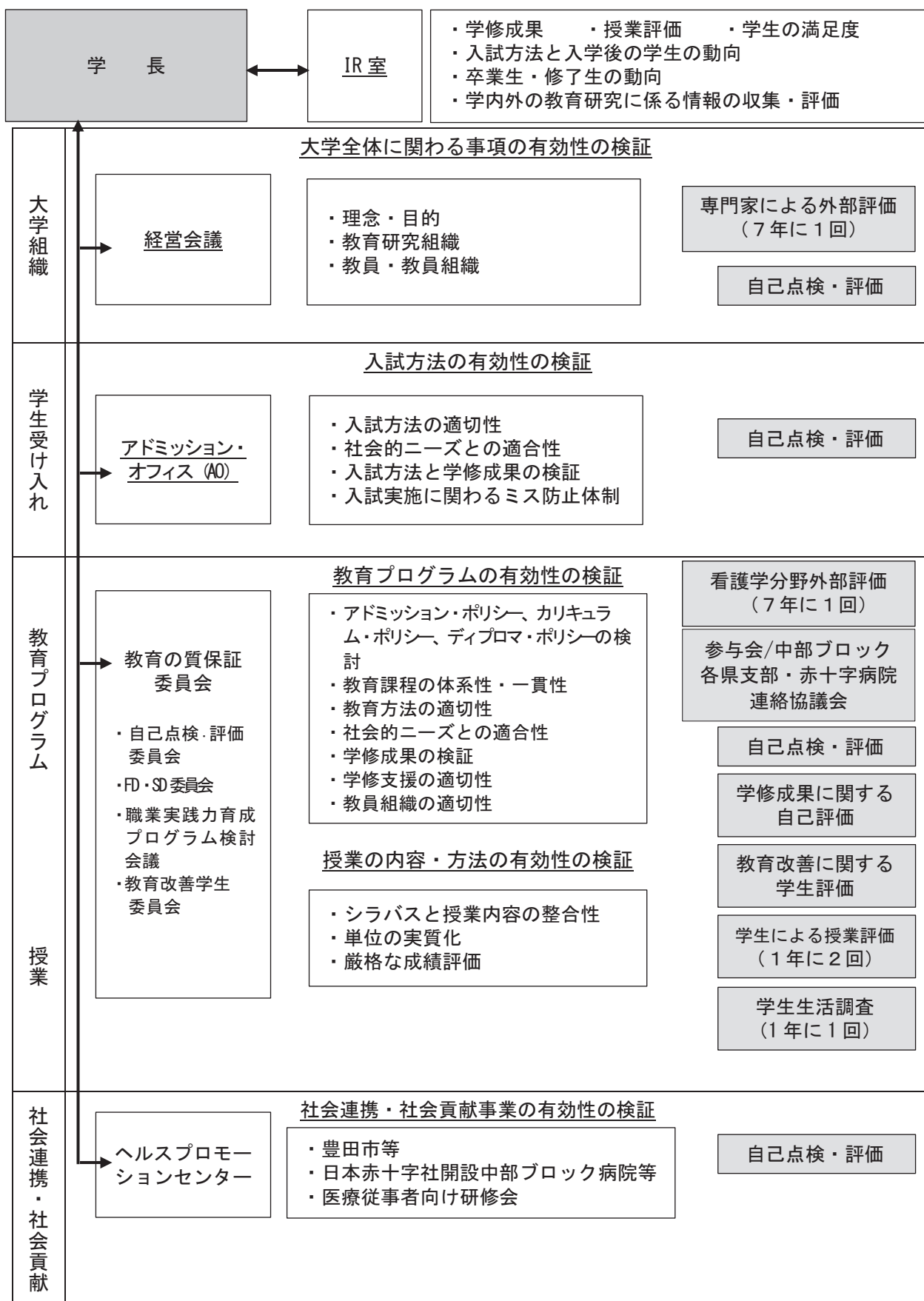
2) 次年度に向けての課題

次年度は大学基準協会による機関別認証評価を受審するため、報告書の追加資料や現地調査の対応を適切に行う。また、今年度構築したメソフィアを活用した学修ポートフォリオの運用を開始し、評価を行うとともに、改善点は速やかに修正を行う。

3) 評価体制図



4) 内部質保証システム体系図



5. 大学運営

1) 今年度の取り組み

学校法人日本赤十字学園第3次中期（2019～2023年度）に基づき、経営会議において大学運営に関する2023年度計画を策定し、4半期ごとのアクションプランを示し、事業を所掌する各委員会等で実施結果を評価し、PDCAサイクルを機能させた。2023年度計画及び第3次中期計画において立案された計画は概ね達成し、その結果を日本赤十字学園に報告し承認を得た。

2023年度の重点事業は、将来構想として日本赤十字学園の2040年に向けたグランドデザインの策定を基に本学の第4次中期計画を立案すること、開学20周年事業を実施すること、及び次年度受審に向けた大学認証評価の自己点検・評価報告書を作成することであった。

(1) 将来構想

日本赤十字学園が策定した2040年に向けたグランドデザインに基づき、本学の第4次中期計画を作成した。学園全体で協働して取り組む事業を踏まえ、各大学では、大学教育の質保証や大学運営の観点を網羅する大学基準協会の示す大学認証評価基準を枠組みとして作成した。

建物については、コンクリート等基本構造の問題はないことの診断結果を確認し、空調、給排水及びネットワーク関係について長寿命計画を策定した。

また、大学の安定的運営を継続するために、収支計画改善中期計画を策定し、学園本部に提出した。

(2) 開学20周年記念事業

・LEDビジョンの設置

本学の講堂に高画質のLEDビジョンの最新機器を導入した。約600人収容の講義室として、また他機関とのネットワークによる交流が円滑になり、全国6つの日本赤十字看護大学が協働するオンライン合同授業の提案や他大学及び研究機関と連携した公開講座や学術講演、演奏会などの芸術講座も開催することが可能となった。さらに、地域の教育機関、医療機関、学術団体がこのLEDビジョンを活用することも可能になり、20周年を機にますます地域に開かれた大学として積極的に貢献していきたい。

・「赤十字学」構築に向けた赤十字関連史料のデジタルアーカイブ化

愛知県犬山市博物館明治村所有、本学保管の博愛社、日本赤十字社が作成した原簿冊、日本赤十字社を中心とした活動記録写真等を、二次資料として広く、かつ長期的に活用していただくためにデジタルアーカイブ化するための準備をすすめた。

・いとすぎプロジェクト

イタリア・ソルフェリーノの丘から日本赤十字社経由で名古屋第一赤十字病院（現：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院）に贈られた種から育てられた糸杉が本学に移植され敷地内に1本のみ残っており、この貴重な糸杉を今後も維持していくために倒木防止の支柱の設置など維持管理していくとともに、開学20周年を記念してこの糸杉を挿し木により増やし、本学で学ぶ若い学生たちが赤十字のシンボルツリーである糸杉について歴史的背景を含めて学び、赤十字の理念について意識を高めるプロジェクトを実施した。

その他、災害看護学教育の環境整備、国際性豊かな学生の育成、e-ポートフォリオの導入等を行った。

(3) 大学基準協会による機関別認証評価受審に向けた準備

毎年度行っている自己点検・評価をした結果学内規程において、不足しているものについては新たに整備及び改定した。また、認証評価受審のための自己点検評価報告書を作成し、経営会議において承認した上で構成員に周知し、大学基準協会に提出した。

(4) 助成金の獲得

令和5年度私立大学等改革総合支援事業について、タイプ1（「Society5.0」の実現等に向けた特色ある教育の展開）とタイプ3（地域社会の発展への貢献）を申請し、選定された。

2) 次年度に向けての課題

次年度は、7年に1回義務付けられている外部機関による機関別認証評価として、大学基準協会の認証評価を受審し、必要に応じた対応を的確に実施する。また、大学に求められているデータポリシーに関する規程の整備やクロスアポイントメント制度等の検討を行う必要がある。

3) 大学運営委員会組織および委員一覧

委員会名	備考	委員
経営会議		◎学長、学部長、研究科長、事務局長、学術情報センター・図書館長、ヘルスプロモーションセンター長、IR室長、ロベル参事
人事委員会	(人事委員会)	◎学長、学部長、研究科長、学術情報センター・図書館長、事務局長
	教育職勤務評価委員会	◎学部長、研究科長、学術情報センター・図書館長、事務局長
倫理委員会		◎学長、学部長、研究科長、事務局長、総務課長
教育の質保証委員会	(教育の質保証委員会)	◎学長、学部長、研究科長、事務局長、学術情報センター・図書館長、教務委員会委員長、大学院・教務学生委員会委員長、FD・SD委員会委員長、自己点検・評価委員会委員長、その他学長が指名する者、総務課長、学務課長、ロベル参事
	自己点検・評価委員会	◎百瀬特任教授、大西特任教授、山田教授、小林(尚)教授、長谷川教授、藤井講師
	FD・SD委員会	◎長谷川教授、事務局長、東野教授、岡田教授
	職業実践力育成プログラム検討会議	◎研究科長、学部長、大学院・教務学生委員会委員長、秋江百合子(日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院)、林真千子(豊田厚生病院)、磯和秀子(刈谷豊田総合病院)、佐野マズミ(トヨタ記念病院)
	教育改善学生委員会	◎学長、学部長、研究科長、看護学部生各学年2名、修士・博士課程学生1名
研究倫理審査委員会		◎長谷川教授、森田教授、山田教授、東野教授、小林(洋)特任教授、百瀬特任教授、小林(尚)教授、岡田教授、稲垣委員、児玉委員、ロベル参事
利益相反管理委員会		◎学長、学部長、研究科長、学術情報センター・図書館長、ヘルスプロモーションセンター長、その他委員長が必要と認めた者、総務課長
災害対策委員会		◎小林(洋)特任教授、長尾講師、藤井講師、河村助教、飯田助教、総務課
新型コロナウイルス感染予防対策本部		◎学長、学部長、研究科長、事務局長、下間特任教授、森田教授、東野教授、小林(洋)特任教授、小林(尚)教授、岡田教授、長谷川教授、学務課長、総務課長、企画・地域交流課長、ロベル参事
DX推進プロジェクト		◎学長、森田教授、山田教授、東野教授、小林(尚)教授、巻野准教授、原田准教授、竹内講師、棚川講師、橋本講師、高下助手、事務局長、学務課長、経理課長、経理課係長
高大連携プロジェクト		◎学部長、岡田教授、巻野准教授、南谷准教授、中島准教授、高見助教、近藤(絵)助教、学務課、学長(オブザーバー)、森田教授(オブザーバー)
学修ポートフォリオプロジェクト		◎長谷川教授、小林(尚)教授、岡田教授、原田准教授、学務課長
20周年記念プロジェクト		◎事務局長、森田教授、東野教授、小林(洋)特任教授、ロベル参事

4) 大学運営関係委員会 2023 年度活動報告

(1) 経営会議

活動目的	<p>1) 本学の中期計画及び毎年度の事業計画に関すること 2) 教育研究組織の適切性の評価に関すること 3) 本学職員の人事・サービス管理等の方針に関すること 4) 本学が定める重要な規程の制定又は改廃に関すること 5) 予算の作成及び執行並びに決算に関する重要な事項 6) 本学の財産に関する重要な事項 7) 教授会及び研究科委員会の審議等に付される重要な事項 8) その他本学の経営に関する重要な事項（経営に影響する場合は、教育研究に関するものを含む）</p>
構成員	<p>委員長：鎌倉やよい 委員：山田聡子、百瀬由美子、下間正隆、小林寿、東野督子、森田一三、ロベル智子 事務局：企画・地域交流課 中島伸一、中根春波</p>
開催回数	16回
活動概要	<p>経営会議にて、以下の事項を審議した。</p> <p>第1回 (1) 令和4年度中長期計画第4四半期報告について (2) 令和5年度第三次中期計画について (3) 開学20周年記念プロジェクトの公表について (4) 学長候補者選考委員の選出について (5) 教育の質保証委員会規程（案）の改正について (6) 日本赤十字豊田看護大学安全保障輸出管理規程等について (7) 学外共同研究員規程について (8) 研究倫理審査委員会委員の一部変更について</p> <p>第2回 (1) 令和5年度第三次中期計画について (2) 教授会規程の改正について (3) 内部質保証推進規程案等について</p> <p>第3回 (1) 20周年記念事業収支計画について (2) 科学研究費の間接経費について (3) ガバナンスコードの点検結果報告書内の事項について (4) ヘルスプロモーションセンター規程について</p> <p>第4回 (1) 第三次中期計画 第一四半期報告 (2) グランドデザイン（案）に基づく中期計画（案）について</p> <p>第5回 (1) 「内部質保証推進規程」の改正について (2) 「内部質保証実施要綱」の改正について (3) 電子帳簿法事務処理要領の制定について (4) 経常費補助金（教育の質に係る客観的指標、改革総合支援事業） (5) グランドデザインに基づく中期計画の作成について</p> <p>第6回 (1) 学長選考について (2) 日本赤十字豊田看護大学における研究データの保管等に関する内規 (3) 電子帳簿法事務処理要領の制定について (4) 令和6年度予算編成について (5) 10年計画整備について (6) 日本赤十字豊田看護大学学生規程 別記様式第5号の改正について (7) 職業実践力育成プログラム（BP）の申請について (8) 履修証明プログラム検討会議要綱の改正について (9) 令和6年度年間スケジュールについて</p> <p>第7回 (1) 日本赤十字豊田看護大学運営組織図の変更について (2) 学部長および研究科長の選考委員会の設置について (3) 入学資格審査規程の改正について (4) 障がいのある学生に対する支援規程の改正について (5) 第三次中期計画 第二四半期報告 (6) 寄付受領に関する取り決め (7) 2024年度年間スケジュールについて (8) 学則変更について (9) 学長の選考について</p>

活動概要	第8回	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学部長の選考について (2) 研究科長の選考について (3) キャリア支援室長について (4) キャリア支援室規程の制定について (5) 特命教授規程の制定について (6) 教員資格審査基準規程の改正について (7) 教員選考規程の改正について (8) 教員等人事手続規程の改正について (9) 学部・大学院 科目等履修生規程の改正について (10) 学部・大学院 聴講生規程の改正について (11) 学部・大学院 研究生規程の改正について (12) 大学院 履修証明プログラム規程の改正について (13) 学園プロジェクトの本学組織上の位置づけについて (14) 学校法人日本赤十字学園の2040年に向けたグランドデザイン及び学校法人日本赤十字学園 第四次中期計画
	第9回	<ul style="list-style-type: none"> (1) 日本赤十字豊田看護大学「日本赤十字学園大規模災害被災学生奨学費」事業に関する規程の改正について (2) 学校法人日本赤十字学園 第四次中期計画に基づく2024年度計画 (3) 学則変更について (4) 院則変更について (5) 基幹教員について (6) 2024年度各種委員会一覧(案)について (7) 学校法人日本赤十字学園 令和6年度事業計画
	第10回	<ul style="list-style-type: none"> (1) 特命教授規程について
	臨時	<ul style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度当初予算(案)について (2) 固定資産整備・改修計画について
	第11回	<ul style="list-style-type: none"> (1) 第三次中期計画 第三四半期報告 (2) 第三次中期計画の最終評価について (3) 学校法人日本赤十字学園 第四次中期計画に基づく2024年度計画 (4) 委員会等の位置づけ変更について (5) 研究推進・紀要委員会規程の変更について (6) 2024年度各種委員会一覧(案)について (7) 健康管理規程の改正について (8) 学術情報センター・図書館長の任命・任期について (9) 能登半島地震にかかる大学としての支援について
	第12回	<ul style="list-style-type: none"> (1) 第四次中期計画 (1) (2) (3) (2) 本学が求める教員像及び教員組織の編成に関する方針 (3) 教育研究等環境に関する方針の策定について (4) 令和6年度予算(案)について (5) 学校法人日本赤十字学園大規模災害被災学生奨学費の申請について (6) 大学職員就業規則の改正について (7) 各種規程・要綱の改正について <ul style="list-style-type: none"> ①履修規程②保健師教育課程専攻規程③職業実践力育成プログラム検討会議要綱④教授会規程 ⑤学術情報センター・図書館規程⑥組織分掌規程⑦情報管理・図書委員会規程 ⑧研究推進・紀要委員会規程⑨赤十字史料室規程⑩アドミッションオフィス規程
	第13回	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「国際交流等に伴う危機管理対策要項」の改正について (2) 「海外における事故等緊急事態対応マニュアル」の制定について
	第14回	<ul style="list-style-type: none"> (1) 第三次中期計画 第四四半期報告 (2) 本学が求める教員像及び教員組織の編成に関する方針 (3) 認証評価にかかる提出書類について (4) 修士課程 履修規程の改正 (5) 履修証明プログラムに関する規程の改正 (6) 令和5年度ガバナンス・コード遵守状況・取組み実施状況にかかる点検および点検結果の公表 (7) 令和6年度 日本赤十字豊田看護大学 公的研究費不正防止計画 (8) 日本赤十字豊田看護大学における公的研究費の不正使用防止に関するコンプライアンス教育及び啓発活動計画 (9) 就業規則改正にかかる専門業務型裁量労働制に関する労使協定書 (10) 再雇用職員就業規則の改正 (11) 法人本部による内部監査における改善すべき事項の検討 (12) 次年度の本学の感染予防対策について
	臨時	<ul style="list-style-type: none"> (1) 認証評価にかかる提出書類について
	次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 第4次中期計画の2024年後事業計画が順調に進むよう進捗管理を行う。 2) 赤字予算の解消に向けて、私学助成金、科学研究費の間接経費、寄付等の獲得の増額をはじめとする経営改善計画を実行する。 3) 看護学部及び看護学研究科の定員を確保する。

(2) 人事委員会

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教員等の採用、昇任、任期、解雇、懲戒等に関する事項 2) 当事者の意に反する降任、配置換、兼務、休職に関する事項 3) 任期終了時における業績評価及び再任可否に関する事項 4) 任期終了時の処遇に関する事項 5) 前各号に規定するもののほか、学長の指示に基づきその権限に属する事項
構成員	<p>委員長：鎌倉やよい</p> <p>委員：山田聡子、百瀬由美子、下間正隆、小林寿</p> <p>事務局：総務課 恒川美智子、谷川歩</p>
委員会開催回数	17回
活動概要	<p>以下の事項を審議した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 領域変更について（1件） 2) 退職等に伴う公募について（8件） 基礎看護学領域（2件）、成人看護学領域、小児看護学領域、老年看護学領域、在宅看護学領域、公衆衛生看護学領域 3) 「教員の任期に関する規程」に基づく面接等手続きについて 4) 教員の昇任について 看護管理学領域 1名、基礎看護学領域 1名、成人看護学領域 1名、在宅看護学領域 1名、災害看護学領域 1名
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 1) 教員定数と教員組織編成の検討

(3)教育の質保証委員会

活動目的	<p>1) 人材育成目標及び教育プログラム編成の基本的事項に関すること</p> <p>2) 教職員の資質・能力の向上と開発の基本的事項に関すること</p> <p>3) 中長期計画及び年度計画、自己点検・評価に関すること</p> <p>4) カリキュラム検討及び改正に関すること</p> <p>5) 職業実践力育成プログラム検討に関すること</p> <p>6) 教育改善に関すること</p> <p>7) その他全学的な教学マネジメント及び内部質保証に関すること</p>
構成員	<p>委員長：鎌倉やよい</p> <p>委員：山田聡子、百瀬由美子、下間正隆、長谷川喜代美、小林尚司、小林寿、ロベル智子、加藤信子、恒川美智子</p> <p>事務局：学務課 加藤信子</p>
委員会開催回数	14回
活動概要	<p>以下の事項を審議した。</p> <p>第1回 令和5年度 アクションプランについて 履修証明プログラム検討会議要綱の改正について 授業評価アンケートに関する評価委員について</p> <p>第2回 老年看護 CNS コースの新設に伴う教育課程変更について 日本赤十字豊田看護大学内部質保証推進規程（案）等 令和5年度 アクションプランについて</p> <p>第3回 履修証明プログラムに関する規程の改正について 学部 DP の学修成果評価方法について 第三次中期計画書（令和5年度）第一四半期達成内容について メール審議 対話型 AI（人工知能）などの生成 AI 利用に際しての留意点について</p> <p>第4回 第三次中期計画書（令和5年度）の記載内容について アセスメントポリシーに基づく自己点検評価シートの記載内容について 学部 DP の学修成果評価方法について</p> <p>第5回 「内部質保証推進規程」の改正について 「内部質保証実施要綱」の改正について 「学修成果の自己評価」選択肢について グランドデザインに基づく中期計画について</p> <p>臨時 看護学部 履修要件の見直しに関する方向性について グランドデザインに基づく中期計画について</p> <p>第6回 日本赤十字豊田看護大学 大学学則の一部改正について 令和5年度 私立大学等改革総合支援事業 みんなのトイレについて 学修時間に関する調査について 看護学部 履修要件の見直しに関する方向性について 第三次中期計画書（令和5年度）の第二四半期達成内容について グランドデザインに基づく中期計画について</p> <p>第7回 学修時間に関する調査について 看護学部 履修要件の見直しに関する方向性について 日本赤十字豊田看護大学 教育の質保証委員会規程の一部改正について 授業評価アンケートに関する評価委員会について アクティブラーニングのノート PC 更新及び実習室等の PC 整備について グランドデザインに基づく中期計画について</p> <p>第8回 履修規程の一部改正についての方向性について 看護学部 履修要件の見直しに関する方向性について 学修行動に関する調査について</p> <p>第9回 老年 CNS コース開設に伴うカリキュラムポリシー及びカリキュラムマップの変更について 1 単位の授業時間について 第三次中期計画書（令和5年度）の第三四半期達成内容について</p> <p>第10回 学生支援方針の策定に向けて 大学院共同看護学専攻ディプロマポリシーの見直しについて 教育改善学生委員会への回答について 公的欠席学生へのオンライン配信に関して</p>

活動概要	<p>第11回 学生支援方針の策定について 「3つのポリシー策定の基本方針」の策定について 「本学が求める教員像及び教員組織の編成に関する方針」の策定について 「教育研究等環境整備に関する方針」の策定について ディプロマサブリメントの作成にかかるカリキュラムマップの適用等について アセスメントプランへの文言変更について 令和5年度委員会活動報告について</p> <p>第12回 キャンパスライフアンケートについて 認証評価にかかる提出書類について 第三次中期計画書（令和5年度）の第4四半期達成内容について 令和5年度委員会活動報告について</p> <p>【決定事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本赤十字豊田看護大学内部質保証推進規程等の策定について 「日本赤十字豊田看護大学内部質保証推進規程」及び「日本赤十字豊田看護大学内部質保証推進要綱」を策定した。 2) 老年CNSコースの新設に伴う教育課程について 令和6年度老年CNSコースの新設に向けて大学院修士課程の教育課程の変更を決定した。 3) 看護学部ディプロマポリシーの学修成果評価方法について 看護学部ディプロマポリシーの学修成果の評価方法を、ルーブリックからリッカート方式にすることを決定した。 4) 社会人基礎力アンケートの実施について 学生の社会人基礎力の能力の向上を図ることを目的に、社会人基礎力アンケートを実施することを決定した。 5) 対話型AI（人工知能）などの生成AI利用に際しての留意点について 対話型AI（人工知能）などの生成AI利用に際しての留意点を決定した。 6) 学修ポートフォリオについて 令和6年度から学修ポートフォリオを学務システムの機能に追加し、運用方法を決定した。 7) 保護者ポータルについて 令和6年度から保護者ポータルを学務システムの機能に追加し、運用方法を決定した。 8) みんなのトイレについて 多様な背景を持った学生への支援のため、みんなのトイレの表示を決定した。 9) 入学前教育について 入学前課題の勉強ができるよう関連図書を図書館に置くことを決定した。 入学時の英語プレイズメントテストについて、令和6年度からGTEC Academic 2技能テストを行うことを決定した。 10) 看護学部 履修要件の見直しについて 令和6年度入学生から、専門基礎科目（必修）及び基礎看護学実習Ⅱの単位を取得していることを各論実習の条件とすることを決定した。 11) 電子教科書の導入について 電子教科書を導入し、令和6年度入学生から科目担当者の判断により利用していくことを決定した。 12) 教育改善学生委員会への回答について 教育改善学生委員会からの意見に対して改善状況を報告することを決定した。 13) ディプロマサブリメントの作成にかかるカリキュラムマップの適用等について カリキュラムの切り替えに伴い、令和5年度の卒業生（令和2年度入学生）からディプロマサブリメントの内容を修正することを決定した。 14) 各方針の策定について 「学生支援方針」、「3つのポリシー策定の基本方針」、「本学が求める教員像及び教員組織の編成に関する方針」及び「教育研究等環境整備に関する方針」を決定した。 15) 認証評価にかかる提出書類について 大学基準協会が実施する認証評価にかかる提出書類を決定した。
	次年度の課題

(4) 自己点検・評価委員会

活動目的	1) 教育、研究に関する事項 2) 施設、設備に関する事項 3) 文部科学大臣の認証を受けた評価機構の受審に関する事項 4) 評価結果の公表及び改善に関する事項 5) その他学長が必要と認める事項
構成員	委員長：百瀬由美子 委員：山田聡子、大西文子、長谷川喜代美、小林尚司、藤井愛海、恒川美智子 事務局：総務課 佐藤遼
委員会 開催回数	18回
活動概要	1) 教育、研究に関する事項 (1) 「内部質保証推進規程」と、内部質保証推進に係る具体的な運用及び手続きのために「内部質保証実施要綱」を定め、内部質保証を確保するための体制を整備した。整備した内部質保証実施要綱に基づき、令和5年度から自己点検評価シートによる自己点検を開始した。 (2) 2023年1月にキャンパスライフアンケートをMicrosoft formsで実施した。なお、経年変化を確認するため、調査の内容は昨年とほぼ同じだが、大学院の「自習環境」は、大学院生の実状にあわせた設問に変更した（変更前：ラーニング・ポッド等 変更後：院生室、サテライトキャンパス）。 メンフィア配信、学内ポスター掲示及び講義時の呼びかけを実施し、昨年に比べアンケート回収率が増加した（48.0% → 48.28%）。 2) 施設、設備に関する事項 該当事項なし。 3) 文部科学大臣の認証を受けた評価機構の受審に関する事項 2024年度大学基準協会認証評価受審に向けて、5月と6月に各委員会及び各部署に自己点検の実施と報告書の作成依頼を行った。その後、提出された各報告書の校正と根拠資料の確認、必要な規程及び基本方針を整備した。 4) 評価結果の公表及び改善に関する事項 発刊した2022年度年報を赤十字関係施設及び実習施設等へ8月初旬に送付した。2023年度年報については7月発刊（納品）を目標として作成スケジュールをたて、2024年1月に各委員会委員長・各担当部署あてに原稿を依頼した。 5) その他学長が必要と認める事項 該当事項なし。
次年度の 課題	1) 大学基準協会による機関別認証評価の受審年度となる。書面評価期間における質問への回答、追加資料の提出及び実地調査の対応に不備が無いよう対応する。指摘事項があれば、直ちに対応するとともに、結果の公表を行う。

(5) FD・SD委員会

活動目的	1) FD（ファカルティディベロップメント）に関する事項 2) SD（スタッフディベロップメント）に関する事項 3) その他学長が必要と認める事項																																								
構成員	委員長：長谷川喜代美 委員：東野督子、岡田摩理、小林寿 事務局：恒川美智子、谷川歩																																								
委員会開催回数	6回																																								
活動概要	<p>1) FD（ファカルティディベロップメント）に関する事項 FD研修を表1・2のとおり実施した。</p> <p>表1 2023年度FD研修（学内）実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>研修テーマ</th> <th>実施状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">FD</td> <td>新入教職員オリエンテーション及びTA・教務補佐員研修</td> <td>開催日：2023年4月3日（月）・9月15日（金）～ 参加者：新入教職員11名及び教務補佐員5名</td> </tr> <tr> <td>chat GPT等について</td> <td>開催日：2023年4月26日（水） 参加者：50名</td> </tr> <tr> <td>ハラスメント防止研修</td> <td>開催日：2023年6月27日（火） 参加者：6名（新入教職員）</td> </tr> <tr> <td>第1回研究推進ワークショップ</td> <td>開催日：2023年8月8日（火） 参加者：19名</td> </tr> <tr> <td>シラバス作成について</td> <td>開催日：2023年10月25日（水）Zoom 参加者：66名</td> </tr> <tr> <td>FD・SD研修会 「誰もが楽しく学べる“研究／ためしてみる ことの大切さ！”」</td> <td>開催日：2023年12月22日（金） 参加者：28名</td> </tr> <tr> <td>情報セキュリティ・リテラシー研修</td> <td>開催日：2023年12月27日（水） 参加者：65名</td> </tr> <tr> <td>第2回研究推進ワークショップ</td> <td>開催日：2024年2月20日（火） 参加者：7名</td> </tr> <tr> <td>学修ポートフォリオに関する研修</td> <td>開催日：2024年3月5日（火） 参加者：30名</td> </tr> <tr> <td>研究倫理研修</td> <td>開催日（オンデマンド配信日）： 2024年3月6日（水）～3月22日（金） 参加者：48名</td> </tr> <tr> <td>利益相反研修</td> <td>開催日（オンデマンド配信日）： 2024年3月6日（水）～3月22日（金） 参加者：48名</td> </tr> <tr> <td>大学評価の視点、大学評価への向き合い方</td> <td>開催日：2024年3月7日（木） 参加者：57名</td> </tr> </tbody> </table> <p>表2 2023年度FD研修（学外）実施状況（一部SDを含む）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>研修テーマ</th> <th>実施状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">FD</td> <td>令和5年度看護系大学教員向け課題解決型研修</td> <td>主催：千葉大学大学院看護学研究院 参加者：1名</td> </tr> <tr> <td>性暴力、配偶者暴力等被害者支援のためのオンライン研修</td> <td>主催：文部科学省総合教育政策局 開催日：2023年4月1日（土）～9月30日（土） 参加者：2名</td> </tr> <tr> <td>シナリオって何？どこまで作れば良い？</td> <td>主催：株式会社京都科学 開催日：2023年4月20日（木） 参加者：1名</td> </tr> <tr> <td>シミュレーションを楽SIM（たのしむ）～机上シミュレーション編～</td> <td>主催：株式会社京都科学 開催日：2023年5月23日（火） 参加者：1名</td> </tr> </tbody> </table>		研修テーマ	実施状況	FD	新入教職員オリエンテーション及びTA・教務補佐員研修	開催日：2023年4月3日（月）・9月15日（金）～ 参加者：新入教職員11名及び教務補佐員5名	chat GPT等について	開催日：2023年4月26日（水） 参加者：50名	ハラスメント防止研修	開催日：2023年6月27日（火） 参加者：6名（新入教職員）	第1回研究推進ワークショップ	開催日：2023年8月8日（火） 参加者：19名	シラバス作成について	開催日：2023年10月25日（水）Zoom 参加者：66名	FD・SD研修会 「誰もが楽しく学べる“研究／ためしてみる ことの大切さ！”」	開催日：2023年12月22日（金） 参加者：28名	情報セキュリティ・リテラシー研修	開催日：2023年12月27日（水） 参加者：65名	第2回研究推進ワークショップ	開催日：2024年2月20日（火） 参加者：7名	学修ポートフォリオに関する研修	開催日：2024年3月5日（火） 参加者：30名	研究倫理研修	開催日（オンデマンド配信日）： 2024年3月6日（水）～3月22日（金） 参加者：48名	利益相反研修	開催日（オンデマンド配信日）： 2024年3月6日（水）～3月22日（金） 参加者：48名	大学評価の視点、大学評価への向き合い方	開催日：2024年3月7日（木） 参加者：57名		研修テーマ	実施状況	FD	令和5年度看護系大学教員向け課題解決型研修	主催：千葉大学大学院看護学研究院 参加者：1名	性暴力、配偶者暴力等被害者支援のためのオンライン研修	主催：文部科学省総合教育政策局 開催日：2023年4月1日（土）～9月30日（土） 参加者：2名	シナリオって何？どこまで作れば良い？	主催：株式会社京都科学 開催日：2023年4月20日（木） 参加者：1名	シミュレーションを楽SIM（たのしむ）～机上シミュレーション編～	主催：株式会社京都科学 開催日：2023年5月23日（火） 参加者：1名
	研修テーマ	実施状況																																							
FD	新入教職員オリエンテーション及びTA・教務補佐員研修	開催日：2023年4月3日（月）・9月15日（金）～ 参加者：新入教職員11名及び教務補佐員5名																																							
	chat GPT等について	開催日：2023年4月26日（水） 参加者：50名																																							
	ハラスメント防止研修	開催日：2023年6月27日（火） 参加者：6名（新入教職員）																																							
	第1回研究推進ワークショップ	開催日：2023年8月8日（火） 参加者：19名																																							
	シラバス作成について	開催日：2023年10月25日（水）Zoom 参加者：66名																																							
	FD・SD研修会 「誰もが楽しく学べる“研究／ためしてみる ことの大切さ！”」	開催日：2023年12月22日（金） 参加者：28名																																							
	情報セキュリティ・リテラシー研修	開催日：2023年12月27日（水） 参加者：65名																																							
	第2回研究推進ワークショップ	開催日：2024年2月20日（火） 参加者：7名																																							
	学修ポートフォリオに関する研修	開催日：2024年3月5日（火） 参加者：30名																																							
	研究倫理研修	開催日（オンデマンド配信日）： 2024年3月6日（水）～3月22日（金） 参加者：48名																																							
	利益相反研修	開催日（オンデマンド配信日）： 2024年3月6日（水）～3月22日（金） 参加者：48名																																							
	大学評価の視点、大学評価への向き合い方	開催日：2024年3月7日（木） 参加者：57名																																							
	研修テーマ	実施状況																																							
FD	令和5年度看護系大学教員向け課題解決型研修	主催：千葉大学大学院看護学研究院 参加者：1名																																							
	性暴力、配偶者暴力等被害者支援のためのオンライン研修	主催：文部科学省総合教育政策局 開催日：2023年4月1日（土）～9月30日（土） 参加者：2名																																							
	シナリオって何？どこまで作れば良い？	主催：株式会社京都科学 開催日：2023年4月20日（木） 参加者：1名																																							
	シミュレーションを楽SIM（たのしむ）～机上シミュレーション編～	主催：株式会社京都科学 開催日：2023年5月23日（火） 参加者：1名																																							

FD	シミュレーションを楽 SIM (たのしむ) ~ SCENARIO を使ったシミュレーション編~	主 催：株式会社京都科学 開催日：2023年6月30日(金) 参加者：1名
	大学改革を巡る政策動向について	主 催：大和証券・学校経営研究会共催 開催日：2023年7月18日(火)～8月31日(木) 参加者：1名
	私立看護系大学の社会的役割と在り方	主 催：日本私立看護系協会 開催日：2023年7月25日(火)～10月19日(木) 参加者：8名
	生成AIの概要と授業への活用について	主 催：豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム 開催日：2023年8月4日(金) 参加者：1名
	2023年度第1回研究セミナー	主 催：日本私立看護系大学協会 開催日：2023年9月30日(土) 参加者：1名
	【私大を取り巻く環境と経営改革】～期待される職員の力～	主 催：愛知県私大事務局長会 開催日：2023年11月13日(月)～2024年1月31日(水) 参加者：5名
	2) SD (スタッフディベロップメント) に関する事項 SD 研修を表3のとおり実施した。	
表3 2023年度SD研修実施状況		
活動概要	SD	
	研修テーマ	実施状況
	2023年度 私立大学職員の新人研修	主 催：NPO 法人学校経営研究会 開催日：2023年6月16日(金) 参加者：3名
	令和5年度障害学生支援実務者育成研修会(基礎プログラム)	主 催：独立行政法人日本学生支援機構 開催日：2023年7月4日(火)～7月5日(水) 参加者：1名
	令和5年度学生指導研究会東海地区愛知県支部月例懇談会5・7月合同例会	主 催：学生指導研究会東海地区愛知県支部 開催日：2023年7月12日(水) 参加者：1名
	令和5年度第1回私学共済事務担当者研修会「年金」コース	主 催：日本私立学校振興・共済事業団 開催日：2023年7月26日(水) 参加者：1名
	障がい学生支援について	開催日：2023年8月31日(木) 参加者：39名
	インボイス制度について	開催日：2023年9月15日(金)～ 参加者：33名
	日本学生支援機構の奨学金について	開催日：2023年9月1日(金)～ 参加者：40名
	令和5年度障害学生支援実務者育成研修会(応用プログラム)	主 催：独立行政法人日本学生支援機構 開催日：2023年11月7日(火)～11月8日(水) 参加者：1名
年末調整操作セミナー	主 催：グレープシティ株式会社 開催日：オンデマンド 参加者：1名	
令和5年度第2回私学共済事務担当者研修会「年金」コース、「資格・短期コース」	主 催：日本私立学校振興・共済事業団 開催日：2024年1月24日(水)～1月25日(木) 参加者：1名	
3) その他学長が必要と認める事項 該当事項なし		
次年度の課題	1) 学修ポートフォリオの効果的な活用に向けて、研修等を実施していく。 2) 業務効率化・改善に繋がる事務スキル向上に関するSD研修を実施する。	

(6) 研究倫理審査委員会

活動目的	1) 研究を実施することの倫理的及び科学的見地からの妥当性に関する審査 2) 審査を行った研究についての倫理的妥当性及び科学的合理性の観点からの調査と学長への報告 3) 侵襲を伴い介入を行う研究を実施する場合の研究実施の適正性及び研究結果の信頼性確保のための調査と学長への報告 4) 研究倫理意識高揚のための倫理教育・研修の実施 5) その他、学長および委員会が必要と認める事項																																				
構成員	委員長：長谷川喜代美 委員：東野督子、小林洋子、森田一三、山田聡子、小林尚司、百瀬由美子、岡田摩理、稲垣恵一（外部委員）、 児玉由加（外部委員）、ロベル智子 事務局：加藤信子、鳥居貴代																																				
委員会開催回数	2023年度は、22回開催した。 定例：12回、臨時：10回																																				
活動概要	1) 審査件数 審査実件数：51件 内訳 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>2023年度新規申請</td><td>38</td></tr> <tr><td>前年度申請審査継続</td><td>5</td></tr> <tr><td>研究計画変更</td><td>8</td></tr> </table> 審査延べ件数：79件 内訳 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>2023年度新規申請</td><td>62</td></tr> <tr><td>前年度申請審査継続</td><td>8</td></tr> <tr><td>研究計画変更</td><td>9</td></tr> </table> 承認件数：41件 2) 定例委員会： <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>第1回</td> <td>研究倫理審査：5件（一般3、迅速2） 審議等 2023年度の取り組み課題について 2023年度研究倫理審査委員会開催予定について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>研究倫理審査：2件（迅速2） 審議等 研究倫理審査のペーパーレス化について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>研究倫理審査：7件（一般3、迅速4） 審議等 日本赤十字看護大学研究倫理審査システムについて</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>研究倫理審査：9件（一般1、迅速8）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>研究倫理審査：8件（一般1、迅速6、研究計画変更1）</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>研究倫理審査：4件（一般2、迅速2）</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>研究倫理審査：4件（迅速1、研究計画変更3） 審議等 研究倫理審査委員会 2024年予算について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>研究倫理審査：3件（迅速3）</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>研究倫理審査：3件（迅速2、研究計画変更1）</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>研究倫理審査：8件（一般1、迅速6、研究計画変更1）</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>研究倫理審査：1件（迅速1） 審議等 2023年度研究倫理審査委員会活動報告（案）について</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>研究倫理審査：2件（研究計画変更2） 審議等 2023年度研究倫理審査委員会活動報告（案）について 2024年度4～6月研究倫理審査委員会開催日程について</td> </tr> </table>	2023年度新規申請	38	前年度申請審査継続	5	研究計画変更	8	2023年度新規申請	62	前年度申請審査継続	8	研究計画変更	9	第1回	研究倫理審査：5件（一般3、迅速2） 審議等 2023年度の取り組み課題について 2023年度研究倫理審査委員会開催予定について	第2回	研究倫理審査：2件（迅速2） 審議等 研究倫理審査のペーパーレス化について	第3回	研究倫理審査：7件（一般3、迅速4） 審議等 日本赤十字看護大学研究倫理審査システムについて	第4回	研究倫理審査：9件（一般1、迅速8）	第5回	研究倫理審査：8件（一般1、迅速6、研究計画変更1）	第6回	研究倫理審査：4件（一般2、迅速2）	第7回	研究倫理審査：4件（迅速1、研究計画変更3） 審議等 研究倫理審査委員会 2024年予算について	第8回	研究倫理審査：3件（迅速3）	第9回	研究倫理審査：3件（迅速2、研究計画変更1）	第10回	研究倫理審査：8件（一般1、迅速6、研究計画変更1）	第11回	研究倫理審査：1件（迅速1） 審議等 2023年度研究倫理審査委員会活動報告（案）について	第12回	研究倫理審査：2件（研究計画変更2） 審議等 2023年度研究倫理審査委員会活動報告（案）について 2024年度4～6月研究倫理審査委員会開催日程について
2023年度新規申請	38																																				
前年度申請審査継続	5																																				
研究計画変更	8																																				
2023年度新規申請	62																																				
前年度申請審査継続	8																																				
研究計画変更	9																																				
第1回	研究倫理審査：5件（一般3、迅速2） 審議等 2023年度の取り組み課題について 2023年度研究倫理審査委員会開催予定について																																				
第2回	研究倫理審査：2件（迅速2） 審議等 研究倫理審査のペーパーレス化について																																				
第3回	研究倫理審査：7件（一般3、迅速4） 審議等 日本赤十字看護大学研究倫理審査システムについて																																				
第4回	研究倫理審査：9件（一般1、迅速8）																																				
第5回	研究倫理審査：8件（一般1、迅速6、研究計画変更1）																																				
第6回	研究倫理審査：4件（一般2、迅速2）																																				
第7回	研究倫理審査：4件（迅速1、研究計画変更3） 審議等 研究倫理審査委員会 2024年予算について																																				
第8回	研究倫理審査：3件（迅速3）																																				
第9回	研究倫理審査：3件（迅速2、研究計画変更1）																																				
第10回	研究倫理審査：8件（一般1、迅速6、研究計画変更1）																																				
第11回	研究倫理審査：1件（迅速1） 審議等 2023年度研究倫理審査委員会活動報告（案）について																																				
第12回	研究倫理審査：2件（研究計画変更2） 審議等 2023年度研究倫理審査委員会活動報告（案）について 2024年度4～6月研究倫理審査委員会開催日程について																																				

活動概要	3) 臨時委員会：	
	第1回	研究倫理審査：2件（迅速2）
	第2回	研究倫理審査：1件（迅速1）
	第3回	研究倫理審査：3件（迅速3）
	第4回	研究倫理審査：2件（迅速2）
	第5回	研究倫理審査：1件（迅速1）
	第6回	研究倫理審査：3件（迅速2、研究計画変更1）
	第7回	研究倫理審査：1件（迅速1） 審議等 個人が特定できない研究データが保存されたUSBメモリの紛失に関する報告及び今後の対策について
	第8回	研究倫理審査：3件（迅速3）
	第9回	研究倫理審査：5件（迅速5）
	第10回	研究倫理審査：2件（迅速2）
次年度の課題	1) 日本赤十字豊田看護大学研究倫理審査委員会運用細則の見直しをする。 2) 教職員の研究倫理教育・研修受講を推進する。 3) 研究倫理審査のシステム化について情報収集をする。	

(7) 災害対策委員会

活動目的	<p>1) 災害情報の収集とその分析に関すること 2) 想定されるリスクの抽出、評価及び優先順位付けに関すること 3) 順位付けられたリスクへの対応策の検討、立案、実施に関すること 4) 危機管理マニュアルの作成、見直し、学内への周知に関すること 5) 教職員及び学生等への教育・訓練の実施に関すること 6) 緊急時の情報伝達システムの整備に関すること 7) 災害時における危機対策本部を設置するときの場所の確保、備品、通信機器の準備に関すること 8) その他災害対策に関すること</p>
構成員	<p>委員長：小林洋子 委員：長尾佳世子、藤井愛海、河村諒、飯田大輔 事務局：総務課 恒川美智子、稲垣玲</p>
委員会開催回数	11回
活動概要	<p>以下の事項を審議した。</p> <p>第1回 2023年度 災害対策委員会年間計画 災害対策委員会の役割分担</p> <p>第2回 防災研修（8月予定）の実施について アクションカードの手順確認について</p> <p>第3回 第1回防災研修の実施について（8月8日5限） 防災訓練（消防訓練）の実施について（10月27日4限） アクションカードの手順確認について（在室確認）</p> <p>第4回 第1回防災研修の実施について（8月8日5限） 防災訓練（消防訓練）の実施について（10月27日4限） アクションカードの手順確認について（在室確認）</p> <p>第5回 防災訓練（消防訓練）の実施について（10月27日4限） アクションカードの手順確認について</p> <p>第6回 防災訓練（消防訓練）の実施について（10月27日4限） 安否確認（10月20日実施） 第2回防災研修の開催について 次年度予算</p> <p>第7回 防災訓練（消防訓練）の振り返りについて（10月27日4限実施） 安否調査について（10月20日実施）</p> <p>第8回 防災訓練（消防訓練）と安否確認調査に対する意見集約</p> <p>第9回 個別マニュアルの見直し 第三次中期計画第三四半期の達成状況 愛知県以外で地震が起きた際の安否確認の仕組み 能登半島地震への大学からの支援の可能性についての検討</p> <p>第10回 2/27（火）「防災研修」の運営について 能登半島地震災害の中長期的支援（案）の検討 「個別マニュアル」の修正 能登半島地震への大学からの支援の可能性についての検討</p> <p>第11回 2/27（火）「防災研修」の振り返り 2024年度消防訓練の日程について 「災害対応個別マニュアル」の修正 第三次中期計画 第四四半期達成状況ならびに年度末の達成状況 2023年度総括</p> <p>以下のとおり活動した。</p> <p>2023年4月19日 前年度から引き続き救護備品点検を継続した 2023年8月8日 第1回防災研修「傷病者を搬送する」開催、参加者は19名 2023年10月8日 宮口一色自治区ふれあいフェスティバル、本学避難場所の見学受入 2023年10月20日 新入生及び新入教職員に対し Forms を使用した安否確認訓練実施 2023年10月27日 防災訓練（消防訓練）実施 2024年2月15日 災害対応個別マニュアルの見直しに加えて、夜間休日の安否確認について案を作成し、追記した 2024年2月27日 第2回防災研修「被災者の傷を処置する」開催、参加者は19名 2024年3月7日 宮口一色自治区との自主避難場所利用に関する覚書更新</p>
次年度の課題	<p>1) 防災研修に赤十字の救護活動の理解に関する内容を含めて計画・実施する 2) 災害対応個別マニュアルの改訂を行い、教職員に周知する</p>

(8) 高大連携推進プロジェクト

活動目的	本学看護学部入学前教育から初年次教育への高大接続をシームレスに効果的に進める方略を計画し推進する。
構成員	リーダー：山田聡子 委員：岡田摩理、中島佳緒里、南谷志野、巻野雄介、近藤絵美、高見精一郎、森田一三（準メンバー） 鎌倉やよい（オブザーバー） 事務局：学務課
プロジェクト 開催回数	4回
活動概要	<p>1. ミーティング開催（以下、主たる検討事項）</p> <p>第1回 4月11日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力テストの結果共有と次年度に向けた検討 ・学生へのフィードバック方法 <p>第2回 5月31日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力テストフィードバック結果 ・入学前教育、初年次教育、他科目のつながりの点検、検討 <p>第3回 7月12日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業者とのミーティング・情報交換 ・入学前課題作成スケジュールの確認 <p>第4回 9月26日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前課題の改変（案）について <p>2. 基礎学力テストの結果分析及び学生フィードバックの実施 入学前課題（理数系科目）の取り組み状況を確認するための基礎学力テストを実施し、その結果の分析をもとに学生へのフィードバックの場を設けた。合計得点60点未満の学生は必須、その他の学生は任意参加として開催し、得点率の低い問題の解説や学習方法についてのアドバイスを行った。</p> <p>3. 入学前課題（理数系科目）の再見直しと作成 基礎学力テストで得点の低かった項目を中心に、出題方法の変更や解説の追加など、より適切な内容となるよう見直しを行った。また、改変内容について、豊田高校の協力により内容の妥当性および適切性の点検を行った。</p> <p>4. 入学前課題（英語科目）の修正と、入学後試験の変更 英語科目教員により修正がなされた。また、入学時の英語力試験を2024年度入学生からGTEC Academicに変更することとなった。</p> <p>5. その他 図書館と協力し、高校で学ぶ理数系科目の復習に役立つ書籍を整備した。 高大連携推進プロジェクトにおいて、入学前教育および導入教育の改善を図った。概ね効果的な実施計画が確定できたため、本プロジェクトは解散することとした。今後は、教務委員会に引き継ぐこととなった。</p>

(9) 学修ポートフォリオプロジェクト

活動目的	学生が自ら学修成果の達成状況を整理・点検するとともに、教員や大学が教育の成果を評価するため、学修ポートフォリオを作成する。
構成員	リーダー：長谷川喜代美 委員：小林尚司、岡田摩理、原田真澄、加藤信子 事務局：学務課
プロジェクト開催回数	4回
活動概要	第1回 6月14日 ・画面イメージの確認 第2回 6月29日 ・画面イメージの確認、仕様詳細についての打ち合わせ 第3回 10月27日（メール開催） ・仕様詳細についての打ち合わせ 第4回 2月1日 ・稼働前最終調整 教員向け説明会 3月5日 ・4月からの運用開始に向けた教員向け説明会
次年度の課題	令和6年度からの学修ポートフォリオの運用開始に伴う学内調整や説明・周知を行う。

5) アドミッションオフィス

活動目的	1) 多面的・総合的な入学者選抜方法の検討に関すること 2) 入学者の追跡調査等による選抜方法の妥当性の検証に関すること 3) 日本赤十字学園内における入学者選抜に係る連携に関すること 4) その他入試改革に関し必要な事項に関すること
構成員	委員長：鎌倉やよい 委員：山田聡子、百瀬由美子、森田一三、中島佳緒里、小林寿、ロベル智子、中島伸一 事務局：企画・地域交流課
開催回数	3回
活動概要	以下の事項を審議した。 第1回 令和6年度大学入学者選抜実施にかかる追試について 学力の3要素評価方法及びアドミッションポリシーとの関連について 第2回 6看護大学連携併願選抜の可否判定順位付けの原則について 看護学部 入学資格審査規程の改正について 各選抜区分と「学力の3要素」評価方法について 第3回 総合型選抜の導入検討について 推薦選抜の指定校枠の増加について 推薦選抜の出願条件である評定平均値について 共同看護学専攻博士課程アドミッションポリシーの見直しについて
次年度の課題	推薦選抜の指定校枠増加及び出願条件緩和について継続して審議する。

6) 外部資金獲得状況

(1) 2023年度私立大学等改革総合支援事業

タイプ1:「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」およびタイプ3:「地域社会への貢献(プラットフォーム型)」について採択された。

(2) 日本赤十字豊田看護大学 私立大学等経常費補助金獲得状況

(単位:千円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
計	124,745	117,296	123,455	116,455	132,628

(3) 科学研究費等競争的外部研究資金獲得状況

単位(千円)

番号	研究者名	種類	研究題名	事業年度	当年度補助金額
1	勝原 裕美子	基盤研究(B)	コロナ禍における看護師のキャリアショックと意味づけ:持続可能なキャリアの視点から	2023 ~ 2026	3,770
2	カルデナス暁東	基盤研究(C)	SLE 女性患者のBFの獲得を促進するアピラランスケアプログラムの構築	2017 ~ 2023	—
3	東野 督子	基盤研究(C)	在宅で療養が必要な要介護高齢者に実施する効果的な口腔ケア教育プログラムの開発	2017 ~ 2022	—
4	石黒 千映子	基盤研究(C)	糖尿病とがんの multimorbidity 患者のニーズと外来看護支援モデルの構築	2018 ~ 2023	—
5	巻野 雄介	基盤研究(C)	新たにエコーを導入した基礎看護技術演習の学習効果	2020 ~ 2023	390
6	岡田 摩理	基盤研究(C)	障害児と家族全体の生活を支える訪問看護の調整機能を活かすアセスメントガイドの開発	2020 ~ 2023	1,170
7	森田 一三	基盤研究(C)	ディープラーニングを応用した口腔画像識別技術の解明	2021 ~ 2024	520
8	野口 眞弓	基盤研究(C)	育児をする父母のソーシャル・キャピタルを醸成するアクション・リサーチ	2021 ~ 2024	1,430
9	百瀬 由美子	基盤研究(C)	認知症対応型グループホームを拠点とした災害時要援護者防災・減災対策モデルの構築	2021 ~ 2023	780
10	石黒 千映子	基盤研究(C)	婦人科がんサバイバーの Transition を促進する心理教育プログラムの構築	2022 ~ 2025	520
11	カルデナス暁東	基盤研究(C)	女性患者のボディイメージの再形成と精神状態の改善におけるアサーティブメイクの効果	2023 ~ 2025	3,250
12	天木 伸子	基盤研究(C)	要介護高齢者の嚥下後誤嚥を予防する咽頭残留除去ケアプログラムの開発	2023 ~ 2025	2,340
13	小林 尚司	基盤研究(C)	高齢者と子育てをする父母のソーシャルキャピタルを醸成するための支援モデルの開発	2023 ~ 2025	1,170
14	河村 諒	基盤研究(C)	広域避難した高齢被災者に対する生活支援モデルの開発	2023 ~ 2025	1,820
15	南谷 志野	若手研究	協働意識醸成を目指した短時間勤務制度運用プログラムの開発と有用性の検証	2020 ~ 2023	780
16	棚川 綾子	若手研究	糖尿病足病変患者の入院時における看護実践モデル構築に向けた基盤研究	2020 ~ 2023	—
17	岡津 愛子	若手研究	周産期うつ・不安のハイリスク妊婦に対する認知行動療法的介入プログラムの開発と評価	2020 ~ 2023	—
18	藤井 愛海	若手研究	災害時要配慮者を中核とするインクルーシブデザインによる地域減災モデルの構築	2020 ~ 2024	—
19	近藤 絵美	若手研究	急性期病棟における高齢者と看護師の「応答性」の観点からみたケアプロセスの解明	2022 ~ 2024	910
20	深谷 由美	若手研究	地域包括ケアシステムにおける通所介護の看護職に必要な行動指標の開発	2023 ~ 2026	390
合計					19,240

(4) 学校法人日本赤十字学園関連の研究資金獲得状況

(単位:千円)

	研究者名	種類	研究課題名	事業年度	当年度 補助金額
1	近藤香苗	学校法人日本赤十字学園 教育・研究及び 奨学金基金に係る研究支援事業	看護学実習における看護学生に求める主体性尺度の開発 に関する研究	2021- 2023	—
2	飯田大輔	学校法人日本赤十字学園 教育・研究及び 奨学金基金に係る研究支援事業	場面緘黙を抱える成人当事者と家族に有効なサポートの 検討	2021- 2023	—
3	下間正隆	学校法人日本赤十字学園 赤十字と看護・ 介護に関する研究助成	新型コロナの時代の「イラストで良くわかる高齢者介護施 設のための感染対策マニュアル&動画」の作成と、介護施 設の職員の感染対策力を底上げする教育システムの構築	2021- 2023	—
4	小林洋子	学校法人日本赤十字学園 赤十字と看護・ 介護に関する研究助成	地域住民の主体性を基盤にした健康な暮らしを維持する 地域防災支援システム構築の課題	2022- 2023	—
5	岡田摩理	学校法人日本赤十字学園 赤十字と看護・ 介護に関する研究助成	赤十字病院の複数の部署と大学が連携して取り組む幼児 の術前看護モデルの検証	2023- 2024	1,516
6	中島佳緒里	学校法人日本赤十字学園 赤十字と看護・ 介護に関する研究助成	浅い鎮静深度で管理されている人工呼吸器装着患者に対 する睡眠支援	2023- 2024	722
7	竹内貴子	学校法人日本赤十字学園 赤十字と看護・ 介護に関する研究助成	初学者の模擬電子カルテからの情報収集方法の実際	2023- 2024	416
8	草深真菜	学校法人日本赤十字学園 赤十字と看護・ 介護に関する研究助成	防護動機理論を用いた産科病棟における災害対策の現状 とその関連要因の検討	2023- 2024	1,766
9	高下翔	学校法人日本赤十字学園 教育・研究及び 奨学金基金に係る研究支援事業	超音波画像診断装置を用いた全身麻酔患者の気管チュー ブカフ上分泌物の評価	2023- 2024	900

6. 学部運営

2023年度は看護学部における新教育課程の最終年度であり、2024年3月に当該教育課程の卒業生を初めて輩出した。2024年度には、新教育課程の学修成果評価を進め、教育課程の改正に関する検討を進める計画である。

2023年度は以下の取り組みを実施した。コロナ禍を経験したことによる教育方略の改善策の試行や、改正教育課程を進行する上で把握した課題に随時対応すべく各担当部門の協働による取り組みである。

1) 今年度の取り組み

(1) 学修成果評価方法の確定

ディプロマポリシー（DP）に示す成果の達成度について、客観評価と主観評価からなる学修成果評価の方法を確定した。客観評価の方法はカリキュラムマップに沿ってDPごとに設定した関連科目のGPA算出とする。主観評価の方法は、各DPの要素別に学生自身がその到達度の自己評価を行うこととした。加えて、主観評価として、社会人基礎力についても学生の自己評価を行うこととした。2023年度末から、上記による成果評価を行う。

(2) 学生支援の基本方針の明示

大学全体の自己点検の結果、本学ではきめ細かな学生支援制度が整備されているが、その方針が明示されていないことが判明した。そこで、①修学支援、②生活支援、③進路支援、④障がい学生支援の4項目から方針を定め明示した。

(3) e-ポートフォリオの構築

効果的な学修支援を目指し、本学学務システムにe-ポートフォリオを搭載すべくプロジェクトチームを立ち上げて準備を進めてきた。GPAの経年変化や学びの振り返りの記録、看護技術の修得状況についてシステムに入力でき、その内容を学生はいつでも見ることができ、かつ、チューター教員とも共有できるシステムとなった。2024年度からこのシステムを活用した学生支援を開始する。

(4) 国際交流事業の再開

コロナ禍で一時中断していた国際交流事業を再開した。2023年度は、タイ赤十字大学から3名の学生を受け入れ、本学学生3名もタイ赤十字大学に渡航して相互交流を図った。3月には、オーストラリアのウーロンゴン大学附属カレッジにおける語学研修も開催した。この語学研修では、看護学部の見学や現地の赤十字関連施設見学も組み込まれたプログラムであり学生に好評であった。

(5) 保護者ポータル構築

本学学生の保護者を対象としたポータルサイトを立ちあげるべく準備を進めた。成績や時間割、大学からの通知を確認できるシステムとして設定しており、学生支援の観点から、保護者と必要情報を随時共有できることがねらいである。2024年度から本格稼働を進める。

(6) 電子教科書の利用開始準備

2024年度より電子教科書の利用を開始するため、インターネット環境の確認および調整を実施した。利用に際し、EDX UniTextを用いることを決定し大学生協との調整や試行を進めた。

2) 次年度に向けての課題

学修成果の評価をデータに基づき進めることが最重要課題である。上述の新規事業の効果評価も課題である。また、国際交流事業の再開に伴って海外渡航等に係る危機管理体制の見直しと整備も順次進めている。これについても、2024年度に完成させる必要がある。

3) 学部委員会組織および委員一覧

委員会名		メンバー
教授会		◎学部長、事務局長、下間特任教授、森田教授、東野教授、カルデナス教授、小林（洋）特任教授、小林（尚）教授、百瀬特任教授、野口教授、大西特任教授、岡田教授、長谷川教授、鈴木准教授、中島准教授、原田准教授、南谷准教授、原田准教授、学長（オブザーバー）、ロベル参事（オブザーバー）
教員会議		◎学部長 ※全教職員 学長（オブザーバー）
教務委員会	（教務委員会）	◎小林（尚）教授、カルデナス教授、岡田教授、長谷川教授、百瀬特任教授、原田准教授、中島准教授、ロベル参事、学務課長
	実習検討委員会	◎カルデナス教授、清水（み）准教授、南谷准教授、神道准教授、原田准教授、清水（美）准教授、千葉講師、棚川講師、竹内講師、深谷講師、学務課長
学生委員会	（学生委員会）	◎岡田教授、石黒准教授、清水（美）准教授、鈴木准教授、橋本講師、長尾講師、深谷講師、遠藤講師、近藤（香）助教、石田助教、山本助教、ロベル参事、学務課長
	国試対策委員会	◎石黒准教授、大西特任教授、天木准教授、清水（美）准教授、下久保助教、西久保助教、学務課長
研究推進・紀要委員会		◎野口教授、大西特任教授、石黒准教授、岡津准教授、学務課長、経理課
入試・広報委員会		◎中島准教授、森田教授、南谷准教授、鈴木准教授、天木准教授、清水（美）准教授、神道准教授、橋本講師、棚川講師、企画・地域交流課長、アドミッションオフィサー、ロベル参事、事務局長（オブザーバー）
国際交流委員会		◎鈴木准教授、百瀬特任教授、カルデナス教授、松崎准教授、近藤（絵）助教、ロベル参事、総務課長、村瀬司書

4) 教授会

活動目的	<p>教授会は学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。</p> <p>1) 学生の入学、再入学、及び復学に関すること 2) 卒業認定及び学位の授与に関すること</p> <p>前項各号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものは、次のとおりとする。</p> <p>(1) 教育課程の編成に関すること (2) 学生の履修に関すること (3) 学生の休学、退学、除籍、その他学籍の変更に関すること (4) 学生の厚生補導及び賞罰に関すること (5) 人事委員会の要請に基づく教員人事に関すること (6) 図書館の運営に関すること (7) 本学の国際交流に関すること (8) 本学が定める諸規程の規定により教授会での審議等を定めているもの (9) 学則の改正（本学の経営に関するものを除く）に関すること (10) 教育又は研究に関する重要事項に関すること (11) その他学長が必要と認める事項</p>
構成員	<p>委員長：山田聡子学部長 委 員：百瀬由美子、下間正隆、小林寿、森田一三、東野督子、カルデナス暁東、小林洋子、小林尚司、野口眞弓、大西文子、岡田摩理、長谷川喜代美 オブザーバー：鎌倉やよい、ロベル智子 その他構成員：鈴木寿摩、中島佳緒里、南谷志野、原田真澄 事務局：総務課 谷川歩</p>
委員会開催回数	19回
活動概要	<p>第1回 既修得単位の認定について チューター変更について 教授会規程の改正について</p> <p>第2回 令和5年度（2023年）【感染対策チェックリスト（臨地実習を行う学生用）】について</p> <p>第3回 学外共同研究員の受け入れについて</p> <p>第4回 人事について</p> <p>第5回 人事について</p> <p>第6回 人事について</p> <p>第7回 令和5年度保健師教育課程選抜試験結果について 人事について</p> <p>第8回 人事について 令和5年度前期成績について 学生への課外活動（ボランティア）の募集受付について 障がいのある学生に対する支援規程の改正について 緑高等学校との事業について</p> <p>第9回 人事について 科目等履修生規程・聴講生規程・研究生規程の改正について 保健師教育課程専攻規程の改正について 教育課程表の改正について</p> <p>第10回 令和6年度日本赤十字豊田看護大学 高等学校長推薦選抜・赤十字特別推薦選抜・社会人特別選抜入学試験結果について</p> <p>第11回 人事について 卒業研究Ⅱに伴う研究倫理について オープンキャンパスのコンセプト案について 2024年度各種委員会一覧について</p> <p>第12回 令和6年度大学独自選抜入学試験結果について</p> <p>第13回 人事について 2024年度各種委員会一覧について 教授会規程の改正について 履修規程の改正について 学生支援方針の策定について</p> <p>第14回 令和6年度 大学入学共通テスト利用選抜（前期A・B）結果について</p> <p>第15回 新型コロナウイルス感染症 学生の健康状態モニター手順について オープンキャンパス 2024 第1回の実施内容について 学外共同研究員の受け入れ期間延長について</p>

活動概要	第16回 令和5年度4年生後期成績認定について 卒業判定について 令和6年度6看護大学連携併願選抜結果について 第17回 令和6年度大学入学共通テスト利用選抜（後期）について 第18回 令和5年度後期成績について（1、2、3年生） 学外共同研究員の受け入れについて 第19回 学籍異動について
------	--

5) 学部委員会の活動報告

(1) 教務委員会

活動目的	1) 教育課程に関する事項 2) 試験及び単位認定に関する事項 3) 復学及び除籍に関する事項 4) 特別教育計画（行事等）に関する事項 5) 実習に関する事項 6) 非常勤講師等に関する事項 7) その他教育運営に関して必要な事項
構成員	委員長：小林尚司 委員：百瀬由美子、長谷川喜代美、カルデナス暁東、岡田摩理、中島佳緒理、原田真澄、ロベル智子、加藤信子 事務局：学務課 芝口太一、松原なつほ
委員会開催回数	2023年度22回（この内、文書による審議6回、メールによる審議4回）開催した。
活動概要	1) 教育課程に関する事項 (1) 卒業研究Ⅱ・初年次教育の実施支援 卒業研究Ⅱ：指導担当教員の学生配置の決定方法を変更し、教員からは概ね良い評価を得た。令和6年度の配置も同じ方法としたが、学生の希望の偏りのため調整が困難であった。 看護プロフェッショナルセミナー：計画・運営する教員ワーキンググループを編成し、授業の実施を支援した。 (2) 保健師教育課程専攻の選抜 選抜のための面接試験を実施し（9月19日）、22名を選抜した。 (3) 授業評価 学期末に学生による授業評価を実施し、その結果を教員の自己評価と共に学内掲示板で1か月間開示した。 (4) 時間割 次年度の授業の日程を時間割で表記することとし、教員との開講日程を調整するとともに、学生が学内ポータルシステムで確実にスケジュールを把握できるようシステム改修を行った。 (5) 履修規程の改正 重複履修の禁止、GPAの卒業判定や保健師課程選抜への活用、再試験の実施基準について検討し、履修規程改正した。 2) 試験及び単位認定に関する事項 試験日程および試験監督の調整を行った。科目担当教員から提出された評価に基づき、成績および単位認定を審議した。 3) 復学及び除籍に関する事項 退学（6名）・復学（0名）および休学（5名）について、提出書類を基に確認した。 4) 特別教育計画（行事等）に関する事項 令和6年度入学予定者を対象に、授業見学（1月4日～2月15日）と交流会（1月24日・2月15日）を開催した。授業見学参加者は合計15名で、交流会参加者は9名であった。また、入学前学習課題を作成し送付した。入学時の基礎学力テストは、今年度は高大連携プロジェクトチームが実施したが、次年度以降は教務委員会にて担う。 5) 実習に関する事項 実習計画作成のため、学籍異動・単位修得状況を実習検討委員会と共有した。補習実習について、提出書類を基に、欠席日、欠席理由、補習実習計画を確認した。 6) 非常勤講師等に関する事項 非常勤講師の依頼（2件）と、科目内時間講師・学外協力講師（24件）の審査を行った。 7) その他教育運営に関して必要な事項 令和6年度入学生より、電子教科書を採用する準備を行った。 配信教材の契約タイトルについて、希望調査を行い決定した。 愛知学長懇話会の単位互換制度の実施に向け、開放科目を決定した。 在学生オリエンテーションを計画・実施した。 1～3年次生を対象として年度末ガイダンスを実施し、その中で学修成果・学習時間の調査を行った。2022年度に比べて回答率が改善した。
次年度の課題	1) 令和6年度入学生より電子教科書の運用を開始し、情報ネットワーク支援室と協力して使用についての評価・改善を図る。 2) 学修ポートフォリオの運用を開始するとともに、運用の評価方法を検討する。 3) 卒業研究の領域配置方法について評価・改善をはかる 4) 赤十字関連の選択科目の履修者数増加をはかる。

(2) 実習検討委員会

活動目的	<p>1) 看護学実習の運営に関する事項</p> <p>(1) 年間の実習計画と調整</p> <p>(2) 実習要項検討</p> <p>2) 関連教育施設等との看護学実習に関する連絡調整に関する事項</p> <p>3) その他看護学実習に関する事項</p>
構成員	<p>委員長：カルデナス暁東</p> <p>委員：清水みどり、南谷志野、神道那実、原田真澄、清水美代子、千葉朝子、棚川綾子、竹内貴子、深谷由美、加藤信子</p> <p>事務局：学務課 松原なつほ</p>
委員会開催回数	15回
活動概要	<p>1) 看護学実習の運営に関する事項</p> <p>(1) 実習施設の新型コロナウイルス感染症発生状況による17回生の臨地看護学実習計画表（2022年度後期～2023年度前期）スケジュールの変更について共有した。</p> <p>(2) 各施設の実習生受け入れ基準を確認し、18回生（2023年度後期～2024年度前期）の臨地看護学実習計画表を作成した。</p> <p>(3) 19回生～22回生の臨地看護学実習計画表および学生人数表について、学生数に相応するグループ数を検討し案を作成した。</p> <p>(4) 18回生の各論実習のオリエンテーションを実施し、実習の目的・意義、健康管理、健康観察記録の取り扱い、および事故防止などについて説明を行った。</p> <p>(5) 臨地実習期間中に「予防接種確認表」を常時携帯するよう、学生指導を行った。</p> <p>(6) 学生の希望調査を行い、2024年度の統合実習学生配置案を作成した。</p> <p>(7) 2022年度～2023年度実習要項を見直し、修正を行った。</p> <p>(8) 学生の健康観察記録用紙の修正を行った。「令和5年度(2023年)【感染対策チェックリスト(臨地実習を行う学生用)】」「令和5年度(2023年)【臨地実習を行う学生への感染対策に関する指導】」</p> <p>(9) 大学の感染対策の方針に従って、令和6年度(2024年)在学生を対象とした実習関連オリエンテーション(感染対策関連)の内容を見直した。</p> <p>2) 関連教育施設等との看護学実習に関する連絡調整に関する事項</p> <p>(1) 各実習施設と新型コロナウイルス感染状況・対応について、綿密な連絡を図った。</p> <p>3) その他看護学実習に関する事項</p> <p>(1) 看護師教育における卒業時の技術到達度自己評価、および保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度自己評価を実施しまとめた。</p> <p>(2) 次年度学生に配布する実習関連物品の選定と配布時期の検討を行った。</p> <p>(3) 事故・ひやりはっと報告は23件(器具破損事故3件、ひやりはっと20件)であった。</p> <p>(4) 各領域が保有する主要実習施設における共通消耗品を委員会一括管理とし、在庫数を確認した。</p> <p>(5) 令和7年度より新実習着の導入を検討し、教職員・学生向けのアンケートを作成した。また、教職員を対象としたアンケート調査を行った。</p>
次年度の課題	<p>1) 19回生の臨地看護学実習計画（2024年度後期～2025年度前期）および主な4つ実習施設における実習学生人数表の改訂</p> <p>2) 各実習施設の感染症に関する規定について引き続き情報収集を行い、大学の感染対策の方針を踏まえた実習要項の見直し</p> <p>3) 共通消耗品の在庫管理に関するルールづくり</p> <p>4) 19回生の各論実習オリエンテーションの内容の再検討</p> <p>5) 新実習着の決定</p>

(3) 学生委員会

活動目的	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学生の福利厚生に関する事項 2) 学生の健康管理に関する事項 3) 学生の課外活動に関する事項 4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 6) 奨学金に関する事項 7) 国家試験対策に関する事項 8) その他学生の福利厚生等に関して必要な事項
構成員	<p>委員長：岡田摩理</p> <p>委員：石黒千映子、清水美代子、鈴木寿摩、橋本亜弓、長尾佳世子、深谷由美、遠藤幸子、近藤香苗、石田咲、山本壮則、ロベル智子、加藤信子</p> <p>事務局：鳥居貴代</p>
委員会開催回数	11回
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 1) 学生の福利厚生に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生相談 <ul style="list-style-type: none"> 毎週月、木曜日 午前 11 時 30 分～午後 1 時、午後 2 時～午後 6 時で実施した。対面だけでなく、オンラインでの相談も行った。春季休暇（3月）1 か月は閉室とした。 (2) 障がい学生支援 <ul style="list-style-type: none"> 申請に基づき支援を実施した。障がい学生支援規程の見直しを行った。 (3) 海外留学保険の整備 <ul style="list-style-type: none"> 学生の海外留学時に使用する保険として、学研災付帯海外留学保険およびトータルサポートサービスの申し込みを行い、利用を開始した。 (4) 電子証明書（PDF）の発行 <ul style="list-style-type: none"> 本学が発行する各種証明書類について、電子証明書（PDF）の発行ができるよう手順および様式を整えた。 (5) 学生への食料支援 <ul style="list-style-type: none"> 2023 年 5 月に NPO フードバンク愛知より余剰食品の提供を受け、学生への食糧支援を行った。 2) 学生の健康管理に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 定期健康診断の実施 <ul style="list-style-type: none"> 2023 年 4 月 19 日（水）、4 月 20 日（木）に実施した。 (2) 小児感染症・B 型肝炎・インフルエンザ予防接種支援 <ul style="list-style-type: none"> 予防接種スケジュールに沿って接種支援を行った。 (3) 予防接種説明会の実施 <ul style="list-style-type: none"> 2023 年 6 月 19 日（月）に 1 年生を対象とした予防接種に関する講義、感染抗体結果確認、予防接種確認表記入および予防接種の進め方の説明会を実施した。 (4) 健康管理に関する規程の改正 <ul style="list-style-type: none"> 健康管理規程および学生健康診断実施運用細則の改正、保健室に関する規程の廃止を行った。 (5) 新型コロナウイルス感染症の感染対策 <ul style="list-style-type: none"> 学生の黙食を推進するため、教職員によるラウンドを実施した。また川柳大会 2023 を開催した。 3) 学生の課外活動に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自治会支援 <ul style="list-style-type: none"> 総会の開催や選挙の実施等、自治会の規約に則って活動できるよう支援した。 (2) いとすぎ祭支援 <ul style="list-style-type: none"> 2023 年 5 月 27 日（土）に開催されたいとすぎ祭の企画・運営を支援した。 (3) 六大学交流会支援 <ul style="list-style-type: none"> 2023 年 9 月 17 日（日）～ 18（月）に日本赤十字看護大学で開催された六大学交流会に学生が参加する支援を行った。 (4) ボランティア募集受付手順の整備 <ul style="list-style-type: none"> 大学にボランティア募集依頼があった際の受付に関するガイドライン、手順および様式を整えた。 4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生表彰 <ul style="list-style-type: none"> 2023 年度の表彰者は個人 9 名とした。4 年生は学位記授与式、1～3 年生は在学生オリエンテーションで表彰を行った。 5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学生の進路 <ul style="list-style-type: none"> 2023 年度卒業生（115 名）の進路状況は以下のとおりであった。 就職（看護師）○名 就職（保健師）○名 進学○名 その他○名 (2) 赤十字病院説明会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 2023 年 12 月 11 日（月）に本学を会場として赤十字病院説明会を開催した。16 病院の参加があった。 (3) 就職ガイダンスの実施 <ul style="list-style-type: none"> 2 年生から 4 年生を対象に対面で 4 回実施した。（内、1 回は保健師就職ガイダンス） (4) 就職活動支援 <ul style="list-style-type: none"> 学生の就職活動をより正確に把握するため、3 年生向け就職希望調査を実施した。また届け出様式の見直しを行い、新様式を整えた。2024 年度から使用する。

活動概要	<p>6) 奨学金に関する事項</p> <p>(1) 奨学金説明会 2023年4月11日(火)に奨学金説明会を実施した。併せて病院紹介パンフレット配布、病院紹介DVD視聴を行った。</p> <p>(2) 病院奨学金申請手続きの見直し 学生に病院奨学生の自覚を持たせることを目的として、申請時にチューターによる面接の手順を追加することが決定した。2024年度から実施する。</p> <p>(3) 防災ボランティア研修の再開 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い中止していた防災ボランティア研修会を特別奨学生に向け開催することとなり、特別奨学生の参加支援を行った。</p> <p>7) 国家試験対策に関する事項 国家試験対策委員会参照</p> <p>8) その他学生の福利厚生等に関して必要な事項</p> <p>(1) ナイチンゲール記章授与式への参加 2023年7月27日(木)に開催されたナイチンゲール記章授与式に本学学生5名が参加する支援を行った。</p> <p>(2) 卒後支援受付手順の整備 大学に卒業生から相談があった際の受付に関する手順および様式を整えた。</p>
次年度の課題	<p>1) より細やかな障がい学生支援の推進</p> <p>2) 学生主体の課外活動活発化への支援</p> <p>3) 社会情勢に合わせた感染対策の学生への周知</p>

(4) 国家試験対策委員会

活動目的	<p>1) 国家試験対策に関する事項</p> <p>2) 学生の個別指導の調整に関する事項</p> <p>3) 国家試験受験手続に関する事項</p> <p>4) その他国家試験に関して必要な事項</p>
構成員	<p>委員長：石黒千映子</p> <p>委員：大西文子、天木伸子、清水美代子、西久保ひろみ、下久保亮太、加藤信子</p> <p>事務局：学務課 松原なつほ</p>
委員会開催回数	<p>13回</p>
活動概要	<p>1) 国家試験対策に関する事項</p> <p>(1) 国家試験模擬試験(4年生対象)：看護師国家試験の模擬試験は8回、保健師国家試験の模擬試験は4回、実施した。</p> <p>(2) 試験対策補講(4年生対象)：教員による国家試験対策補講は8セメスターから実施した。 2024年1月20日(土)13:00～17:00に、直前オンライン講座を受講できるようにした。</p> <p>(3) 受験後の自己採点(4年生対象)：昨年度と同様、Webを用いて行った。</p> <p>(4) 国家試験過去問題および模擬試験(2、3年生対象)</p> <p>①国家試験ガイダンス(3年生対象)：2023年1月23日(火)15:30～17:00、看護師及び保健師国家試験ガイダンスを実施した。</p> <p>②低学年対象模擬試験(3年生対象)：2023年9月22日(金)9:00～12:00に実施した。模擬試験後、13:00～15:30に模擬試験の解説動画を視聴した。</p> <p>③第113回看護師国家試験問題の実施(3年生対象) 2024年2月22日(木)9:00～16:00に実施した。</p> <p>④卒業生講話(2、3年生対象) 2024年2月20日(火)13:00～14:20に、卒業生(4名)による試験対策の講話会を開催した。</p> <p>2) 学生の個別指導の調整に関する事項</p> <p>(1) 受験勉強用の教室の開放 学生アンケートの結果を踏まえ、12月以降、受験勉強に取り組むための教室を1室確保した。 毎日、委員が教室をラウンドし、学生の質問に対応するなどの支援を行った。</p> <p>(2) 模擬試験成績不振者への対応 複数回、試験勉強への動機付けを含む学習支援をチューター教員全員に依頼した。 国家試験対策委員会から、補講への参加や学内での自己学習を促した。</p> <p>(3) 能登半島地震被災学生への対応 被災状況及び学生の心身の状態を把握するとともに、受験勉強に専念できるよう支援した。 模擬試験の受験および直前オンライン講座が受講できるよう取り計らった。</p> <p>(4) 既卒生への支援：昨年度の看護師国家試験の不合格者への支援は、チューターに依頼した。</p> <p>(5) その他：学生の要望に応じて、過去問題の配布等の支援を行った。</p> <p>3) 国家試験受験手続に関する事項：例年と同様に、看護師国家試験、保健師国家試験の受験手続きのとりまとめ等を実施した。</p> <p>4) その他国家試験に関して必要な事項：対面形式で、国家試験壮行会を執り行った。</p>
令和6年度の課題	<p>1) 新卒者の看護師・保健師国家試験の100%合格</p> <p>2) 早期からの国家試験対策への支援</p> <p>3) 国家試験対策の学習環境支援</p> <p>4) 模擬試験手続き等の業務の適正化</p>

(5) 研究推進・紀要委員会

活動目的	1) 教育研究活動の推進に関する事項 2) 教育研究費の予算配分に関する事項 3) 教育研究費の決算審査に関する事項 4) 紀要の発行に関する事項 5) その他、紀要に関して必要な事項
構成員	委員長：野口眞弓 委員：大西文子、石黒千映子、岡津愛子、加藤信子、田内真由美 事務局：学務課 木村美希
委員会開催回数	2023年度は9回開催した。
活動概要	1) 教育研究活動の推進に関する事項 2023年8月8日(火)9:00～10:30まで、主に若手教員を対象として、今年度科学研究費および赤十字と看護・介護に関する研究助成を受けた研究代表者が、それぞれの申請内容について説明をしたのち、研究デザインや申請書の書き方についてグループワークを行った。ワークショップには、准教授2名、講師3名、助教4名、助手4名の13名が参加した。本研修は、FD・SD委員会との共催であった。 ロバスト・ジャパン株式会社の「2023年度外部資金獲得のための動画講座」を視聴できるようにした。 2024年2月20日(火)13:00～14:30まで、主に研究代表者として外部資金を獲得した経験のない教員を対象として、外部資金獲得支援のための動画講座の視聴及び関連するテーマについてのグループワークを行った。ワークショップには、講師2名、助教1名、助手4名の計7名が参加した。 2) 紀要の発行に関する事項 (1) 紀要の特集 2023年度の特集は「デジタルトランスフォーメーション(DX)による教育効果」とし、基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域、精神看護学領域、在宅看護学領域に執筆依頼をし、本学におけるDXによる教育効果を掲載した。 (2) 投稿論文 2023年度は原著1編、研究報告2編を掲載した。 (3) 編集委員会 編集委員会を4回開催した。
次年度の課題	1) 教育研究活動の活性化 研究代表者として外部資金を獲得する者の増加 2) 紀要の発行 日本赤十字豊田看護大学紀要20巻の発行

(6) 入試・広報委員会

目的	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学生募集及び入学試験の広報に関する事項 2) 学力検査の試験科目及びその実施に関する事項 3) 出題、採点及び合否判定の基準等に関する事項 4) 面接及び健康診断等の方法に関する事項 5) 合否判定資料の作成に関する事項 6) その他入学試験に関して必要な事項 7) 広報誌等の発行に関する事項 8) ホームページに関する事項 9) その他広報に関して必要な事項
構成員	<p>委員長：中島佳緒里 委員：森田一三、南谷志野、鈴木寿摩、天木伸子、清水美代子、神道那実、橋本亜弓、棚川綾子、中島伸一、ロベル智子 事務局：企画・地域交流課 中根春波、寺本庄吾、奥映理菜 オブザーバー：小林寿</p>
開催回数	16回
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学生募集及び入学試験の広報に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 進学説明会 愛知県外（静岡県・岐阜県・大阪府）含め計 12 回の進学説明会に参加した。 (2) オープンキャンパス 感染症拡大防止の観点から人数制限を設けたオープンキャンパスを 2 日間（午前・午後/日）開催した。高校生・既卒者 290 名が参加した。 オープンキャンパス mini を 1 日（午前・午後）開催し、高校生 49 名が参加した。 (3) 施設見学 随時個別の施設見学を受け付け、高校生合計 13 名の来校があった。 長野県伊那弥生ヶ丘高校から団体での施設見学を受け付け、高校生 28 名の来校があった。 (4) WEB オープンキャンパス 各領域の紹介や入試等についての動画をホームページ上で公開した。 (5) 進学情報交換会 高校教員を対象とした進学情報交換会をオンライン開催し、7 校の参加があった（県外より 4 校参加）。 (6) 高校訪問 7 月に 65 校高校訪問を行い、34 校郵送対応をした。進路指導教諭に大学案内や入試過去問題集、入試情報等を提供した。 (7) 推薦選抜対策 Zoom 受験相談会として、推薦選抜試験の受験生を対象としたオンライン相談会を開催し、高校生 15 名が参加した。 (8) 独自選抜対策 11 月に進学情報サイトでのエントリーマッチ広告を実施した。 2) 学力検査の試験科目及びその実施に関する事項 高等学校長推薦選抜、赤十字特別推薦選抜、大学独自選抜、社会人特別選抜において英語の 4 技能を評価するため、外部による英語資格・検定資格を活用し評価を行った。 各選抜区分と「学力の 3 要素」評価方法および本学の求める学生像を見直し、募集要項に反映させた。 3) 出題、採点及び合否判定の基準等に関する事項 アドミッションポリシーに基づき問題作成要領の見直しと修正を行った。 順位付けの原則について審議し、決定した。 4) 面接の方法に関する事項 昨年と同様の方法で面接を行った。 5) 合否判定資料の作成に関する事項 過去の歩留まりや倍率を参考とし、合否判定資料を作成した。 6) その他入学試験に関して必要な事項 全国の赤十字看護大学を複数出願できる「6 看護大学連携併願選抜」を導入した。 7) 広報誌等の発行に関する事項 広報紙『いとすぎの丘』を年 2 回（5 月・11 月）に計 7000 部発行した。 8) ホームページに関する事項 本学の紹介動画を作成し、学園本部からの赤十字看護大学の動画とともにトップページに掲載した。本学のイベントや入試情報の公開、震災への対応についても迅速に周知した。 9) その他広報に関して必要な事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 公開授業の実施 テーマを「看護師のキャリアを考える」とし、2 つの高校で公開授業を実施した。 (2) 豊田・みよし地区探究活動発表会への参加 愛知県立豊田西高校が主催する「豊田・みよし地区探究活動発表会（旧 SSH 成果発表会）」に本学の教員が参加し、本学学生の卒業研究と自己の研究を紹介した。

活動概要	<p>(3) 医療・看護ワークショップへの参加 緑高等学校の生徒とともに医療・看護ワークショップを企画した。当日は、本学学生および教職員計3名が参加し、緑高等学校の生徒の司会・進行のもと講話や看護体験等を実施した。</p> <p>(4) 献血ルームゲートタワー 26 への展示 献血ルームゲートタワー 26 の展示スペースに、本学の地域活動（7月）と赤十字史料室の資料（12月）の展示を行った。</p> <p>(5) ソーシャルネットワークによる広報 SNS（X、LINE、Instagram）による情報発信を実施した。推薦選抜試験の受験生を対象に質問箱を設置し、Xに回答を投稿した。LINEチャット機能を使用し、期間限定で質問・相談対応を行った。Instagramでは本学の行事だけでなく、受験生への応援メッセージや学術情報センターからの情報を掲載し、更新頻度を高めた。</p>
次年度の課題	<p>1) 志願者の確保 優秀な受験生を確保するため、愛知県内の高校への公開授業や高校のキャリアサポーターとの共同企画、日本赤十字社各県支部との協力を推進する。そのうえで、推薦選抜における志願者数の増加を重点課題とし、試験制度の見直しや大学の認知度を向上させるための広報活動の強化を検討する。</p> <p>2) 入試改革に対する対応 文部科学省・大学入試センターからの通知をもとに令和7年度入試について検討する。</p>

(7) 国際交流委員会

活動目的	<p>日本赤十字豊田看護大学 国際交流委員会規程第2条に定める以下の事項を審議する。</p> <p>1) 教員の国際学術交流に関する事項 2) 海外からの研究者・教育者・学生等の受入れに関する事項 3) 学生の国際交流・海外研修に関する事項 4) その他学長が必要と認める事項</p>
構成員	<p>委員長：鈴木寿摩 委員：百瀬由美子、カルデナス暁東、松崎久美、近藤絵美、ロベル智子、恒川美智子、村瀬悠香代 事務局：総務課 稲垣玲、澤村瑛美</p>
委員会開催回数	12回
活動概要	<p>1. 教員の国際学術交流に関する事項 1) タイ赤十字看護大学（STIN: Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing）との共同研究 2) 2024年2月21日（水）学外共同研究員李莉（Li Li）さんとの交流会</p> <p>2. 海外からの研究者、教育者・学生等の受入れに関する事項 1) 2023年6月9日（金）IFRCバンコク事務所出向職員との交流会の実施 2) 2023年8月30日（水）タイ赤十字看護大学との国際交流協定の更新 3) 2023年12月17日（日）～12月27日（水）STIN学生受け入れ STIN学生3名を受け入れ、本学学生及び教職員との交流を行った。県内の赤十字病院をはじめ、介護老人保健施設、リハビリテーションセンター等様々な日本の医療施設を見学し、タイとの医療制度との違いを学んでいた。オンラインでの交流会は、スケジュールが合わず、見合わせとなった。</p> <p>3. 学生の国際交流・海外研修に関する事項 1) 2023年8月27日（日）～9月3日（日）STINへの派遣 学生3名をSTINへ派遣した。授業や実習に参加し、赤十字施設や医療機関などを見学したことで、タイの看護教育、看護師業務、医療制度などについて理解を深め、国際的視野が広がった。 2) 2023年11月20日（月）JRC国際交流会 海外のJRCメンバーによる自国の青少年赤十字活動の紹介、本学の見学、本学青少年奉仕団との交流会を行った。 3) 国際交流等に伴う危機管理に関する要項の見直し・作成 2024年2月29日（木）国際交流等に伴う危機管理対策要項改正 海外における事故等緊急事態対応マニュアル作成</p> <p>4) 2024年3月9日（土）～3月26日（火）海外語学研修 コロナ禍により中止してきた海外語学研修が今年度より再開され（渡航先が英国よりオーストラリアに変更）、予想を上回る23名から応募があり、23名全員の参加を決定した。</p> <p>4. その他学長が必要と認める事項 当該事項なし。</p>
次年度の課題	<p>1. 教員の国際学術交流に関する事項 1) STINとの共同研究について、新規マッチングを検討する。 2. 海外からの研究者、教育者・学生等の受入れに関する事項 1) STIN以外の海外赤十字大学との関係構築を模索する。 3. 学生の国際交流・海外研修に関する事項 1) STINへの派遣を継続し、オンラインによる交流の機会を増やすなど、より多くの学生が参加できるよう開催時期や募集方法等を検討する。 2) 国際交流関係の外部団体との交流を増やし、学生に有益な情報を収集、発信する。</p>

7. 研究科運営

1) 今年度の取り組み

(1) 専門看護師養成コース（老年看護学分野）の新設

超高齢者社会における保健医療福祉領域の課題に対応できる高度実践者を育成するために、修士課程に老年看護学分野の専門看護師コースを新設した。このコースに1名の志願者があり、合格とした。大学院説明会の日程と併せて、大学院特別講演を老人看護専門看護師による実践活動の紹介を主な内容として開催し、本学のコース新設も併せて周知した。

(2) リカレント教育の推進

文部科学省は社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学・大学院等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを職業実践力育成プログラム（BP）として認定し、厚生労働省の教育訓練給付制度とも連携して社会人の学び直しを推進している。この動きを受け、すでに認定を受けている看護学研究科修士課程に設置している3つの履修証明プログラム（「看護研究プログラム」、「看護教育プログラム」、「災害看護実践プログラム」）に加え、正規課程についても「職業実践力育成プログラム（BP）」への申請を行い、2024年度からの入学生を対象とすることができるようになった。これにより、今後は社会人学生にとってより一層学びやすい環境を整えることが可能となり、加えて経済面の支援が整うよう実績を重ね、教育訓練給付制度への申請を目指す。

これに関連して、3つの履修証明プログラムについては教育訓練給付金対象講座への申請を見据え、今年度より要件に適合するよう履修期間を1年に短縮したが、職場の状況で仕事との両立のしやすさが異なり、学生から2年履修の希望があったため、正規課程の長期履修制度の考え方を適用し、2年履修も可とするよう申請手続き方法について検討し、関係規程を改正した。

(3) 共同看護学専攻（博士課程）修了者の継続的輩出と入学者の確保

昨年度に引き続き、今年度は3名（内1名は標準修了年限者）の修了者を出すことができ、質の高い研究指導ができておりと評価できる。また、2024年度入学予定者は定員の2名を上回る3名となった。

(4) 共同看護学専攻（博士課程）のAP及びDPの見直し

共同運営している日本赤十字秋田看護大学、日本赤十字九州国際看護大学が昨年度、機関別認証評価を受審した際に、学生の受け入れ方針と学位授与方針（AP、DP）について、改善が必要であるとの指摘を受けたことから、今年度、研究科長会議及び連絡協議会において検討を重ね大幅な修正を行った。

2) 課題

修士課程の定員不足については、充足に向けて引き続き検討を行い、改善策を講じることが喫緊の課題である。受験者の獲得に向けて、中部ブロック赤十字病院及び近隣の保健・医療・福祉機関等への広報活動を積極的に行う必要がある。また、高度実践者コースについては、入試方法の抜本的な見直しを含め検討を進める必要がある。また、共同看護学専攻（博士課程）においては、文部科学省からの通達を受け、院生向けのFDの実施について計画的に行う検討を進める必要がある。

3) 研究科委員会組織および委員一覧

委員会名	メンバー
大学院研究科委員会	◎研究科長、事務局長、山田教授、下間特任教授、森田教授、東野教授、カルデナス教授、小林（洋）特任教授、小林（尚）教授、野口教授、大西特任教授、岡田教授、長谷川教授、中島准教授、巻野准教授、南谷准教授、石黒准教授、清水（み）准教授、天木准教授、岡津准教授、神道准教授、原田准教授、清水（美）准教授、長尾講師、藤井講師、学長（オブザーバー）、参事（オブザーバー）
大学院入試・広報委員会	◎森田教授、岡田教授、南谷准教授、清水（み）准教授、巻野准教授、企画・地域交流課長、アドミッションオフィサー
大学院教務・学生委員会	◎長谷川教授、小林（尚）教授、東野教授、岡田教授、学務課長、参事

4) 研究科委員会

活動目的	1) 学生の入学、再入学、及び復学に関すること 2) 修了認定及び学位の授与に関すること 3) 教育課程の編成に関すること 4) 学生の履修に関すること 5) 学生の休学、退学、除籍、その他学籍の変更にに関すること 6) 学生の厚生補導及び賞罰に関すること 7) 人事委員会の要請に基づく教員人事に関すること 8) 本学が定める諸規程の規定により研究科委員会での審議等を定めているもの 9) 大学院学則の改正（本学の経営に関するものを除く）に関すること 10) 教育又は研究に関する重要事項に関すること 11) その他学長が必要と認める事項
構成員	委員長：百瀬由美子 委員：山田聡子、小林寿、下間正隆、森田一三、東野督子、カルデナス暁東、小林洋子、小林尚司、野口眞弓、大西文子、岡田摩理、長谷川喜代美、中島佳緒里、巻野雄介、南谷志野、石黒千映子、清水みどり、天木伸子、岡津愛子、神道那実、原田真澄、清水美代子、長尾佳世子、藤井愛海 オブザーバー：鎌倉やよい、ロベル参事 事務局：総務課、学務課
委員会開催回数	17回開催
活動概要	研究科委員会にて、以下の事項を審議した。 第1回（臨時）令和5年度前期聴講生の受け入れについて 第2回 既修得単位の認定について 履修証明プログラムに関する規程の改正について 老年看護 CNS コースの新設に伴う教育課程変更について 令和5年度前期履修登録について 令和5年度新入学生の研究指導教員について 学術情報リポジトリ登録延期申請について 第3回 CNS コース申請に向けた規程改正案について 履修証明プログラムに関する規程の改正について 成績通知方法の変更について 第4回 ※報告事項のみ 第5回 研究計画書及び論文の再提出方法の変更について 第6回 修了予定者の単位修得状況について 学位授与の判定について 修士課程の審査員について 令和5年度後期 科目等履修生の受け入れについて 第7回（臨時）令和6年度日本赤十字豊田看護大学看護学専攻（修士課程）第1回入学試験の判定入試種別について 研究データの保管等に関する内規について 第8回 令和5年度後期履修登録について 令和5年度前期成績認定について 学術情報リポジトリの登録延期申請について 学籍異動（復学）について

活動概要	第9回	「日本赤十字豊田看護大学大学院 科目等履修生規程」の改正について 「日本赤十字豊田看護大学大学院 聴講生規程」の改正について 「日本赤十字豊田看護大学大学院 研究生規程」の改正について 「日本赤十字豊田看護大学大学院 履修証明プログラムに関する規程」の改正について 令和6年度行事日程・審査スケジュールについて
	第10回	科目・研究担当審査について（教授のみ出席） 令和6年度 入学予定者の長期履修学生申請について
	第11回	科目・研究担当審査について（教授のみ出席） 2024年度各種委員会一覧（案）について
	第12回	科目研究・担当審査について（教授のみ出席）
	第13回	科目研究・担当審査について（教授のみ出席） 2024年度各種委員会一覧（案）について
	第14回	（臨時・メール審議）修士課程 研究計画審査の審査委員について
	第15回	（臨時）令和6年度日本赤十字豊田看護大学看護学研究科共同看護学専攻（博士課程）及び令和6年度日本赤十字豊田看護大学看護学研究科看護学専攻（修士課程）第2回入学試験の可否判定
	第16回	老年・在宅看護学領域 深谷講師の科目担当について（教授のみ出席） 修了予定者の単位修得状況について 学位授与の判定について 令和6年度前期科目等履修生等の受入について 修士課程 学位審査規程の改正について 履修証明プログラムに関する規程の改正について 令和6年度時間割及び開講スケジュールについて 学籍異動について（博士 復学） 学術情報リポジトリの登録延期申請について
	第17回	令和5年度後期 在学生の成績認定について 学籍異動（修士 復学）について 令和6年度研究生の受入について 令和6年度入学予定者 長期履修学生の申請について 教員の異動に伴う研究指導体制の変更について

5) 大学院委員会の活動報告

(1) 大学院入試・広報委員会

活動目的	1) 学生の確保、学生募集に関する事項 2) 学生募集要項に関する事項 3) 入学者の選抜方法に関する事項 4) 入学試験の実施に関する事項 5) その他入学試験に関する事項
構成員	委員長：森田一三 委員：岡田摩理、南谷志野、清水みどり、巻野雄介、中島伸一 事務局：企画・地域交流課 中根春波、寺本庄吾、奥映理菜
委員会 開催回数	12回
活動概要	1) 学生の確保、学生募集に関する事項 (1) 大学院説明会 第1回 2023年6月10日(土)及び第2回 2023年10月28日(土)の2回実施し、オンラインと対面を併用して開催した。参加者は、第1回は修士課程22名、第2回は修士課程10名、博士課程2名であった。 (2) 大学院説明会の案内の作成と配布 大学院説明会の案内は、近畿圏私立大学(72大学)、中部圏の専門学校(84校)、中部圏の赤十字病院(19病院)、400床以上の県内病院(37病院)、実習施設(76施設)に送付した。 (3) 広報戦略に関する検討 ①第1回大学院説明会について、同日に大学院特別講演会が開催され、大学院説明会への参加を促すため、オンライン参加者に向けたZoomのURLの統一などを大学院教務・学生委員会と協同して行った。 ②中部ブロック赤十字病院セミナーにおいて、赤十字病院の看護師への広報としてチラシを作成し、大学ガイドブックとともに25部配布した。 ③専門職向け研修会等の参加申込者の個人情報を収集し、大学院説明会開催の案内メールを送付した。(送付人数：第1回120名、第2回204名) ④卒業生宛ての広報として、卒後5年目以降の学年を対象にSMSを利用して大学院説明会の案内を送信した。(送付人数：第1回1309名、第2回1320名) 2) 学生募集要項に関する事項 冊子体での配布を中止し、ホームページから必要書類をダウンロードする方法を継続した。 3) 入学者の選抜方法に関する事項 2018年度に試験問題作成要領・面接実施要領を作成し、継続して活用した。 4) 入学試験の実施に関する事項 第1回 2023年9月2日(土)及び第2回 2024年2月17日(土)の2回実施した。受験者は10名(修士課程7名、博士課程3名)であった。 第1回：受験者4名(修士課程4名、博士課程0名) 第2回：受験者6名(修士課程3名、博士課程3名) 5) その他入学試験に関する事項 特になし
次年度の 課題	1) 大学院説明会の開催について 2) 学生募集活動の展開について

(2)大学院教務・学生委員会

活動目的	1) 教育課程及び履修に関する事項 2) 学生の試験及び単位の認定に関する事項 3) 学生の入学、退学、転学、留学、休学、復学及び除籍に関する事項 4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 6) 非常勤講師等に関する事項 7) その他教務、学生の指導等に関して必要な事項
構成員	委員長：長谷川喜代美 委員：小林尚司、東野督子、岡田摩理、加藤信子、ロベル智子 事務局：学務課 木村美希
委員会 開催回数	19回（文書審議 8 件含む）
活動概要	1) 教育課程及び履修に関する事項 (1) 履修証明プログラムの履修期間に関する検討 令和 5 年度より教育訓練給付金対象講座への申請を見据え、要件に適合するよう履修期間を 1 年に短縮したが、学生から 2 年履修の希望があったため、その場合の申請手続き方法について検討し、関係規程を改正した。 (2) 新規 CNS コースの開設にむけた準備 老年・在宅看護学領域から提出された「老年看護 専門看護師コース」の内容について確認を行うとともに、令和 6 年度からのコース設置に向けて必要となるカリキュラム改正や規程改正、学生便覧の修正等を行った。 (3) 研究計画発表会 研究計画発表会を以下のとおり実施した。 第 1 回 開催日：2023 年 7 月 5 日（水）発表者：8 名 第 2 回 開催日：2024 年 1 月 19 日（金）発表者：1 名 (4) 修士論文・課題研究論文発表会 修士論文・課題研究論文発表会を以下のとおり実施した。 第 1 回 開催日：2023 年 7 月 12 日（水）発表者：2 名 第 2 回 開催日：2024 年 1 月 19 日（金）発表者：1 名 (5) 研究計画審査 研究計画審査件数は、9 件であった。 (6) 修士論文・課題研究論文審査 修士論文及び課題研究論文審査件数は、3 件であった。 (7) 論文審査等に係る書類手続き方法の見直し 令和 4 年度に引き続き、審査関連手続きの利便性を向上するため検討を行い、審査後の修正した研究計画書や論文の再提出についてメール提出が可能になるよう手続き方法を変更・周知し、7 月研究計画発表会発表者の審査から適用した。計 7 名述べ 13 回分の研究計画書の再提出がメールにて提出された。 (8) 履修の事前確認 学生の履修計画及び履修登録申請内容を確認し、各科目の開講にかかる事前調整を行った。 (9) 授業評価の実施 授業評価アンケートを実施・集計し、学生評価及び教員の自己評価の内容を確認し、結果の公表（履修者一名の科目は個別フィードバック）を実施した。 (10) ディプロマポリシーの評価 令和 4 年度修了生におけるディプロマポリシー毎の GPA 及び修了時の学生アンケート結果を用いて評価を行った。 (11) オンライン開講を活用した学生の履修支援 授業や発表会をオンライン開講（ハイブリッド開講含む）し、就業しながらの学修を支援した。 2) 学生の試験及び単位の認定に関する事項 (1) 既修得単位の確認 既修得単位認定申請に基づき、既修得単位の認定について確認した。 (2) 単位修得状況の確認 各科目担当教員から提出された成績評価に基づき、科目の単位修得状況を確認した。 (3) 成績確認方法の変更 学生の成績確認の利便性を向上させるため、ペーパーレス化の一環として従来セメスターごとに紙媒体で配付していた成績表の紙配付を廃止し、学務システムから確認できるようにした。

活動概要	<p>3) 学生の入学、退学、転学、留学、休学、復学及び除籍に関する事項</p> <p>(1) 学生の入学、退学、休学、復学 学生の入学、退学、休学、復学者数及び長期履修の申請件数は表 1 のとおりであった。</p> <p>表 1 2023 年度 学生の入学、退学、休学、復学者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>修士課程</th> <th>博士課程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>退学</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>休学</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>復学</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>長期履修申請 (R6 入学分)</td> <td>6</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 研究生・履修証明プログラム履修生・科目等履修生・聴講生の受入れ 研究生・履修証明プログラム履修生・科目等履修生・聴講生の受入れは、表 2 のとおりであった。</p> <p>表 2 2023 年度 研究生・履修証明プログラム履修生・科目等履修生・聴講生受入数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究生</td> <td colspan="2">3</td> </tr> <tr> <td>履修証明プログラム履修生</td> <td colspan="2">3 (うち 2 名は R4 からの継続)</td> </tr> <tr> <td>科目等履修生</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>聴講生</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>より出願しやすい制度とするため、研究生、履修証明プログラム履修生、科目等履修生、聴講生の出願書類を見直し、令和 6 年度の募集から必要書類のうち「所属長の承諾書」の提出を廃止した。当該書類の廃止に付随して、赤十字職員の入学料減免にかかる手続き方法の整理が必要と見込まれたことから、「学生納付金等規程」の改正案について、関係課に情報提供を行った。</p> <p>入学前の単位修得の利便性を向上させるため、履修証明プログラムと科目等履修の併用について検討し、履修証明プログラム履修生が科目等履修を追加で行うことができるよう、関係規程を改正した。</p> <p>4) 学生の賞罰及び厚生補導に関する事項 学内での健康診断について案内した。</p> <p>5) 学生の進路並びに就職指導に関する事項 修了生の学位論文の投稿・掲載状況および認定看護管理者・専門看護師の資格取得者数を確認した。 修了生アンケートを実施し、修了後のキャリア状況等の把握を行った。 「認定看護管理者コース」について、師長経験年数の要件により修了後すぐに受験ができない修了生がいることに対応した修了後の継続アンケートの実施方法について検討し、令和 5 年度から調査を開始した。令和 5 年度調査においては対象者 2 名ともに、師長経験年数の要件により、受験可能となる時期が未定との結果であった。</p> <p>6) 非常勤講師等に関する事項 『組織経営・経済論』および『老年病の病態と治療』の次年度開講にかかる新規非常勤講師について、大学院科目・研究担当審査委員会に申請した。 『医療安全論』の科目時間内講師について審査を行った。</p> <p>7) その他教務、学生の指導等に関して必要な事項</p> <p>(1) 大学院特別講演会の開催 テーマ：理論に基づく病院における身体拘束低減化の成果 講師：聖隷三方原病院 老人看護専門看護師 佐藤晶子 氏 日時：2023 年 6 月 10 日 (土) 13:00 ~ 13:50 開催方法：オンライン (Zoom 使用)・対面のハイブリッド開催 参加人数：214 名 (内訳：26 名 (院生 7 名、教員 8 名、職員 1 名、卒業生・修了生 1 名、医療機関関係者 9 名)、WEB 参加 188 名 (院生 10 名、学部生 2 名、教員 5 名、卒業生・修了生 6 名、医療機関関係者 138 名、教育機関関係者 5 名、一般・その他 (不明含む) 22 名))</p> <p>(2) サテライトキャンパス活用の評価を行うための、調査方法の検討 中期計画に基づき、サテライトキャンパスの活用について現状の評価を行うため、キャンパスライフアンケートの項目に当該項目を追加するよう調整を行った。</p>		修士課程	博士課程	入学	4	1	退学	0	0	休学	1	6	復学	0	2	長期履修申請 (R6 入学分)	6	1		前期	後期	研究生	3		履修証明プログラム履修生	3 (うち 2 名は R4 からの継続)		科目等履修生	2	4	聴講生	1	0
		修士課程	博士課程																															
入学	4	1																																
退学	0	0																																
休学	1	6																																
復学	0	2																																
長期履修申請 (R6 入学分)	6	1																																
	前期	後期																																
研究生	3																																	
履修証明プログラム履修生	3 (うち 2 名は R4 からの継続)																																	
科目等履修生	2	4																																
聴講生	1	0																																
次年度の課題	<p>1) 審査手続きのペーパーレス化等、社会人学生がより学びやすいような手続きの合理化について検討する。</p> <p>2) 令和 6 年度新設の老年・在宅看護学領域 専門看護師コースについて円滑に運営を行う。</p> <p>3) 履修証明プログラム・科目等履修制度の活用促進にむけた制度の認知向上施策を検討する。</p>																																	

8. 事務局運営

1) 今年度の取り組み

第三次中期計画の最終年度の取り組みとして、通常業務に加え以下の事務局運営を行なった。

(1) 開学 20 周年記念事業

本学におけるイベント

①日本赤十字豊田看護大学コンサート

新日本フィル・ビオラ奏者プロデュースによる演奏会を本学講堂にて開催し、本学及び近隣大学の学生をはじめ高校生や地元の方を招いた芸術に触れる機会を設けた。

②富田理事長による特別講演会

本学学生を対象に、日本赤十字学園の富田理事長による特別講演会を実施した。

③開学 20 周年記念特別講演会

アントレプレナー 2015 日本代表に選ばれた株式会社東海メディカルプロダクツ会長の筒井宣政氏による、大動脈内バルーンカテーテル開発に成功した経験をもとに、学生たちに向けた講演会を実施した。

④記念式典・記念講演会・シンポジウム

行政、関係医療機関、赤十字関係の多くのご来賓をお招きし、開学 20 周年記念式典を開催した。記念講演会では、名古屋大学名誉教授・福和伸夫氏による講演を行い、続いて記念講演会のテーマである「防災・減災」に基づいて、各有識者によるシンポジウムを開催した。

学習環境の整備に関わる事業

①講堂に LED ビジョンを設置

国内 6 つの赤十字大学をオンラインで繋いだ合同事業の実施や、他大学や研究機関と連益した公開講座や学術講演会の開催をすることができるように、本学講堂に LED ビジョンを設置した。設置にあたり、法人及び個人の方から多大な協力を得ることで設置ができた。

②e-ポートフォリオの構築

学生の学習環境の改善を目的として、自らの学びの達成状況を客観的に整理・点検することができる教育システム導入の準備をした。

③「赤十字学」を立ち上げるための赤十字史料の調査

愛知県犬山市に所在する博物館明治村では、明治から昭和にかけて博愛社・日本赤十字社が残した内部文書や記録写真、寄贈図書を所蔵し、本学が保管している。これらの貴重な史料を活用することで、「赤十字学」の立ち上げの準備を推進した。

④国際性豊かな学生の育成

2018 年から継続しているタイ赤十字看護大学との MOU (Memorandum of Understanding) に関して、締結から 5 年の節目を迎え、一部の項目に修正を加えて再締結をした。双方の学生による交流はコロナ禍により中断をしていたが、今年度から相互交流を開始した。

⑤いとすぎプロジェクト

開学 20 周年の記念として、キャンパス内にあるイタリア赤十字社から日本赤十字社経由で送られた「いとすぎ」を、挿し木により増やすことで赤十字のシンボルツリーを増やす予定にしており、現在育成中である。

(2) 令和 6 年能登半島地震に係る職員の派遣

2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震において、日赤愛知県支部との連携のもと、翌日の 2 日に本学に保管している日赤愛知県支部の災害物品（毛布、安眠セット、避難所用パーティション）を被災地である石川県七尾

市役所に輸送した。また、災害対策本部となった日赤石川県支部を支援するために、日赤愛知県支部を通じて本学職員を派遣した。

(3) LED 照明への切り替え

開学時に整備された照明設備は、経年劣化による不具合等が発生していたため、大講義室、中講義室、小講義室、事務室等の LED 照明への切り替え工事を実施した。工事期間は、2023 年 11 月に着工し、2024 年 2 月に完了した。

(4) 教室 AV 機器の更新

開学以来 AV 設備及び操作盤など更新されておらず、機器の老朽化により音の不鮮明さ、画質の粗さ、接続不良などの問題が度々発生していたため、2022 年度に大講義室 1・2・3 の音響機器、映像・音声制御装置、カメラ、プロジェクター、マイクの更新整備を行い、本年度に小講義室と中講義室の更新を行った。

2) 課題

日本赤十字学園として、「学校法人日本赤十字学園の 2040 年度に向けたグランドデザイン」を策定し、それを受けて 2024 年度から 2028 年度までの第四次中期計画を併せて策定した。今年度は、本中期計画の初年度となり、新たな中期計画に基づいた本学の計画を着実に推進する必要がある。

Ⅲ 看護学部教育活動

1. カリキュラム

1) 教育目的・目標

本学は、大学の目的である「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させること」(学校教育法第83条)と、建学の精神である人道を基盤とした赤十字の思想を備えた人材を涵養する。

それは、赤十字の理念に基づく全人的、科学的な看護を実践するための主体的な行動力、感性を兼ね備えた人間性と社会性豊かな個人を育み、さらには国内外の保健・医療・福祉・救護の場で個人を尊重した看護活動ができる基礎力を有し、看護の教育・研究の発展に資することができる看護専門職の育成をすることである。

【教育目標】

これらの教育理念と目的を達成するために、以下に(1)～(6)の目標を置く。

- (1) 赤十字の人道理念を実践できる看護専門職を育成する。
- (2) 人格の成熟・自立をはかり、他者との関係性を発展させることができる能力を培う。
- (3) 事実を的確に判断し、問題を抽出し、創造的に解決できる能力を育む。
- (4) 看護の基礎を踏まえ、科学的・倫理的判断に基づく看護を提供できる能力を養う。
- (5) 社会的責任を自覚し、生涯にわたって学習し、他の専門職と協働活動し得る能力を養う。
- (6) 常に世界に関心を持ち、看護実践を通じて国際貢献できる能力を養う。

2) ディプロマポリシー

本学の教育理念、教育目的、教育目標を実現することを意図したカリキュラムを編成し、所定の単位を修めた学生は卒業が認定され、学士(看護学)の学位を授与する。卒業までに以下に挙げるようなことを身に着けることが求められる。

- (1) 赤十字の基本原則を理解し、人間としての尊厳と権利を尊重・擁護するために専門的立場から行動することができる。
- (2) コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につけ、人の生命や生きる営みを支えることができる。
- (3) 一人の人間を身体的・精神的・社会的な側面から、統合的に理解することができる。
- (4) 事実を把握したうえで、専門的知識、先行研究、経験等を活用し、状況について多角的に分析・評価を行い、問題を創造的に解決することができる。
- (5) 健康問題に対する人間の反応を把握し、個別性を尊重した看護を的確かつ安全に実施することができる。
- (6) 地域社会における保健・医療・福祉・救護の分野で看護が担うべき役割を認識し、他の専門職と協働して看護ケアを実施することができる。
- (7) 自己啓発力・自己学習力をもって、生涯にわたって学び続けることができる。
- (8) 国際社会における健康ニーズを把握するために異文化の理解に努め、グローバルな視野に立って、専門職としての看護の役割を認識することができる。
- (9) 災害時の救護、災害関連死の予防、防災教育などを実践するための基礎的能力を養い、被災者の生活に関する健康ニーズを理解することができる。

3) 教育課程表

教育課程表 (2020 年度以降入学者適用)

区分	授業科目	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件	履修年次及び単位数											
		必修	選択			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		計			
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧				
教養科目	哲学		1	15	必修 15 単位 選択 7 単位 以上		1								1		
	教育学		2	30			2									2	
	生命倫理	1		15					1							1	
	人間発達論	1		15			1									1	
	家族論	1		15				1								1	
	法学・日本国憲法		2	30			2									2	
	音楽論		1	15				1								1	
	英語Ⅰ	1		30			1									1	
	英語Ⅱ	1		30				1								1	
	英語Ⅲ	1		30					1							1	
	英語Ⅳ	1		30						1						1	
	英語Ⅴ	1		30							1					1	
	上級英語		1	30											1	1	
	スペイン語		1	30				1								1	
	ポルトガル語		1	30				1								1	
	社会学		2	30			2									2	
	環境問題と健康	1		15			1									1	
	文化人類学		2	30			2									2	
	日本文化論		1	15				1								1	
	情報リテラシー	1		15			1									1	
	スポーツ健康科学	1		15				1								1	
	スポーツレクリエーション実技	1		30			1									1	
	遺伝と健康		1	15								1				1	
	看護プロフェッショナルセミナー	1		30			1									1	
	ボランティア活動論		1	30				1								1	
	赤十字原論	1		15			1									1	
	赤十字と活動	1		15				1								1	
	赤十字総合セミナー		1	15				1								1	
	小計		15	17		645	22	13	13	2	1	1	1	0	1	32	
	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	2			60	必修 21 単位	2									2
		形態機能学Ⅱ	2			60			2								2
		形態機能学Ⅲ	1			15			1								1
免疫学		1		15		1									1		
栄養代謝学		1		30		1									1		
人間工学		1		30				1							1		
公衆衛生学		1		15				1							1		
社会福祉学		1		30				1							1		
保健医療福祉行政論Ⅰ ※		1		15					1						1		
保健医療福祉行政論Ⅱ ※			2	30						2					2		
保健情報演習 ※		1		30				1							1		
保健統計 ※		1		30					1						1		
疫学Ⅰ ※		1		15							1				1		
疫学Ⅱ ※			1	30							1				1		
薬理学		1		30					1						1		
微生物学		1		15		1									1		
感染制御論		1		15					1						1		
病理学		1		15				1							1		
臨床検査概論		1		15					1						1		
リハビリテーション論		1		30					1						1		
臨床心理学		1		15				1							1		
小計		21	3	540	21	6	8	6	2	2	0	0	0	24			

III 看護学部教育活動

区分	分野	領域	授業科目	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件	履修年次及び単位数									
				必修	選択			1年次		2年次		3年次		4年次		計	
								①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
専門科目	基礎看護学	基礎看護学	看護学概論	2		30		2								2	
			コミュニケーション論	1		15		1									1
			看護過程Ⅰ	1		15				1							1
			看護過程Ⅱ	1		15				1							1
			ヘルスアセスメント基礎	1		30				1							1
			看護倫理学	1		15						1					1
			基礎看護技術Ⅰ	1		30			1								1
			基礎看護技術Ⅱ	1		30				1							1
			基礎看護技術Ⅲ	1		30					1						1
			基礎看護学実習Ⅰ	1		45				1							1
			基礎看護学実習Ⅱ	2		90						2					2
			看護管理学Ⅰ	1		15					1						1
			看護管理学Ⅱ	1		15						1					1
			医療安全論	1		15							1				1
			看護キャリア開発論		1	15									1		1
	看護管理学実習	1		45									1		1		
	ケア創生看護学	成人看護学	成人急性期病態・治療論Ⅰ	1		30			1							1	
			成人急性期病態・治療論Ⅱ	1		30				1						1	
			成人慢性期病態・治療論Ⅰ	1		30				1						1	
			成人慢性期病態・治療論Ⅱ	1		30					1					1	
			成人急性期看護学概論	1		15				1						1	
			成人周術期看護論	1		30					1					1	
			クリティカルケア論	1		30						1				1	
			成人慢性期看護学概論	1		15				1						1	
			成人慢性期援助論Ⅰ	1		30					1					1	
			成人慢性期援助論Ⅱ	1		30						1				1	
			成人看護学技術演習Ⅰ	1		30					1					1	
			成人看護学技術演習Ⅱ	1		30						1				1	
			成人看護学基盤実習	2		90							2			2	
			成人急性期看護学実習	2		90							2			2	
			成人慢性期看護学実習	2		90							2			2	
	地域共生看護学	母性看護学	母性病態・治療論	1		30					1					1	
			母性看護学概論	2		30					2					2	
			母性看護学援助論	1		30					1					1	
			母性看護学技術演習	1		30					1					1	
			母性看護学実習	2		90						2				2	
		小児看護学	小児病態・治療論	1		30				1						1	
			小児看護学概論	2		30					2					2	
			小児看護学援助論	1		30					1					1	
			小児看護学技術演習	1		30					1					1	
			小児看護学実習	2		90						2				2	
		災害看護学	老年看護学	老年病態・治療論	1		30				1						1
				老年看護学概論	2		30					2					2
				老年看護学援助論	1		30					1					1
				老年看護学技術演習	1		30					1					1
				老年看護学実習Ⅰ	3		135						3				3
	在宅看護学		老年看護学実習Ⅱ	1		45						1				1	
			在宅看護学概論	2		30					2					2	
			在宅看護学援助論	1		30					1					1	
			在宅看護学技術演習	1		30					1					1	
在宅看護学実習			2		90						2				2		
精神看護学	精神病態・治療論		1		30					1					1		
	精神看護学概論		2		30					2					2		
	精神看護学援助論		1		30					1					1		
	精神看護学技術演習		1		30					1					1		
	精神看護学実習		2		90						2				2		
災害看護学	災害看護学概論	2		30					2					2			
	災害看護学援助論	1		30					1					1			
	災害看護学技術演習Ⅰ	1		30					1					1			
	災害看護学技術演習Ⅱ	1		15								1		1			
	国際救援看護論		1	15					1					1			
国際救援看護論演習		1	30					1					1				
国際救援看護論実習		1	45						1				1				
国際救援と英語		1	15					1					1				

区分	分野	領域	授業科目	単位数		時間数	履修方法及び卒業要件	履修年次及び単位数												
				必修	選択			1年次		2年次		3年次		4年次		計				
								①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧					
専門科目	地域共生看護学	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ ※	1		15	必修 83単位										1			
			公衆衛生看護学概論Ⅱ ※		1	15				1									1	
			保健指導方法論 ※		2	30						2								2
			健康教育方法論Ⅰ ※		1	15						1								1
			健康教育方法論Ⅱ ※		1	30						1								1
			家族生活支援論 ※		2	30								2						2
			産業看護論 ※		1	15						1								1
			学校看護論 ※		1	15						1								1
			地区活動論 ※		2	30								2						2
			地域診断論 ※		4	60							4							4
			公衆衛生看護管理 ※		2	30										2				2
			公衆衛生看護学実習 ※		5	225											5			5
			知の統合	看護の技と	心のリハビリテーション			1	15							1				
	ヘルスアセスメント応用	1				15						1							1	
	技術特別演習	1				15										1			1	
	統合実習	1				45										1			1	
	卒業研究Ⅰ	1				15									1				1	
	卒業研究Ⅱ	2				60											2		2	
	小計	83			28	3045				83	4	3	14	31	20	25	12	2		111
	合計							126	23	24	22	34	23	26	12	3		167		

※：保健師教育課程を専攻する学生は必修

科目担当教員一覧

科目名	単位数		時間数	担当教員
	必修	選択		
哲学		1	15	村瀬雅俊
教育学		2	30	龍崎忠
生命倫理	1		15	森下直貴
人間発達論	1		15	青柳真紀子
家族論	1		15	大西文子
法学・日本国憲法		2	30	早野暁
音楽論		1	15	中野里美
英語Ⅰ	1		30	鈴木寿摩・松崎久美
英語Ⅱ	1		30	鈴木寿摩・松崎久美
英語Ⅲ	1		30	鈴木寿摩・松崎久美
英語Ⅳ	1		30	鈴木寿摩・松崎久美
英語Ⅴ	1		30	鈴木寿摩・松崎久美
上級英語		1	30	Steeve Plante
スペイン語		1	30	プストス・シアン カルロ
ポルトガル語		1	30	ヴァスコンセロスクラウディオ
社会学		2	30	加藤典子
環境問題と健康	1		15	谷地俊二・今井奈妙
文化人類学		2	30	渡辺道斉
日本文化論		1	15	永井博
情報リテラシー	1		15	森田一三・高見精一郎
スポーツ健康科学	1		15	三浦真理子
スポーツレクリエーション実技	1		15	三浦真理子
遺伝と健康		1	15	西垣昌和
看護プロフェッショナルセミナー	1		30	森田一三・カルデナス暁東・小林尚司・野口真弓・岡田摩理・南谷志野・岡津愛子・清水美代子・神道那実・原田真澄・深谷由美・千葉朝子・武田智美・高見精一郎
ボランティア活動論		1	30	長谷川喜代美・下間正隆・鈴木寿摩・高見精一郎・中村将洋
赤十字原論	1		15	小林洋子・河合利修・伊藤明子
赤十字と活動	1		15	小林洋子
赤十字総合セミナー		1	15	小林洋子・松崎久美・巻野雄介・石黒千映子・羽川綾子・長尾佳世子・藤井愛海
形態機能学Ⅰ	2		60	金澤寛明
形態機能学Ⅱ	2		60	金澤寛明
形態機能学Ⅲ	1		15	金澤寛明
免疫学	1		15	錦見昭彦
栄養代謝学	1		30	米田雅彦
人間工学	1		30	斎藤真
公衆衛生学	1		15	森田一三
社会福祉学	1		30	西本彩香
保健医療福祉行政論Ⅰ※	1		15	日比野絹子・柴川ゆかり
保健医療福祉行政論Ⅱ※		2	30	片岡博喜
保健情報演習※	1		30	森田一三・高見精一郎
保健統計※	1		30	森田一三
疫学Ⅰ※	1		15	森田一三
疫学Ⅱ※		1	30	森田一三
薬理学	1		30	池田義明
微生物学	1		15	清水宣明
感染制御論	1		15	下間正隆
病理学	1		15	黒川景
臨床検査概論	1		15	下間正隆・山田雅之
リハビリテーション論	1		30	横田元実・金田嘉清・鈴木めぐみ・谷川広樹・小山総市朗
臨床心理学	1		15	目黒達哉
看護学概論	2		30	山田聡子
コミュニケーション論	1		15	中島佳緒里
看護過程Ⅰ	1		15	山田聡子・竹内貴子
看護過程Ⅱ	1		15	中島佳緒里・山田聡子・巻野雄介・竹内貴子
ヘルスアセスメント基礎	1		30	巻野雄介・山田聡子・中島佳緒里・竹内貴子・近藤絵美・西久保ひろみ
看護倫理学	1		15	山田聡子
基礎看護技術Ⅰ	1		30	中島佳緒里・巻野雄介・竹内貴子・近藤絵美・西久保ひろみ・山田聡子
基礎看護技術Ⅱ	1		30	中島佳緒里・巻野雄介・竹内貴子・近藤絵美・西久保ひろみ・山田聡子
基礎看護技術Ⅲ	1		30	竹内貴子・中島佳緒里・巻野雄介・近藤絵美・西久保ひろみ・山田聡子
基礎看護学実習Ⅰ	1		45	山田聡子・中島佳緒里・巻野雄介・竹内貴子・近藤絵美・西久保ひろみ
基礎看護学実習Ⅱ	2		90	山田聡子・中島佳緒里・巻野雄介・竹内貴子・近藤絵美・西久保ひろみ
看護管理学Ⅰ	1		15	南谷志野・下久保亮太
看護管理学Ⅱ	1		15	南谷志野・下久保亮太
医療安全論	1		15	南谷志野・下久保亮太
看護キャリア開発論		1	15	南谷志野・下久保亮太
看護管理学実習	1		45	南谷志野・下久保亮太
成人急性期病態・治療論Ⅰ	1		30	下間正隆
成人急性期病態・治療論Ⅱ	1		30	下間正隆
成人慢性期病態・治療論Ⅰ	1		30	下間正隆・杉野安輝・花木芳洋・加藤智則
成人慢性期病態・治療論Ⅱ	1		30	下間正隆・山本義浩・久保田恵章・太田喜久夫・一文字功・高杉浩司

科目名	単位数		時間数	担当教員
	必修	選択		
成人急性期看護学概論	1		15	東野督子
成人周術期看護論	1		30	東野督子・鎌倉やよい・棚川綾子
クリティカルケア論	1		30	東野督子・棚川綾子・河村諒・谷口純平
成人慢性期看護学概論	1		15	カルデナス暁東
成人慢性期援助論Ⅰ	1		30	カルデナス暁東・棚川綾子・河村諒
成人慢性期援助論Ⅱ	1		30	石黒千映子
成人看護学技術演習Ⅰ	1		30	棚川綾子・石黒千映子・田口栄子・河村諒・谷口純平・石田咲・カルデナス暁東・東野督子
成人看護学技術演習Ⅱ	1		30	石黒千映子・棚川綾子・河村諒・田口栄子・谷口純平・石田咲・カルデナス暁東・東野督子
成人看護学基盤実習	2		90	石黒千映子・東野督子・カルデナス暁東・棚川綾子・田口栄子・河村諒・谷口純平・石田咲
成人急性期看護学実習	2		90	東野督子・カルデナス暁東・石黒千映子・棚川綾子・田口栄子・河村諒・谷口純平・石田咲
成人慢性期看護学実習	2		90	カルデナス暁東・東野督子・石黒千映子・棚川綾子・田口栄子・河村諒・谷口純平・石田咲
母性病態・治療論	1		30	小口紀・幸脇 正典
母性看護学概論	2		30	野口眞弓
母性看護学援助論	1		30	野口眞弓・岡津愛子・千葉朝子
母性看護学技術演習	1		30	野口眞弓・岡津愛子・千葉朝子
母性看護学実習	2		90	野口眞弓・岡津愛子・千葉朝子
小児病態・治療論	1		30	後藤芳充・山田崇春・幸脇 正典・真島久和・側島健宏・犬飼幸子・石井睦夫
小児看護学概論	2		30	大西文子・岡田摩理
小児看護学援助論	1		30	岡田摩理・遠藤幸子・神道那実
小児看護学技術演習	1		30	神道那実・遠藤幸子・岡田摩理・大西文子
小児看護学実習	2			大西文子・岡田摩理・神道那実・遠藤幸子
老年病態・治療論	1		30	小林尚司・鎌倉やよい・下間正隆・森田一三・近藤敬太・小笠原雅彦・加藤真二・伊藤彰博
老年看護学概論	2		30	小林尚司・清水みどり・天木伸子・橋本亜弓
老年看護学援助論	1		30	小林尚司・清水みどり・天木伸子・橋本亜弓・近藤香苗
老年看護学技術演習	1		30	小林尚司・橋本亜弓・清水みどり・天木伸子・近藤香苗
老年看護学実習Ⅰ	3		45	小林尚司・清水みどり・天木伸子・橋本亜弓・近藤香苗
老年看護学実習Ⅱ	1		135	小林尚司・清水みどり・天木伸子・橋本亜弓・近藤香苗
在宅看護学概論	2		30	百瀬由美子・深谷由美・武田智美
在宅看護学援助論	1		30	武田智美・深谷由美・百瀬由美子
在宅看護学技術演習	1		30	深谷由美・武田智美・百瀬由美子
在宅看護学実習	2		90	百瀬由美子・深谷由美・武田智美
精神病態・治療論	1		30	平野千晶・水谷浩明
精神看護学概論	2		30	原田真澄・飯田大輔・山本壮則
精神看護学援助論	1		30	原田真澄
精神看護学技術演習	1		30	原田真澄・飯田大輔・山本壮則
精神看護学実習	2		90	原田真澄・飯田大輔・山本壮則
災害看護学概論	2		30	小林洋子・花木芳洋
災害看護学援助論	1		30	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
災害看護学技術演習Ⅰ	1		30	長尾佳世子・小林洋子・藤井愛海
災害看護学技術演習Ⅱ	1		15	長尾佳世子・小林洋子・藤井愛海・花木芳洋
国際救援看護論		1	15	長尾佳世子・藤井愛海
国際救援看護論演習		1	30	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
国際救援看護論実習		1	45	小林洋子・長尾佳世子・藤井愛海
国際救援と英語		1	15	鈴木寿摩・松崎久美
公衆衛生看護学概論Ⅰ	1		15	長谷川喜代美
公衆衛生看護学概論Ⅱ※		1	15	長谷川喜代美
保健指導方法論※		2	30	清水美代子
健康教育方法論Ⅰ※		1	15	清水美代子
健康教育方法論Ⅱ※		1	30	清水美代子
家族生活支援論※		2	30	長谷川喜代美
産業看護論※		1	15	清水美代子
学校看護論※		1	15	長谷川喜代美・清水美代子
地区活動論※		2	30	長谷川喜代美
地域診断論※		4	60	清水美代子
公衆衛生看護管理※		2	30	長谷川喜代美・清水美代子
公衆衛生看護学実習		5	225	長谷川喜代美・清水美代子
心のリハビリテーション		1	15	原田真澄・飯田大輔・山本壮則
ヘルスアセスメント応用	1		15	巻野雄介・山田聡子・中島佳緒里・竹内貴子・近藤絵美・西久保ひろみ
技術特別演習	1		15	東野督子・小林尚司・山田聡子・中島佳緒里・カルデナス暁東・巻野雄介・南谷志野・石黒千映子・清水みどり・天木伸子・竹内貴子・棚川綾子・橋本亜弓・西久保ひろみ・近藤絵美・河村諒・田口栄子・谷口純平・石田咲・近藤香苗
統合実習	1		45	看護専門教員全員
卒業研究Ⅰ	2		15	山田聡子・百瀬由美子・東野督子
卒業研究Ⅱ	4		60	専門基礎・専門科目の講師以上

※：保健師教育課程を専攻する学生は必修

4) カリキュラムポリシー

- (1) 本学では、教育理念と教育目的に基づくディプロマポリシーを達成するために、カリキュラムは、次のように編成している。すなわち、「教養科目」、「専門基礎科目」では、本学の建学の精神である「赤十字」の基本原則と活動について学ぶとともに、「人間」と「環境」との相互作用において生じる「健康」の様々な段階について学ぶ。さらに、「専門科目」では、基盤育成看護学、ケア創生看護学、地域共生看護学、看護学の技と知の統合の分野から「看護」について学ぶことができるよう各科目を位置づけている。
- (2) 本学の建学の精神である赤十字に関する科目は教養科目として位置づけ、赤十字の理念と活動を理解したうえで、主体的に探求する「赤十字総合セミナー」と、赤十字の理念を行動に移す「ボランティア活動論」を設置している。
- (3) コミュニケーション技術や生きる力への思いやりの態度を身につけ、人の生命や生きる営みを支える能力を育成することを目指したコミュニケーションツールである語学科目として英語と本学の地域性を活かしたスペイン語、ポルトガル語を設置し、特に英語は、「国際救援と英語」等、4年間、継続して学習できる機会を設け、各学年に配置している。
- (4) 看護の対象者と円滑なコミュニケーションを図るために、「コミュニケーション論」で基本を学び、そのうえで専門的なコミュニケーション技術を身につけることを目指して精神看護学領域の各科目を設置している。
- (5) 看護においては、一人の人間を統合的に理解することが重要である。そこで、人間のライフサイクルから変化を捉える「人間発達論」と「家族論」、遺伝やスポーツ、生活を営む社会や環境を知り、健康への影響を理解する「遺伝と健康」、「環境問題と健康」等、人間の身体的側面について理解する科目として、「形態機能学」、「病理学」、「感染制御論」等、精神的側面について理解する科目として「臨床心理学」を設置している。さらに、各看護学専門領域に病態・治療論を配置し、病態・治療と看護のつながりを強化していることも特徴である。
- (6) 看護のアセスメントの基盤となる検査・治療について理解する「臨床検査概論」、「薬理学」、「人間工学」、「リハビリテーション論」、さらに地域における看護を展開するために必要不可欠な「疫学」、「公衆衛生学」等も設置している。
- (7) 看護の専門性を追求するために基盤となる科目としては、「看護学概論」等と各看護学領域の援助論を設置し、「基礎看護学技術」をはじめとする各看護学領域における技術演習、実習、「技術特別演習」、「統合実習」で、看護の技と知の統合を目指す。また、保健・医療・福祉の場で看護の専門性を追求するための科目として、「看護管理学」等を設置し、地域社会における看護の役割を学ぶ科目にも力を入れ、「在宅看護学概論」、「公衆衛生看護学概論」等を設置している。
- (8) 赤十字の看護大学卒業生としての自負を持ち、看護師としてのキャリアイメージを強化するための「看護プロフェッショナルセミナー」やプロフェッショナルリズムの育成を目指した「看護キャリア開発論」、さらに生涯にわたって学び続けるための基礎力となる研究力を身につける科目として「卒業研究」も設置している。
- (9) 本学の教育課程の特長である国内外の救護の場における看護の役割を認識することと災害関連死の予防、防災教育を実践するための科目として、「災害看護学概論」、「国際救援看護論」等を設置している。

5)カリキュラムマップ

ディプロマポリシー						DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9
区分	授業科目	科目 ナンバー	配当 年次	必修/ 選択	単 位 数	尊厳と権 利を擁護 する力	生命・生 活を支え る力	人間を理 解する力	問題を解 決する力	看護を実 践する力	多職種と 協働する 力	自ら学び 続ける力	グローバ ルに視る 力	災害時の ニーズを 理解する力
◎：最も関連するディプロマポリシー、○：関連するディプロマポリシー														
教養科目	人間	哲学	B3L201	1	選択	1		◎						
	教育学	B3L202	1	選択	2			◎						
	生命倫理	B1L301	2	必修	1	◎								
	人間発達論	B3L101	1	必修	1			◎						
	家族論	B3L203	1	必修	1		○	◎	○	○	○			
	法学・日本国憲法	B3L102	1	選択	2			◎						
	音楽論	B3L204	1	選択	1			◎						
	英語Ⅰ	B2L103	1	必修	1		◎	○		○			○	
	英語Ⅱ	B2L205	1	必修	1		◎	○		○			○	
	英語Ⅲ	B2L302	2	必修	1		◎	○		○			○	
	英語Ⅳ	B8L401	2	必修	1		○	○		○			◎	
	英語Ⅴ	B8L501	3	必修	1		○	○		○		○	◎	
	上級英語	B2L801	4	選択	1		◎							
	スペイン語	B2L206	1	選択	1		◎							
	ポルトガル語	B2L207	1	選択	1		◎							
	環境	社会学	B3L104	1	選択	2			◎					
	環境問題と健康	B3L105	1	必修	1			◎						
	文化人類学	B3L106	1	選択	2			◎						
	日本文化論	B3L208	1	選択	1			◎						
	健康	情報リテラシー	B7L101	1	必修	1							◎	
スポーツ健康科学	B3L209	1	必修	1			◎							
スポーツレクリエーション実技	B3L107	1	必修	1			◎							
赤十字	遺伝と健康	B3L601	3	選択	1	○		◎		○				
看護プロフェッショナルセミナー	B7L108	1	必修	1								◎		
ボランティア活動論	B1L210	1	選択	1	◎	○				○			○	
赤十字原論	B1L109	1	必修	1	◎	○				○		○		
赤十字と活動	B1L211	1	必修	1	◎	○				○			○	
赤十字総合セミナー	B1L212	1	選択	1	◎	○						○		
専門基礎科目	人間	形態機能学Ⅰ	B3S101	1	必修	2		◎						
	形態機能学Ⅱ	B3S201	1	必修	2			◎						
	形態機能学Ⅲ	B3S202	1	必修	1			◎			○			
	免疫学	B3S102	1	必修	1			◎						
	栄養代謝学	B3S103	1	必修	1			◎						
	人間工学	B3S203	1	必修	1	○		◎		○	○			
	公衆衛生学	B6S204	1	必修	1						◎		○	
	社会福祉学	B6S205	1	必修	1	○	○				◎			
	保健医療福祉行政論Ⅰ ※	B6S301	2	必修	1		○		○	○	◎			
	保健医療福祉行政論Ⅱ ※	B6S401	2	選択	2		○		○	○	◎			
	保健情報演習 ※	B7S206	1	必修	1								◎	
	保健統計 ※	B6S302	2	必修	1				○		◎		○	
	疫学Ⅰ ※	B6S501	3	必修	1				○		◎			
	疫学Ⅱ ※	B6S502	3	選択	1				○		◎			
	健康	薬理学	B3S303	2	必修	1			◎		○	○		
微生物学	B3S104	1	必修	1			◎		○					
感染制御論	B3S304	2	必修	1			○	◎	○					
病理学	B3S207	1	必修	1			◎			○				
臨床検査概論	B3S305	2	必修	1			○	◎	○					
リハビリテーション論	B3S306	2	必修	1		○	◎		○	○				
臨床心理学	B3S208	1	必修	1		○	◎		○	○				

III 看護学部教育活動

区分	分野	領域	ディプロマポリシー				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	
			授業科目	科目 ナンバー	配当 年次	必修/ 選択	単 位 数	尊厳と権 利を擁護 する力	生命・生 活を支え る力	人間を理 解する力	問題を解 決する力	看護を実 践する力	多職種と 協働する 力	自ら学び 続ける力	グローバ ルに視る 力	災害時の ニーズを 理解する力
◎：最も関連するディプロマポリシー、○：関連するディプロマポリシー																
基礎看護学	基礎看護学	基礎看護学	看護学概論	B3N101	1	必修	2	○	○	○	○	◎	○	○		
			コミュニケーション論	B2N102	1	必修	1	○	○	◎	○	○	○	○		
			看護過程Ⅰ	B4N301	2	必修	1		○	○	◎	○	○	○		
			看護過程Ⅱ	B4N401	2	必修	1		○	○	◎	○	○	○		
			ヘルスアセスメント基礎	B4N402	2	必修	1		○	○	◎	○	○	○		
			看護倫理学	B1N501	3	必修	1	◎		○	○	○	○	○	○	
			基礎看護技術Ⅰ	B5N103	1	必修	1	○	○		○	◎	○	○		
			基礎看護技術Ⅱ	B5N201	1	必修	1	○	○		○	◎	○	○		
			基礎看護技術Ⅲ	B5N302	2	必修	1	○	○			◎	○	○		
			基礎看護学実習Ⅰ	B5N202	1	必修	1	○	○			◎	○	○		
基礎看護学実習Ⅱ	B5N403	2	必修	2	○	○	○	○	◎	○	○					
看護管理学	看護管理学	看護管理学	看護管理学Ⅰ	B4N303	2	必修	1		○	○	◎	○	○	○		
			看護管理学Ⅱ	B4N502	3	必修	1			○	◎	○	○	○		
			医療安全論	B3N601	3	必修	1			◎	○		○			
			看護キャリア開発論	B7N801	4	選択	1			○		○		◎	○	
看護管理学実習	B5N701	4	必修	1			○		◎	○						
ケア創生看護学	ケア創生看護学	成人看護学	成人急性期病態・治療論Ⅰ	B4N203	1	必修	1		◎	○						
			成人急性期病態・治療論Ⅱ	B4N304	2	必修	1			◎	○					
			成人慢性期病態・治療論Ⅰ	B4N305	2	必修	1			◎	○					
			成人慢性期病態・治療論Ⅱ	B4N404	2	必修	1			◎	○					
			成人急性期看護学概論	B3N306	2	必修	1	○	○	◎						
			成人周術期看護論	B4N405	2	必修	1	○	○			◎				
			クリティカルケア論	B4N503	3	必修	1	○	○			◎				
			成人慢性期看護学概論	B3N307	2	必修	1	○	○	◎						
			成人慢性期援助論Ⅰ	B4N406	2	必修	1		○	○	◎					
			成人慢性期援助論Ⅱ	B4N504	3	必修	1		○	○	◎					
			成人看護学技術演習Ⅰ	B5N407	2	必修	1	○	○			◎				
			成人看護学技術演習Ⅱ	B5N505	3	必修	1			○	○	◎				
			成人看護学基礎実習	B5N702	3~4	必修	2	○				◎	○			
			成人急性期看護学実習	B5N703	3~4	必修	2		○		○	◎				
成人慢性期看護学実習	B5N704	3~4	必修	2		○		○	◎							
小児看護学	小児看護学	小児看護学	母性病態・治療論	B4N408	2	必修	1			◎	○					
			母性看護学概論	B3N409	2	必修	2		○	◎	○		○			
			母性看護学援助論	B4N506	3	必修	1		○	○	◎					
			母性看護学技術演習	B5N507	3	必修	1		○	○	◎					
			母性看護学実習	B5N705	3~4	必修	2		○	○	◎					
			小児病態・治療論	B4N308	2	必修	1			◎	○					
老年看護学	老年看護学	老年看護学	小児看護学概論	B3N410	2	必修	2	○	○	◎	○	○				
			小児看護学援助論	B4N508	3	必修	1		○	○	◎					
			小児看護学技術演習	B5N509	3	必修	1		○	○	◎			○		
			小児看護学実習	B5N706	3~4	必修	2		○	○	◎			○		
			老年病態・治療論	B4N309	2	必修	1			◎	○					
			老年看護学概論	B3N411	2	必修	2		○	◎	○		○			
在宅看護学	在宅看護学	在宅看護学	老年看護学援助論	B4N510	3	必修	1		○	○	◎	○	○			
			老年看護学技術演習	B5N511	3	必修	1		○	○	◎		○			
			老年看護学実習Ⅰ	B5N707	3~4	必修	3		○	○	◎		○			
			老年看護学実習Ⅱ	B6N708	3~4	必修	1		○	○	◎		○			
			在宅看護学概論	B6N412	2	必修	2	○	○	○	○	◎				
			在宅看護学援助論	B6N512	3	必修	1		○	○	○	◎				
精神看護学	精神看護学	精神看護学	在宅看護学技術演習	B6N513	3	必修	1		○	○	◎					
			在宅看護学実習	B6N709	3~4	必修	2		○	○	◎					
			精神病態・治療論	B4N413	2	必修	1			◎	○		○			
			精神看護学概論	B3N414	2	必修	2	○	○	◎	○			○		
			精神看護学援助論	B4N514	3	必修	1		○	○	◎		○			
			精神看護学技術演習	B5N515	3	必修	1	○	○	○	◎		○			
災害看護学	災害看護学	災害看護学	精神看護学実習	B5N710	3~4	必修	2	○	○	○	◎					
			災害看護学概論	B9N310	2	必修	2		○	○	○	◎		○	◎	
			災害看護学援助論	B9N415	2	必修	1	○	○	○	○				◎	
			災害看護学技術演習Ⅰ	B9N516	3	必修	1	○	○	○	○				◎	
			災害看護学技術演習Ⅱ	B6N802	4	必修	1	○	○	○	○		◎		◎	
			国際救援看護論	B8N311	2	選択	1	○	○	○			○		◎	
			国際救援看護論演習	B8N416	2	選択	1	○	○	○	○				◎	
			国際救援看護論実習	B8N602	3	選択	1	○	○	○	○		○		◎	
			国際救援と英語	B8N312	2	選択	1	○	○	○	○				◎	
			公衆衛生看護学概論Ⅰ ※	B6N313	2	必修	1						◎			
			公衆衛生看護学概論Ⅱ ※	B6N417	2	選択	1						◎			
			公衆衛生看護学	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学	保健指導方法論 ※	B6N517	3	選択	2	○	○	○	○	◎	
健康教育方法論Ⅰ ※	B6N418	2				選択	1					◎				
健康教育方法論Ⅱ ※	B6N419	2				選択	1					◎				
家族生活支援論 ※	B6N603	3				選択	2		○	○	○	◎				
産業看護論 ※	B6N420	2				選択	1	○	○			◎				
学校看護論 ※	B6N421	2				選択	1			○	○	◎				
地区活動論 ※	B6N604	3				選択	2			○	○	◎				
地域診断論 ※	B6N422	2				選択	4			○	○	◎				
公衆衛生看護管理 ※	B6N711	4				選択	2			○	○	◎				
公衆衛生看護学実習 ※	B6N803	4				選択	5			○	○	◎				
看護の技と知の統合	看護の技と知の統合	看護の技と知の統合	心のリハビリテーション	B3N605	3	選択	1	○	○	◎			○			
			ヘルスアセスメント応用	B4N518	3	必修	1		○	○	◎			○		
			技術特別演習	B5N804	4	必修	1		○		◎					
			統合実習	B5N805	4	必修	1				◎					
			卒業研究Ⅰ	B7N606	3	必修	1				○			◎		
卒業研究Ⅱ	B7N806	4	必修	2				○			◎					

6) 2023年度 実習施設一覧

No	実習施設名	当該実習施設を使用する領域	No	実習施設名	当該実習施設を使用する領域	No	実習施設名	当該実習施設を使用する領域
1	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	成人看護学基礎実習 成人急性期看護学実習 成人慢性期看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 看護管理学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習(成人)	37	豊田地域訪問看護ステーション	在宅看護学実習 統合実習(在宅)	73	トヨタ紡織株式会社	公衆衛生看護学実習(産業)
2	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	成人看護学基礎実習 成人急性期看護学実習 成人慢性期看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 看護管理学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習(成人)	38	八千代訪問看護ステーション	在宅看護学実習	74	きたよし地域包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
3	刈谷豊田総合病院	小児看護学実習 母性看護学実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ	39	れんげ病院訪問看護ステーション	在宅看護学実習	75	なかよし地域包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
4	名古屋掖済会病院	基礎看護学実習Ⅱ	40	すみれ訪問看護ステーション	在宅看護学実習	76	みなよし地域包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
5	豊田厚生病院	成人看護学基礎実習 成人慢性期看護学実習 在宅看護学実習(訪問看護ステーション) 基礎看護学実習Ⅰ 統合実習(災害)	41	訪問看護ステーションひなた	在宅看護学実習	77	おかよし地域包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
6	トヨタ記念病院	母性看護学実習 在宅看護学実習(訪問看護ステーション) 統合実習(在宅)	42	訪問看護リハビリステーションからふる きよす	在宅看護学実習	78	社協包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
7	かなや助産所	母性看護学実習 統合実習(母性)	43	訪問看護ステーションえまい	在宅看護学実習	79	ほっとかん地域包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
8	北野ミッドワイフリー	母性看護学実習	44	常滑市民病院訪問看護ステーションさずな	在宅看護学実習	80	地域包括支援センター益富の楽園	統合実習(公衆衛生)
9	天白助産所	母性看護学実習	45	笑み訪問看護ステーション	在宅看護学実習	81	ひまわりの街地域包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
10	碧助産院	母性看護学実習	46	南医療生活協同組合(訪問看護ステーションもせやま)	在宅看護学実習	82	地域包括支援センター保見の里	統合実習(公衆衛生)
11	助産院マザーズ・プレイス	母性看護学実習	47	みよし市訪問看護ステーション	在宅看護学実習	83	まどいの丘包括支援センター	統合実習(公衆衛生)
12	ひまわり助産院	母性看護学実習 統合実習(母性)	48	テノハート訪問看護ステーション	在宅看護学実習 統合実習(在宅)	84	地域包括支援センターくちがいけ	統合実習(公衆衛生)
13	すこやか助産院	母性看護学実習 統合実習(母性)	49	ひまわり訪問看護ステーション	在宅看護学実習	85	日本赤十字社愛知県支部	統合実習(災害) 国際救援看護論実習
14	かおり助産院	母性看護学実習	50	愛知県がんセンター	看護管理学実習	86	豊根村役場	統合実習(災害)
15	星野助産院	母性看護学実習 統合実習(母性)	51	愛知県庁 保健医療局	統合実習(看護管理学領域)			
16	愛育母乳相談室	母性看護学実習	52	愛知県看護協会	統合実習(看護管理学領域)			
17	刈谷豊田東病院	老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習(訪問看護ステーション) 基礎看護学実習Ⅱ	53	愛知県ナースセンター	統合実習(看護管理学領域)			
18	高浜豊田病院	老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習(訪問看護ステーション)	54	エイトカラーズ訪問看護ステーション	統合実習(看護管理学領域)			
19	老人保健施設 ハピリスツツ木	老年看護学実習Ⅰ	55	名古屋市中村保健センター	公衆衛生看護学実習(行政)			
20	みよし市民病院	老年看護学実習Ⅰ	56	名古屋市港保健センター	公衆衛生看護学実習(行政)			
21	並木病院	老年看護学実習Ⅰ 統合実習(老年)	57	名古屋市南保健センター	公衆衛生看護学実習(行政)			
22	老人保健施設 メディコ平針	老年看護学実習Ⅰ 統合実習(老年)	58	名古屋市役所	公衆衛生看護学実習(行政)			
23	特別養護老人ホーム第2とよた苑	老年看護学実習Ⅱ 統合実習(老年)	59	豊田市保健所	公衆衛生看護学実習(行政)			
24	特別養護老人ホームみなみ福寿園	老年看護学実習Ⅱ 統合実習(老年)	60	豊橋市保健所	公衆衛生看護学実習(行政)			
25	特別養護老人ホームひまわりの街	老年看護学実習Ⅱ 統合実習(老年)	61	瀬戸保健所	公衆衛生看護学実習(行政)			
26	特別養護老人ホームひまわり邸	老年看護学実習Ⅱ	62	半田保健所	公衆衛生看護学実習(行政)			
27	特別養護老人ホーム日進ホーム	老年看護学実習Ⅱ	63	西尾保健所	公衆衛生看護学実習(行政)			
28	医療法人 研精会 豊田西病院	精神看護学実習 統合実習(精神)	64	日進市保健センター	公衆衛生看護学実習(行政)			
29	医療法人 静心会 桶狭間病院 藤田こころケアセンター	精神看護学実習 統合実習(精神)	65	阿久比町保健センター	公衆衛生看護学実習(行政)			
30	特定医療法人 共和会 共和病院	精神看護学実習 統合実習(精神)	66	幸田町保健センター	公衆衛生看護学実習(行政)			
31	医療法人 成精会 刈谷病院	精神看護学実習	67	公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団 あいし健康の森 健康科学総合センター	公衆衛生看護学実習(行政)			
32	豊田市立こども園	小児看護学実習	68	株式会社デンソー	公衆衛生看護学実習(産業)			
33	一般社団法人 Re Smile	統合実習(小児)	69	愛知製鋼株式会社	公衆衛生看護学実習(産業)			
34	豊田市立豊田特別支援学校	統合実習(小児)	70	東海旅客鉄道株式会社 健康管理センター	公衆衛生看護学実習(産業)			
35	刈谷市立刈谷特別支援学校 こども訪問看護ステーション mom	統合実習(小児)	71	日本たばこ産業株式会社	公衆衛生看護学実習(産業)			
36		統合実習(小児)	72	トヨタ関連部品健康保険組合	公衆衛生看護学実習(産業)			

7) 選択科目受講者数

(単位：名)

講義名	履修者数
哲学	8
教育学	58
法学・日本国憲法	126
音楽論	97
上級英語	2
スペイン語	18
ポルトガル語	5
社会学	114
文化人類学	125
日本文化論	13
遺伝と健康	14
ボランティア活動論	9
赤十字総合セミナー	2
保健医療福祉行政論Ⅱ	22
疫学Ⅱ	22
看護キャリア開発論	1
国際救援看護論	19
国際救援看護論演習	10
国際救援看護論実習	9
国際救援と英語	10
公衆衛生看護学概論Ⅱ	23
保健指導方法論	22
健康教育方法論Ⅰ	22
健康教育方法論Ⅱ	22
家族生活支援論	22
産業看護論	22
学校看護論	22
地区活動論	22
地域診断論	22
公衆衛生看護管理	22
公衆衛生看護学実習	22
心のリハビリテーション	4

8) 他大学との単位互換の状況

愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している。

加盟大学に所属する学生（系列の併設短期大学の学生を含む。）は、他の大学で開講される様々な科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度である。

2023年度は単位認定の実績はなかった。

2. 学生の受け入れ

1) アドミッションポリシー

- (1) 本学の建学の精神に共感できる人
- (2) 日本語力、英語力、科学的思考力を備えている人
- (3) 人間や社会に対して広く関心がある人
- (4) 社会常識を備え責任を持って行動できる人
- (5) 看護を学ぶ意志を持つ人

2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧

選抜区分	試験区分	募集定員	必須・選択	科目	配点	総点
学校推薦型 選抜	赤十字特別推薦選抜	30名程度	必須	英語	50点	153点
	高等学校長推薦選抜	30名程度		小論文	50点	
一般選抜	社会人特別選抜	2名	資格取得者のみ	面接	50点	
				英語4技能評価（英語資格・検定試験）	3点	

選抜区分	試験区分	募集定員	必須・選択	教科	科目	配点	総点	
一般選抜	大学独自選抜	40名	必須	外国語	「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」	100点	308点	
			必須	国語	「国語総合（古文・漢文を除く）」	100点		
			選択 1つを選択	数学	「数学Ⅰ・数学A 整数の性質及び場合の数と確率、図形の性質」	100点		
				理科	「化学基礎」（教科書に記載されている全範囲とし、参考、発展、コラムなども含む） 「生物基礎」（教科書に記載されている全範囲とし、参考、発展、コラムなども含む）			
			必須	多面的・総合的な評価		5点		
			資格取得者のみ	英語4技能評価（英語資格・検定試験）		3点		
	大学入学共通テスト 利用選抜（前期A）	6名	必須	外国語	「英語（リスニングを含む）」	100点	400点	
			必須	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100点		
			必須	数学	「数学Ⅰ・数学A」	100点		
			選択 1つを選択	理科	「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から2科目			100点
					「化学」			
					「生物」			
	「物理」							
	大学入学共通テスト 利用選抜（前期B）	6名	必須	外国語	「英語（リスニングを含む）」	200点	400点	
			選択 1つを選択	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100点		
				数学	「数学Ⅰ・数学A」			
選択 1つを選択			理科	「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から2科目		100点		
				「化学」				
				「生物」				
	「物理」							
大学入学共通テスト 利用選抜（後期）	6名	必須	外国語	「英語（リスニングを含む）」	100点	350点		
		必須	面接		50点			
		選択 1つを選択	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100点			
			数学	「数学Ⅰ・数学A」				
		選択 1つを選択	理科	「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から2科目			100点	
				「化学」				
「生物」								
「物理」								
		「地学」						

選抜区分	試験区分	募集定員	必須・選択	教科	科目	配点	総点	
一般選抜	大学入学共通テスト 利用選抜（6看護大 学連携併願）	若干名	必須	外国語	「英語（リスニングを含む）」	100点	300点	
			必須	国語	「国語総合（近代以降の文章）」	100点		
			選択 1つを選択	数学	「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」	100点		
				理科	「化学基礎、生物基礎、物理基礎、地学基礎」から2科目			
					「化学」			
					「生物」			
「物理」								
「地学」								

3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧

合計

(単位：名)

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2024年度	120	512	512	138
2023年度	120	530	527	132
2022年度	120	644	634	139

赤十字特別推薦選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2024年度	30名程度	15	15	15
2023年度	30名程度	16	16	13
2022年度	30名程度	24	24	23

高等学校長推薦選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2024年度	30名程度	26	26	26
2023年度	30名程度	31	31	29
2022年度	30名程度	51	51	46

社会人特別選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2024年度	2	1	1	1
2023年度	2	1	1	1
2022年度	2	2	2	2

大学独自選抜

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2024年度	40	231	231	91
2023年度	40	255	252	82
2022年度	40	326	319	57

共通テスト 前期A

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2024年度	6	109	109	1
2023年度	6	123	123	3
2022年度	6	103	103	5

共通テスト 前期B

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2024年度	6	108	108	3
2023年度	6	96	96	1
2022年度	6	123	123	2

共通テスト 後期

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2024年度	6	3	3	1
2023年度	6	8	8	3
2022年度	6	15	12	4

共通テスト 6看護大学連携併願

年度	定員	志願者数	受験者	入学者数
2024年度	若干名	19	19	0

3. 学生支援

1) 在籍学生数

(1) 在籍学生数（休学率・退学率・学位取得状況含む）

（単位：名）

入学年度	入学者数	在籍者数	退学者数	退学率	累積退学者数	累積退学率	休学者数	休学率	学位取得者数
2023年度入学生	132	132	1	0.8%	1	0.8%	0	0.0%	-
2022年度入学生	139	139	3	2.2%	3	2.2%	2	1.4%	-
2021年度入学生	134	134	1	0.7%	1	0.7%	1	0.7%	-
2020年度入学生	129	124	2	1.6%	7	5.4%	1	0.8%	114
2019年度以前入学生	-	1	0	0.0%	-	-	0	0.0%	1
合計	-	530	7	1.3%	-	-	4	0.8%	115

退学率：年度内の退学者数 / 在籍者数（退・休学者含む）

休学率：年度内の休学者数 / 在籍者数（退・休学者含む）

累積退学者数：入学以降の累積退学者数 / 入学者数（退・休学者含む）

(2) 卒業年限内の卒業率

（単位：名）

入学年度	標準修業年限	① 入学者数	② ①のうち 2023年度 未までに 修了した 学生数	③ ①のうち 2023年度 未までに 退学した 学生数	④ ①のうち 2024年度 現在在籍して いる学生数 (留年者数)	④' ④のうち 在学中に 休学した者 を除いた 留年者数	⑤' 2018年4月 入学生の 「標準修業 年限×1.5」 年内修了率	⑤ 標準修業年 限内修了率	⑥ 標準修業年 限を通じた 退学率
2020年度入学生	4年	129	114	7	8	2	97.8%	88.4%	5.4%

(3) 学位取得状況（取得者数）

2023年度の学士授与者は115名であった。（1名は2017年度入学生）

(4) 標準修業年限内修了率

2023年度の標準修業年限内修了率は88.4%であった。

2) チューター制度

教員と学生とのふれあいを通して学生生活を有意義に過ごすことができるように、また、学生の人格形成を援助していくことを目的としてチューター制度を設けている。

チューターである教員は、6～14人の学生を受け持ち、各学生が勉学活動に意欲的に取り組み、自己の適性や将来の目標を考慮しながら自己決定できるように支援している。

3) オフィスアワー制度

学生が教員と自発的に交流や相談ができるよう、オフィスアワーを設定している。

オフィスアワーは学務システムポータルサイト（メソフィア）及び教員の研究室前の掲示により学生に周知している。

4) 特待生制度

この制度は、本学生に対し、特待生として授業料を免除することにより、勉学を奨励するとともに学習意欲の高揚及び優秀な学生の確保を図ることを目的とする。なお、制度の種類は以下の通りである。

(1) A特待生

大学独自選抜の成績上位者であり、入学年度の年間授業料の全額が免除される者。

大学独自選抜の成績が上位5位までの者で、特待生となって入学する意思がある者を選定する。成績順位が同位の場合は、必須科目の合計点数が高い者を上位とする。

2023年度の対象者は2名であった。

(2) B特待生

入学後の前年度学業成績が上位であり、年間授業料の後期納付額を免除される者。

入学後の学業成績において、前年度に履修した必修及び選択科目の全てが再履修することなく評価「B」以上であって、必修科目の評点合計が上位10位までの者のうち、面接を実施の上、総合評価が上位である者5名を選定する。成績順位が同位の場合は、修得単位数の多い者を上位とする。また、選考にあたっては、連続してB特待生となることは妨げない。

2023年度の対象者は13名（2年生5名、3年生5名、4年生3名）であった。

5) 奨学金制度（2023年度奨学生数）

(1) 赤十字病院（支部長推薦者除く）

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する合計の比率
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院		5	11	12	28	5.3%
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	4	10	13	9	36	6.8%
福井赤十字病院				1	1	0.2%
諏訪赤十字病院	1			2	3	0.6%
安曇野赤十字病院					0	0.0%
岐阜赤十字病院					0	0.0%
静岡赤十字病院		2	2		4	0.8%
浜松赤十字病院		2	1	1	4	0.8%
裾野赤十字病院					0	0.0%
伊勢赤十字病院		2	1		3	0.6%
横浜市立みなと赤十字病院			1		1	0.2%
大津赤十字病院				1	1	0.2%
高浜赤十字病院	1				1	0.2%
合計	6	21	29	26	82	15.5%

(2) 支部長推薦（愛知県支部はC特別奨学生を計上）

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する合計の比率
愛知県支部	4	6	7	6	23	4.3%
富山県支部	1		2	1	4	0.8%
石川県支部				1	1	0.2%
福井県支部					0	0.0%
長野県支部		5	6	3	14	2.6%
岐阜県支部	1	2	3	3	9	1.7%
静岡県支部	6	5	9	6	26	4.9%
三重県支部		5	1	3	9	1.7%
合計	12	23	28	23	86	16.2%

(3) 日本赤十字社特別奨学金

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する合計の比率
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 (A 特別奨学生)					0	0.0%
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 (B 特別奨学生)				1	1	0.2%
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 (A 特別奨学生)					0	0.0%
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 (B 特別奨学生)			2	2	4	0.8%
合計	0	0	2	3	5	0.9%

(4) その他病院

(単位：名)

奨学金名貸与施設（病院名等）	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する合計の比率
刈谷豊田総合病院			4	2	6	1.1%
名古屋掖済会病院				1	1	0.2%
愛知医科大学病院				1	1	0.2%
松浪総合病院		1			1	0.2%
安城厚生病院	1				1	0.2%
合計	1	1	4	4	10	1.9%

(5) 病院以外の奨学金

(単位：名)

奨学金名	1年生	2年生	3年生	4年生	合計	在籍学生数に対する合計の比率
日本学生支援機構（第一種）	12	28	28	10	78	14.7%
日本学生支援機構（第二種）	26	27	24	22	99	18.7%
日本学生支援機構（給付型）	4	12	12	6	34	6.4%
日本学生支援機構（家計急変）			1		1	0.2%
日本赤十字看護師同方会	2	1	4	4	11	2.1%
岐阜県選奨生		1	1		2	0.4%
スルガ奨学財団	1				1	0.2%
合計	45	69	70	42	226	42.6%

6) 自治会活動支援

自治会は学生相互の信頼を基盤とし、会員の自主的な活動によって学生生活の充実と向上を図り、さらに看護活動への関心を高めることを目的として活動している。

自治会の活動について、総会や選挙等の自治会行事が規約に則って活動できるよう支援を行った。昨年度に引き続き、いとすぎ祭（大学祭）が開催され運営等の支援を行った。また、六大学交流会が4年ぶりに対面で開催され、本学から3名の学生が参加した。

7) 国家試験支援体制・状況

国家試験対策委員会が国家試験模擬試験を計画・実施している。準備および運営は、国家試験対策系の学生が中心となって行っている。2023年度は看護師模擬試験を7回、保健師模擬試験を3回実施し、看護師国家試験対策補講を10月から12月にかけて19コマ、保健師国家試験対策補講を12月に3コマ実施した。学生は計画的に

学習を進められるよう「学習計画シート」をチューターと共有し、模擬試験で得点率の低い分野についてチューターから指導を受けている。

8) 国家試験合格状況一覧

(単位：名)

	総 数				新 卒				合格率
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	不合格者数	全国合格率
第113回 看護師	117	117	115	98.3%	115	115	113	2	98.3%
									93.2%
第110回 保健師	22	22	22	100.0%	22	22	22	0	100.0%
									97.7%

9) キャリア支援体制・状況

年間を通じてチューターを中心に在学生の奨学金申請や病院採用試験のエントリーシートの記載方法や面接の受け方、学生に適した進路（就職先）をアドバイス、指導をおこなっている他、学年に応じた就職ガイダンスを実施している。

病院や企業、市町村からの奨学金や就職の募集は該当学年に周知する他、学生・キャリア支援室に掲示・フェイリングを行うなど積極的な広報に努めている。

新型コロナの影響により奨学金・就職説明会を4年間開催していなかったが、2023年度は12月に赤十字病院説明会を開催した。

2023年度就職ガイダンス一覧

No	対象	日時	内容	実施方法	実施業者	参加人数
1	3年生	2023年5月29日(月) 3限	就活準備スタート アップ講座	対面	マイナビ	96名
2	2年生	2024年1月10日(水) 3限	実習マナー講座	対面	マイナビ	118名
3	3年生	2024年1月10日(水) 5限	履歴書、面接対策講 座	対面	マイナビ	117名

10) 就職・進路状況一覧 (2023 年度卒業生)

(1) 就職

(単位：名)

中部ブロック赤十字病院	都道府県	市町村	奨学金あり	奨学金なし	計
諏訪赤十字病院	長野県	諏訪市	3	1	4
飯山赤十字病院	長野県	飯山市	1		1
富山赤十字病院	富山県	富山市	1		1
福井赤十字病院	福井県	福井市	1		1
金沢赤十字病院	石川県	金沢市	1		1
静岡赤十字病院	静岡県	静岡市	1		1
伊豆赤十字病院	静岡県	伊豆市	1		1
浜松赤十字病院	静岡県	浜松市	3		3
裾野赤十字病院	静岡県	裾野市	1		1
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	愛知県	名古屋市	16	11	27
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	愛知県	名古屋市	11	2	13
岐阜赤十字病院	岐阜県	岐阜市		1	1
高山赤十字病院	岐阜県	高山市	2		2
伊勢赤十字病院	三重県	伊勢市	3	1	4

その他の赤十字施設	都道府県	市町村	奨学金あり	奨学金なし	計
横浜市立みなと赤十字病院	神奈川県	横浜市		1	1
さいたま赤十字病院	埼玉県	さいたま市		1	1
武蔵野赤十字病院	東京都	武蔵野市		1	1
大津赤十字病院	滋賀県	大津市	1		1

その他の病院	都道府県	市町村	奨学金あり	奨学金なし	計
豊田厚生病院	愛知県	豊田市	2	6	8
トヨタ記念病院	愛知県	豊田市		5	5
刈谷豊田総合病院	愛知県	刈谷市	3	5	8
刈谷病院	愛知県	刈谷市		1	1
豊橋市民病院	愛知県	豊橋市		1	1
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	愛知県	名古屋市		1	1
名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院	愛知県	名古屋市		1	1
名古屋大学医学部附属病院	愛知県	名古屋市		2	2
名古屋セントラル病院	愛知県	名古屋市		1	1
愛知県医療療育総合センター中央病院	愛知県	名古屋市		1	1
名古屋掖済会病院	愛知県	名古屋市		1	1
愛知県がんセンター	愛知県	名古屋市		1	1
一宮西病院	愛知県	一宮市		2	2
小牧市民病院	愛知県	小牧市		1	1
愛知医科大学病院	愛知県	長久手市		2	2
藤田医科大学病院	愛知県	豊明市		1	1
藤田医科大学岡崎医療センター	愛知県	岡崎市		2	2
大垣市民病院	岐阜県	大垣市	1		1
さいたま市立病院	埼玉県	さいたま市		1	1
湘南美容クリニック	愛知県	豊橋市		1	1
看護師 合計			52	55	107

保健師	都道府県	市町村	就職者数	計
豊田市役所	愛知県	豊田市	1	1
知多市役所	愛知県	知多市	1	1
保健師 合計			2	2

養護教諭	都道府県	市町村	就職者数	計
				0

(2) 進学・その他

(単位：名)

進学・その他	都道府県	市町村	進学者数	計
静岡医療科学専門大専校	静岡県	浜松市	1	1
岐阜医療科学大学（助産師専攻）	岐阜県	可児市	1	1
ユマニテク看護助産専門学校	三重県	四日市市	1	1
一般就職			0	0
その他				3
進学、その他 合計				6

11) 2023 年度学生相談利用状況一覧

(1) 学年別 来談者数 (実人数)

(単位：名)

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	その他	合計
前期	6	3	5	0	1	15
後期	3	5	2	3	1	14

(2) 学生の月別相談回数 (累計)

(単位：名)

前期	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	計
	9	6	7	10	1	0	33
後期	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
	6	14	10	8	8		46

12) 学生生活調査結果

自己点検・評価の一環として、年 1 回学生生活に関する調査（キャンパスライフアンケート）を実施している。

【調査対象】 後期に在籍する学部学生

【調査方法】 Microsoft Forms を使用した自記式アンケート調査（無記名）

【実施期間】 2024 年 1 月 15 日（月）～ 2 月 9 日（金）

【回答率】 全体 51.4%（1 年生 53.4%・2 年生 59.4%・3 年生 41.0%・4 年生 51.6%）

【その他】 ・「メンタルヘルス相談」「ハラスメント相談」「健康相談」は利用度ではなく利便性を問いている

・ 1～5 の 5 段階評価とし、5 が最大評価値である

・ 分布図内のマーカーは、回答の平均値を示している

(1) アンケート結果の要約

本学のキャンパスライフについて、利用度・満足度ともに概ね高い評価結果であった。また、全体平均値において昨年度より利用度・満足度ともに高い傾向であった。

① 学部生の結果

全学年を通して、「図書館サービス」「大学からの各種情報提供」「自習環境」について、利用度・満足度ともに高い評価結果であった。満足度が最も高かったのは「図書館サービス」、利用度が最も高かったのは「大学からの

各種情報提供」であった。

学年別の特徴は以下のとおり。

- ・1年生は、利用度及び満足度ともに「大学からの各種情報提供」が高い評価であった。「チューター制度」は低い利用度であったが、満足度は高い評価であった。
- ・2年生は、「大学からの各種情報提供」「図書館サービス」が高い評価であった。
- ・3年生から開始する「国家試験対策セミナー」「国家試験模擬試験」は利用度・満足度ともに高い結果であった。
- ・4年生は、全体的に利用度及び満足度が高く、特に、「チューター制度」「国家試験模擬試験」が利用度・満足度ともに非常に高い結果であった。

(2) 明らかになった課題と改善策

① スクールバスについて

スクールバスの増便については費用の観点から難しいが、スクールバスの発着時間に関しては、新豊田駅の工事に伴う電車改札口とスクールバス発着場所の経路変更により電車との接続がスムーズにできないときがあるとの意見があったため、学生の利便性がよりよいタイムスケジュールになるよう検証し改善する。

② 生協の営業時間及び食事環境について

生協の営業時間については、実習が多く、学内にいる学生数が少ない期間が多いという本学の特性上、経営状況を鑑みると営業時間を延長することは難しい状況である。しかし、食堂に関しては、新型コロナウイルスの影響により食器の使用を止め、使い捨ての容器に限っていたため、メニュー数が少なくなっていたが、令和5年度の前期に食堂運営を依頼している大学生協と協議し、食器仕様の再開と厨房機器の更新を行い、徐々にメニュー数を増やしている。今後も食堂メニューに関しては、大学生協と協力し学生の満足度を上げるようにする。

③ Wi-Fi 環境について

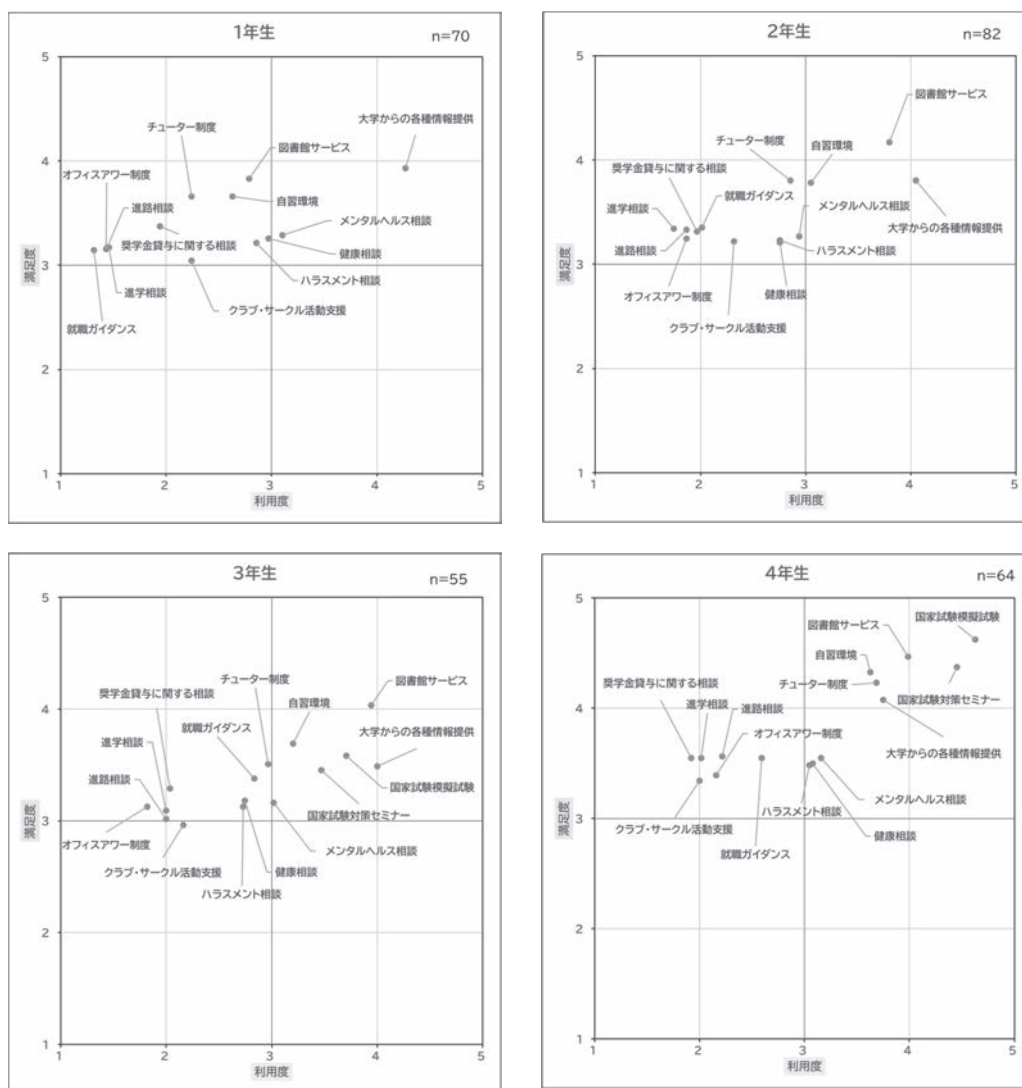
Wi-Fi 環境に関しては、2024 年度中に学内の接続状況等を確認し、快適な学習環境になるよう検討・改善をする。

④ トイレ環境について

ヒーター付きの便座については 2023 年度に整備を進め完了した。

⑤ オフィスアワー制度とハラスメント相談窓口について

オフィスアワー制度やハラスメント相談窓口に関して、制度を知らないという声があった。よりよい学生生活のために、オフィスアワー制度（学生便覧 p31、院生便覧 p96）、ハラスメント相談窓口（学生便覧 p34～p38、院生便覧 p97～p101）を設けているため再度周知を行う。



13) 後援会との連携

後援会は看護学部在学生の保護者を会員とし、大学に在学する学生の福利厚生充実及び課外教育等の助成等を行うとともに、会員相互の親睦並びに本学の発展に寄与することを目的とする。

主な事業として、学生自治会の活動に対する支援（いとすぎ祭支援）と大学の教育研究活動に対する支援（実習用の機器備品購入）を行っている。2023年度は後援会からの助成により、成人看護学領域実習資材として救急カート1式と小児看護学領域実習用として乳児看護実習モデル1式を整備した。また、2023年5月27日（土）に総会が開催された。

14) 同窓会との連携

同窓会は卒業生と在学生を会員とし、会員相互の親睦を図り、併せて母校の発展に寄与するとともに赤十字精神に基づき社会に貢献することを目的とする。主な事業として、卒業生と在学生との交流会（里帰りイベント）の実施、大学へ看護教育充実に必要な支援を行っている。

2023年度は同窓会活動委託費として50万円、教育環境整備事業として50万円の寄附をいただいた。また、2023年10月14日（土）に定期総会および里帰りイベント（講演会 赤十字看護師としての歩み～国際活動の経験を踏まえて～）が開催された。

IV 看護学研究科修士課程教育活動

1. カリキュラム

1) 教育目的・目標

本大学院は、建学の精神である赤十字の理想とする人道的任務の達成を図るため、看護に関する学術の中心として、広く看護の実践と教育・研究に関する理論と専門技術を教授研究し、深い学識及び卓越した感性と人間性を備えた高度な看護専門職の育成を図り、看護学の発展とともに世界の人々の健康と福祉の向上と豊かな生活の創造に寄与することを目的とする。

【教育目標】

- (1) 赤十字の基本原則を理解し、看護学の発展に寄与できる看護職者を育成する。
- (2) 看護学の専門分野における創造的な問題解決能力を有する研究・教育者を育成する。
- (3) 看護学の専門分野における卓越した実践能力を有する専門看護師・看護管理者を育成する。

2) ディプロマポリシー

修士課程に所定の期間在学し、本研究科の修了要件となる単位数を修得するとともに、論文の審査及び最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に、学位（修士（看護学））を授与する。

(1) 研究・教育者コース

- ①赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。
- ②看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。
- ③看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。
- ④研究内容を論理的に説明できる能力を有している。

(2) 専門看護師・認定看護管理者コース

- ①赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。
- ②専門領域における卓越した看護実践能力を有している。
- ③多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。
- ④看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している。

3) 教育課程表

区分	分野	領域	授業科目	担当教員	形態：単位数 (時間数)			履修及び 修了要件	履修方法						
					講義	演習	実習		1 年生	2 年生					
									①	②	③	④			
共通科目	共通科目	必修共通科目	看護理論	村瀬智子	2 (30)			各領域 共通 5 単位	2						
			看護倫理	山田聡子	1 (15)				1						
			赤十字と看護	小林洋子、大川四郎	2 (30)				2						
		選択共通科目	教育方法・評価論	龍崎忠	1 (15)				<研究・教育者コース> 「教育方法・評価論」を含む9単位以上 ただし、災害看護学領域は8単位以上 なお、成人看護学領域は「セルフマネ ジメント論」も必修とする	1					
			統計学Ⅰ	森田一三	2 (30)					2					
			統計学Ⅱ	森田一三	2 (30)					2					
			看護研究Ⅰ(概論)	野口眞弓	1 (15)					1					
			看護研究Ⅱ(量的研究法)	野口眞弓、森田一三	2 (30)					2					
			看護研究Ⅲ(質的研究法)	片岡純	2 (30)					2					
			セルフマネジメント論	鎌倉やよい	2 (30)					2					
			感染制御論	下間正隆、東野督子	2 (30)					2					
			病態生理学	病態生理学	巻野雄介、下間正隆、鎌倉やよい、 南谷志野、太田喜久夫	2 (30)					<専門看護師コース> 合計 11 単位以上 ただし、「看護研究Ⅰ(概論)」「病態 生理学」「臨床薬理学」「ヘルスアセス メント」の計 7 単位を必修とし、「コ ンサルテーション論」「看護管理論」「看 護政策論」「現任教育論」の中から 4 単位以上	2			
				臨床薬理学	池田義明、山田浩雅	2 (30)						2			
				ヘルスアセスメント	中島佳緒里、山内豊明	2 (30)						2			
				コンサルテーション論	南谷志野、戸田由美子、井上 さよ子、田崎あゆみ、木全美智代、 長尾大地、石川恵己	2 (30)						2			
				看護管理論	南谷志野	1 (15)						1			
				看護政策論	南谷志野、松浦正子	1 (15)						1			
			現任教育論	現任教育論	山田聡子	1 (15)					<認定看護管理者コース> 「看護研究Ⅰ(概論)」「コンサルテー ション論」「看護管理論」「看護政策論」 「現任教育論」を必修とした6単位以上	1			
看護管理学特論	南谷志野、松浦正子	2 (30)				2									
人的資源管理論	南谷志野、松浦正子、勝原裕美子	2 (30)				2									
保健医療福祉組織論	南谷志野	2 (30)				2									
看護管理学演習	南谷志野	2 (60)				2									
組織経営・経済論	南谷志野、米本倉基、山上潤一	2 (30)				2									
看護教育学・ 技術学	看護教育学特論	山田聡子	2 (30)			<認定看護管理者コース> 必修 17 単位	1								
	看護技術学特論	中島佳緒里、巻野雄介	2 (30)				2								
	看護教育方法論	山田聡子、中島佳緒里、巻野雄介	2 (30)				2								
	看護教育・技術学演習	山田聡子、中島佳緒里、巻野雄介	2 (60)				2								
	成人看護学特論	東野督子、カルデナス暁東	2 (30)				2								
	成人看護学演習	東野督子、カルデナス暁東	2 (60)				2								
	慢性病ケア開発特論	カルデナス暁東、石黒千映子	2 (30)				2								
	母性看護学特論	野口眞弓、岡津愛子	2 (30)				2								
	母性看護学演習	野口眞弓、岡津愛子	2 (60)				2								
	小児看護学特論	大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (30)				2								
ケア創生看護学	小児看護学特論	大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位 *科目	2								
	小児看護学成長発達論	大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (30)				2								
	小児看護学評価方法論	大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (30)				2								
	小児看護学演習	大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (60)				2								
	小児看護学支援論	大西文子、岡田摩理、神道那実、 山崎嘉久	2 (30)				2								
	小児看護ヘルス・アセスメント論	大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (30)				2								
	小児の病態と治療	後藤芳充、石井睦夫、犬飼幸子、 山田崇春、側島健宏	2 (30)				2								
	小児 CNS 機能と役割演習	大西文子、岡田摩理、神道那実、 加藤美也子	2 (60)				2								
	小児看護学実習Ⅰ	大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (90)				2								
	小児看護学実習Ⅱ(CNS 機能と 役割実習)	大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (90)				2								
	小児看護学実習Ⅲ(小児看護高 度実践実習)	大西文子、岡田摩理、神道那実	4 (180)				4								
	小児看護学実習Ⅳ(小児看護高 度実践統合実習)	大西文子、岡田摩理、神道那実	2 (90)				2								

IV 看護学研究科修士課程教育活動

区分	分野	領域	授業科目	担当教員	形態：単位数 (時間数)			履修及び 修了要件	履修方法			
					講義	演習	実習		1 年生 2 年生			
									①	②	③	④
専 門 科 目	地域共生看護学	老年・在宅看護学	老年・在宅看護学特論	小林尚司、百瀬由美子、清水みどり、 天木伸子	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2			
			認知症ケア特論	小林尚司、百瀬由美子、清水みどり、 天木伸子	2 (30)				2			
			老年・在宅療養者共生支援論	小林尚司、百瀬由美子、清水みどり、 天木伸子	2 (30)				2			
			老年・在宅看護学演習	小林尚司、百瀬由美子、清水みどり、 天木伸子		2 (60)			2			
		精神看護学	精神保健医療論 ※※	原田真澄	2 (30)			2				
			精神健康行動評価論 ※※	原田真澄、服部希恵	2 (30)			2				
			精神看護学地域共生論 *	原田真澄	2 (30)				2			
			精神看護学演習 *	原田真澄		2 (60)			2			
			精神科治療と看護 ※	原田真澄、石黒千映子、平野千晶、 山田浩雅、加藤明美	2 (30)			2				
			精神健康行動ケア特論 ※	原田真澄、服部希恵、牛山喜久恵	2 (30)				2			
			リエゾン精神看護論 ※	原田真澄、服部希恵、平野千晶	2 (30)				2			
			精神科治療と看護演習 ※	原田真澄、平野千晶		2 (60)			2			
			精神看護援助方法の開発演習 ※	原田真澄、服部希恵		2 (60)				2		
	精神看護学高度実践実習Ⅰ ※		原田真澄			2 (90)			2			
	精神看護学高度実践実習Ⅱ ※	原田真澄			2 (90)			2				
	精神看護学高度実践実習Ⅲ ※	原田真澄			2 (90)			2				
	精神看護学高度実践実習Ⅳ ※	原田真澄			4 (180)				4			
	地域看護学	地域看護学特論	長谷川喜代美、森田一三、小林 尚司、岡田摩理、清水美代子	2 (30)			<研究・教育者コース> 必修 8 単位	2				
		コミュニティアセスメント論	長谷川喜代美、森田一三、清水 美代子	2 (30)				2				
		地域共生ケアシステム論	長谷川喜代美、清水美代子	2 (30)				2				
		地域看護学演習	長谷川喜代美、森田一三、清水 美代子		2 (60)			2				
	災害看護学	災害看護学特論	小林洋子、花木芳洋	1 (15)			<研究・教育者コース> 必修 9 単位以上 *科目	1				
		災害と法律・制度	小林洋子、山崎栄一	2 (30)				2				
		災害看護学対象論	小林洋子、長尾佳世子、藤井愛海、 村瀬智子	2 (30)				2				
		災害看護学援助論Ⅰ	小林洋子、長尾佳世子、下間正隆、 花木芳洋	2 (30)				2				
		災害看護学援助論Ⅱ	小林洋子、長尾佳世子、藤井愛海	1 (15)					1			
		災害看護学演習	小林洋子、長尾佳世子、藤井愛海	2 (60)					2			
研究	課題研究	大西文子、岡田摩理、南谷志野、 原田真澄、神道那実		2 (60)		<専門看護師・認定看護管理者 コース> 必修 2 単位		2				
	特別研究	山田聡子、鎌倉やよい、東野督子、 カルデナス暁東、野口真弓、大西 文子、岡田摩理、百瀬由美子、 小林尚司、長谷川喜代美、森田 一三、小林洋子、南谷志野、中島 佳緒里、巻野雄介、石黒千映子、 岡津愛子、神道那実、清水みどり、 天木伸子、原田真澄、清水美代子、 下間正隆		8 (240)		<研究・教育者コース> 必修 8 単位		8				
修了要件								<研究・教育者コース> 30 単位以上 <専門看護師コース> 42 単位以上 <認定看護管理者コース> 30 単位以上				

4) カリキュラムポリシー

教育目的・目標を達成し、ディプロマポリシーに掲げる人材を育成するために、共通科目と専門科目を体系的に編成し、以下の方針に基づいた教育課程を展開する。

(1) 共通科目

共通科目は、必修共通科目と選択共通科目で編成する。

- ①必修共通科目は、看護学を探究し卓越した看護実践を展開するための基盤となる「看護理論」と「看護倫理」、赤十字の基本原則に対する理解を深めるための「赤十字と看護」からなる。
- ②選択共通科目は、研究能力を育成するための「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」「看護研究Ⅲ」と「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」、教育能力を育成するための「教育方法・評価論」「現任教育論」、卓越した看護実践能力を育成するための「病態生理学」「臨床薬理学」「ヘルスアセスメント」と実践の基本となる「セルフマネジメント論」「感染制御論」、多職種・多機関と協働する能力と組織内外の調整能力を育成するための「コンサルテーション論」「看護管理論」「看護政策論」からなる。

(2) 専門科目

専門科目は3分野9領域で編成し、学生の目的に合わせた3コースを設けている。

①分野・領域

ア 基盤育成看護学分野

看護実践の基盤となる能力の育成と看護技術の開発・評価およびマネジメント能力の育成を目指す分野であり、看護管理学領域と看護教育・技術学領域から構成されており各領域の専門性を探求するための科目で編成している。

イ ケア創生看護学分野

根拠に基づきケアを創り出し看護実践の発展を目指す分野であり、成人看護学領域、母性看護学領域、小児看護学領域から構成されており各領域の専門性を探求するための科目で編成している。

ウ 地域共生看護学分野

地域で暮らす多様な人々との共生を目指したケアを開発する分野であり、老年・在宅看護学領域、精神看護学領域、地域看護学領域、災害看護学領域から構成されており各領域の専門性を探求するための科目で編成している。

②コース

ア 研究・教育者コース

分野・領域での専門性を高め、研究者・教育者として看護学の発展に寄与できる能力の育成を目指すコースである。すべての領域にコースを設定している。研究・教育者コースは各領域の講義・演習科目により最新の専門知識を深め、「特別研究」で専門領域における研究能力を育成する。

イ 専門看護師コース

日本看護系大学協議会の認可を受けた高度実践看護師教育課程であり、専門看護師を目指すコースである。小児看護学領域と精神看護学領域にコースを設定している。各領域の講義・演習・実習科目により卓越した実践能力を育成し、「課題研究」で看護実践上の課題を解決するための研究能力を育成する。

ウ 認定看護管理者コース

卓越した見識と管理能力をもった認定看護管理者を目指すコースである。看護管理学領域にコースを設定している。講義・演習・実習科目により卓越した管理能力を育成し、「課題研究」で看護管理上の課題を解決するための研究能力を育成する。

5) カリキュラムマップ

ディプロマポリシー			コース共通	研究・教育者コース			専門看護師・認定看護管理者コース		
			赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。	看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。	看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。	研究内容を論理的に説明できる能力を有している。	専門領域における卓越した看護実践能力を有している。	多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。	看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している。
			◎学修成果を高めるために履修を特に求める科目 ○学修成果を高めるために履修が望ましい科目						
科目	科目名	開講期							
	必修共通	看護理論	1		◎	○	○	◎	○
看護倫理		2	◎	○	○		◎	○	○
赤十字と看護		2	◎						
共通科目	選択共通科目	教育方法・評価論	1			◎			
		統計学Ⅰ	1		◎				◎
		統計学Ⅱ	2		◎				○
		看護研究Ⅰ(概論)	1		◎				◎
		看護研究Ⅱ(量的研究法)	1		◎				○
		看護研究Ⅲ(質的研究法)	2		◎				○
		セルフマネジメント論	2		◎			◎	
		感染制御論	1					◎	
		病態生理学	1					◎	
		臨床薬理学	1					◎	
		ヘルスアセスメント	2					◎	
		コンサルテーション論	2						◎
		看護管理論	1			◎		◎	○
		看護政策論	2		○				◎
		現任教育論	2			◎			◎
基盤育成看護学	看護管理学	看護管理学特論	1		◎			◎	
		人的資源管理論	2			◎	○	◎	○
		保健医療福祉組織論	1			○			◎
		看護管理学演習	2				◎		◎
		組織経営・経済論	2					◎	
		医療安全論	1						◎
		看護管理学実習Ⅰ	3・4					◎	○
	看護管理学実習Ⅱ	3・4					◎	○	
	看護管理学実習Ⅲ	3・4					◎	○	
	看護教育・技術学	看護教育学特論	1		◎	◎	○		
看護技術学特論		2		◎		○			
看護教育方法論		2		◎	◎	○			
看護教育・技術学演習		2		○		◎			
ケア創生看護学	成人看護学	成人看護学特論	1		◎		○		
		周術期ケア開発特論	2		◎		○		
		慢性病ケア開発特論	2		◎		○		
		成人看護学演習	2		○		◎		
	母性看護学	母性看護学特論	1		◎		○		
		ウィメンズヘルスト論	2		◎		○		
		周産期ケア開発特論	1		◎		○		
				○		◎			

ディプロマポリシー			コース共通	研究・教育者コース			専門看護師・認定看護管理者コース			
			赤十字の基本原則のひとつである人道に基づいた倫理観を有している。	看護学の発展に寄与できる研究能力を有している。	看護における人材育成に寄与できる教育能力を有している。	研究内容を論理的に説明できる能力を有している。	専門領域における卓越した看護実践能力を有している。	多職種・多機関と協働・調整できる能力を有している。	看護実践上の課題を解決するための研究能力を有している。	
	科目名	開講期	◎学修成果を高めるために履修を特に求める科目 ○学修成果を高めるために履修が望ましい科目							
ケア創生看護学	小児看護学	小児看護学特論	1	◎		○	◎		○	
		小児看護学成長発達論	1	◎		○	◎		○	
		小児看護学評価方法論	2	◎		○	◎		○	
		小児看護学演習	2	○		◎				
		小児看護支援論	2					◎	○	
		小児看護ヘルス・アセスメント論	2					◎	○	
		小児の病態と治療	2					◎	○	
		小児 CNS 機能と役割演習	2					◎	○	○
		小児看護学実習Ⅰ	2					◎		○
		小児看護学実習Ⅱ (CNS 機能と役割実習)	3					◎	◎	○
		小児看護学実習Ⅲ (小児看護高度実践実習)	3					◎	◎	○
小児看護学実習Ⅳ (小児看護高度実践統合実習)	3・4					◎	◎	○		
地域共生看護学	老年・在宅看護学	老年・在宅看護学特論	1	◎		○				
		認知症ケア特論	2	◎		○				
		老年・在宅療養者共生支援論	1	◎		○				
		老年・在宅看護学演習	2	○		◎				
	精神看護学	精神保健医療論	1	◎		○	◎		○	
		精神健康行動評価論	1	◎		○	◎		○	
		精神看護学地域共生論	2	◎		○				
		精神看護学演習	2	○		◎				
		精神科治療と看護	1					◎	○	
		精神健康行動ケア特論	2					◎	○	
		リエゾン精神看護論	2					◎	○	
		精神科治療と看護演習	2					○		◎
		精神看護援助方法の開発演習	2-4					○		◎
		精神看護学高度実践実習Ⅰ	2・3					◎	◎	○
	精神看護学高度実践実習Ⅱ	2・3					◎	◎	○	
	精神看護学高度実践実習Ⅲ	2-4					◎		○	
	精神看護学高度実践実習Ⅳ	2-4					◎	◎	○	
	地域看護学	地域看護学特論	1	◎		○				
		コミュニティアセスメント論	2	◎		○				
地域共生ケアシステム論		2	◎		○					
地域看護学演習		2	○		◎					
災害看護学	災害看護学特論	1	◎		○					
	災害と法律・制度	1	◎		○					
	災害看護学対象論	1	◎		○					
	災害看護学援助論Ⅰ	1	◎							
	災害看護学援助論Ⅱ	2	◎	○						
	災害看護学演習	2	○		◎					
	災害看護学実習	2-4	◎	○						
研究	課題研究	1-4					◎	○	◎	
	特別研究	1-4		◎		◎				

6) 2023年度 実習施設一覧

No.	実習施設名	実習科目名
1	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	小児看護学実習 I
2	豊橋市民病院	災害看護学実習
3	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	災害看護学実習

7) 研究指導教員一覧

領域・分野	職 位	氏 名	資 格	研究指導 担当学生数		研究計画・論文審査 担当学生数	
				主指導	副指導	主査	副査
看護学 基盤育成	学 長	鎌 倉 やよい	主	0名	0名	0名	0名
	看護管理学	准教授 南 谷 志 野	副	-	5名	-	-
	看護教育・技術学	教 授 山 田 聡 子	主	6名	0名	1名	5名
		准教授 中 島 佳織里	副	-	3名	-	-
	准教授 巻 野 雄 介	副	-	3名	-	-	
ケア創生看護学	成人看護学	教 授 東 野 督 子	主	1名	0名	0名	3名
		教 授 カルデナス暁東	主	0名	0名	1名	2名
		准教授 石 黒 千恵子	副	-	0名	-	-
	母性看護学	教 授 野 口 眞 弓	主	2名	1名	1名	1名
		准教授 岡 津 愛 子	副	-	1名	-	-
	小児看護学	特任教授 大 西 文 子	主	2名	1名	0名	2名
		教 授 岡 田 摩 理	主	1名	1名	1名	3名
准教授 神 道 那 実		副	-	1名	-	-	
地域共生看護学	老年・在宅看護学	特任教授 百 瀬 由美子	主	1名	0名	1名	4名
		教 授 小 林 尚 司	主	1名	0名	1名	2名
		准教授 清 水 みどり	副	-	0名	-	-
		准教授 天 木 伸 子	副	-	0名	-	-
	精神看護学	准教授 原 田 眞 澄	副	-	0名	-	-
	地域看護学	教 授 長谷川 喜代美	主	2名	0名	3名	2名
		教 授 森 田 一 三	主	0名	1名	3名	2名
		准教授 清 水 美代子	副	-	0名	-	-
	災害看護学	特任教授 小 林 洋 子	主	1名	0名	1名	0名

8) 研究指導関係スケジュール

日程	研究指導活動	
	M1	M2
4月5日(水)、 4月8日(土)	論文オリエンテーション	
4月26日(水)	指導教員及び副指導教員の決定	
6月27日(火)		研究計画発表会資料提出期日
7月5日(水)		研究計画発表会
8月30日(水)		研究計画・論文審査委員の決定
7月6日(木)～ 8月31日(木)		研究計画審査申請
10月6日(金)	仮研究テーマ(仮研究課題)の提出期日	
11月17日(金)		修士論文・課題研究論文 審査申請届提出期日
12月15日(金)		修士論文・課題研究論文 提出期日
1月19日(金)		修士論文・課題研究論文発表会
12月16日(土)～ 2月19日(月)		修士論文・課題研究論文審査及び最終試験
2月28日(水)		学位授与判定
2月29日(木)		学位授与判定結果の公示
3月13日(水)		学位記授与式

- ・指導教員・副指導教員：2023年度入学生の指導教員1名、副指導教員1名を決定した。
- ・仮研究テーマ：1年次の在学生3名から仮研究テーマ(仮研究課題)が提出された。
- ・研究計画発表会：修士課程学位審査規程第5条に基づき、発表会を実施した。7月の研究計画発表会(発表者8名)は、教員23名、院生16名、職員2名の計41名が参加した。1月の研究計画発表会(発表者1名)は、教員37名、院生13名、職員2名の計52名が参加した。
- ・審査委員会：修士課程学位審査規程第2条に基づき、研究計画発表会を終えた学生(7月発表者8名、1月発表者1名)にかかる主査1名及び副査2名をそれぞれ決定した。
- ・研究計画審査：修士課程学位審査規程第6条に基づき、研究計画発表会を終えた学生(7月発表者8名、1月発表者1名)全員から研究計画審査申請があった。審査委員会による審査を行い、前年度からの継続審査1名を含む計9名に研究倫理審査委員会への申請許可を行った。1名は審査委員会による審査を継続中。
- ・研究実施許可：修士課程学位審査規程第10条に基づき、研究倫理審査を受審し、年度内に承認を受けた8名に対し、審査委員会から研究実施許可を行った。
- ・学位審査：

(9月修了) 修士課程学位審査規程第2条に基づき、審査申請届の提出のあった学生2名(修士論文1題、課題研究論文1題)より修士論文・課題研究論文提出期日までに論文が提出され、7月に論文発表会を実施した。同規程第14条、第15条に基づき審査委員会による審査及び最終試験を行い、学位授与判定研究科委員会において審査委員会からの結果報告に基づき2名の学位授与を決定した。

(3月修了) 修士課程学位審査規程第2条に基づき、審査申請届の提出のあった学生1名(修士論文1題)より修士論文・課題研究論文提出期日までに論文が提出され、1月に論文発表会を実施した。同規程第14条、第15条に基づき審査委員会による審査及び最終試験を行い、学位授与判定研究科委員会において審査委員会からの結果報告に基づき1名の学位授与を決定した。

9) 学位論文審査基準

【修士論文】

- (1) 表題が内容を適切に表現している。
- (2) 研究動機や意義が明確である。
- (3) 十分な範囲の関連文献が検討されている。
- (4) 研究目的が明確である。
- (5) 研究方法が妥当である。
- (6) 十分なデータ数が得られている。
- (7) 倫理的配慮が適切である。
- (8) 目的に沿った結果が示されている。
- (9) 客観的にデータが示されている。
- (10) 目的と結果及び考察に一貫性がある。
- (11) 得られた結果についての解釈や意味づけが示されている。
- (12) 関連文献と照合して考察している。
- (13) 結論が簡潔に述べられている。
- (14) 抄録が適切である。
- (15) 論文内容に学術的価値があり、看護学及び看護実践に貢献できる。
- (16) 論文の形式的条件が整備されている。

【課題研究論文】

- (1) 表題が内容を適切に表現している。
- (2) 看護実践上の課題に基づき、課題の背景が明確である。
- (3) 看護実践上の意義が明確である。
- (4) 研究目的が明確である。
- (5) 研究方法が妥当である。
- (6) 倫理的配慮が適切である。
- (7) 目的に沿った結果が示されている。
- (8) 客観的にデータが示されている。
- (9) 目的と結果及び考察に一貫性がある。
- (10) 得られた結果についての解釈や意味づけが示されている。
- (11) 関連文献と照合して考察している。
- (12) 結論が簡潔に述べられている。
- (13) 抄録が適切である。
- (14) 論文内容に看護実践上の価値がある。
- (15) 論文の形式的条件が整備されている。

10) 2023 年度 修士論文タイトル

研究・教育者コース

領域・分野	タイトル
看護管理学領域	看護師の学習に対するニーズと組織文化の関連
看護教育・技術学領域	看護系大学におけるキャリア教育科目の現状と課題

専門看護師・認定看護管理者コース

領域・分野	タイトル
看護管理学領域	在宅において特定行為を実践している看護師と主治医との連携

2. 学生の受け入れ

1) アドミッションポリシー

- (1) 本学の建学の精神に共感できる人
- (2) 専門分野における基礎知識を有している人
- (3) 科学論文を理解するための基礎的な英語力を有している人
- (4) 論文作成の基盤となる文章の読解力と論述力を有している人
- (5) 基礎的な看護実践能力を有している人
- (6) 将来的に看護研究者・実践者として貢献する意志のある人

2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧

試験種別	募集定員	必須・選択	科目
一般入学試験	10名	必須	外国語（英語）
推薦入学試験*			専門科目（小論文）
			面接

※ 学校法人日本赤十字学園が設置する大学卒業者、または、赤十字施設へ勤務しており、かつ看護部長等からの推薦のある方が対象となる。試験科目のうち外国語（英語）が免除される。

3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧

（単位：名）

年度		定員	志願者数	受験者	入学者数
2024年度	第1回	10	4	4	4
	第2回		3	3	3
2023年度	第1回	10	1	1	1
	第2回		3	3	3
2022年度	第1回	10	2	2	2
	第2回		7	7	7

4) 科目等履修生

・出願資格認定審査申請期間

前期科目：2023年1月4日（水）～2023年1月19日（木）

後期科目：2023年7月12日（水）～2023年7月26日（水）

・出願期間

前期科目：2023年1月19日（木）～2023年2月2日（木）

後期科目：2023年7月26日（水）～2023年8月9日（水）

・選考方法：書類審査

・出願者数及び入学者数（過去3年）

（単位：名）

	2021年度	2022年度	2023年度
出願者数	4	6	5
入学者数	4	6	4

5) 履修証明プログラム

- ・ 出願資格認定審査申請期間

2023年1月4日(水)～2023年1月19日(木)

- ・ 出願期間

2023年1月19日(木)～2023年2月2日(木)

- ・ 選考方法：書類審査

- ・ 出願者数及び入学者数(過去3年)

(単位：名)

	2021年度	2022年度	2023年度
出願者数	1	2	1
入学者数	1	2	1
在学者数	1	3	3

6) 研究生

- ・ 出願期間：2023年2月1日(水)～2023年2月28日(火)

- ・ 選考方法：書類審査

- ・ 出願者数及び入学者数(過去3年)

(単位：名)

	2021年度	2022年度	2023年度
出願者数	0	0	3
入学者数	0	0	3
在学者数	1	0	3

3. 学生支援

平日夜間・土曜、また一部科目ではオンラインを活用した開講に加えて、2年分の学費で3年での履修を可能とする長期履修制度、自習スペースとしても活用できる日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院敷地内に立地するサテライトキャンパスの整備、学外からの文献検索を可能とするVPNライセンスの付与など、様々な方面から院生の働きながらの学びを支援した。

1) 在籍学生数（休学率・退学率・学位取得状況含む）

(単位：名)

入学年度	入学者数	在籍者数	退学者数	退学率	累積退学者数	累積退学率	休学者数	休学率	学位取得者数
2023年度入学生	4	4	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	-
2022年度入学生	9	9	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
2021年度入学生	3	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
2020年度以前入学生	-	2	0	0.0%	-	-	0	0.0%	2
合計	-	17	0	0.0%	-	-	1	5.9%	3

退学率：年度内の退学者数 / 在籍者数（退・休学者含む）

休学率：年度内の休学者数 / 在籍者数（退・休学者含む）

累積退学者数：入学以降の累積退学者数 / 入学者数（退・休学者含む）

2) 修業年限内の修了率

(単位：名)

入学年度	標準修業年限	① 入学者数	② ①のうち 2023年度末 までに修了 した学生数	③ ①のうち 2023年度末 までに退学 した学生数	④ ①のうち 2024年度現 在在籍して いる学生数 (留年者数)	④' ④のうち在学 中に休学した 者を除いた 留年者数	⑤ 標準修業年 限内修了率	⑥ 標準修業年 限を通じた 退学率
2022年度入学生 (長期履修者除く)	2年	0	0	0	0	0	-	-
2021年度入学生 (長期履修者のみ)	2→3年	2	1	0	1	1	50.0%	0.0%

3) 研究費助成制度・獲得状況

2023年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による教育・研究事業（学長裁量事業）

	研究テーマ	領域	研究者	交付金額
1	看護系大学におけるキャリア教育科目の現状と課題	基礎看護領域	山中 大輔	138,000円
2	NICUにおけるEnd-of-lifeケア経験が豊富な看護師のEnd-of-lifeケア実践の可視化	小児看護領域	鳥居賀乃子	130,000円

4) 就職・進路状況

2023年度修了生はすべて有職学生であった。2023年度修了生のうち進学者はいなかった。

5) 専門看護師（CNS）、認定看護管理者 資格取得状況一覧

資格	分野	課程（単位数）	2023年度 取得者数	累計取得者数 (2023年度取得者数再掲)
専門看護師（CNS）	母性看護	26単位※	0名	4名
専門看護師（CNS）	小児看護	26単位※	0名	4名
専門看護師（CNS）	小児看護	38単位	0名	1名
専門看護師（CNS）	精神看護	26単位※	0名	2名
認定看護管理者			1名	6名

※ 26単位課程の修了による審査申請は2023年度まで

6) 修士論文投稿状況一覧

修了年度	領域・分野	論文の投稿状況
2020年度 (2021.3.修了)	看護管理学領域看護管理学分野	投稿中(第25回日本看護管理学会学術集会(2021年)で発表済み)
	臨床実践看護学領域精神看護学分野	準備中
	臨床実践看護学領域小児看護学分野	投稿中(日本家族看護学会(2021年)で発表済み)
	基盤育成看護学分野看護教育・技術学領域	日本看護学教育学会誌 31巻3号1-10 2022-3
2021年度 (2022.3.修了)	臨床実践看護学領域精神看護学分野	準備中
	臨床実践看護学領域母性看護学分野	準備中
	ケア創生看護学分野成人看護学領域	準備中(学会発表済み)
	基盤育成看護学分野看護管理学領域	準備中(第26回日本看護管理学会学術集会(2022年)で発表済み)
	ケア創生看護学分野小児看護学領域	準備中(日本小児看護学会(2022年)で発表済み)
	ケア創生看護学分野小児看護学領域	日本赤十字豊田看護大学紀要 第19巻第1号 2024-3
	地域共生看護学分野老年・在宅看護学領域	日本赤十字豊田看護大学紀要 第19巻第1号 2024-3
2022年度 (2023.3.修了)	看護管理学領域看護管理学分野	準備中(第26回日本看護管理学会学術集会(2022年)で発表済み)
	ケア創生看護学分野小児看護学領域	投稿中
	基盤育成看護学分野看護管理学領域	準備中(第27回日本看護管理学会学術集会(2023年)で発表済み)
	基盤育成看護学分野看護管理学領域	準備中(第27回日本看護管理学会学術集会(2023年)で発表済み)
	基盤育成看護学分野看護教育・技術学領域	準備中(第26回日本看護管理学会学術集会(2022年)で発表済み)

7) 学生生活調査結果

自己点検・評価の一環として、年1回学生生活に関する調査(キャンパスライフアンケート)を実施している。

【調査対象】 後期に在籍する大学院生

【調査方法】 Microsoft Formsを使用した自記式アンケート調査(無記名)

【実施期間】 2024年1月15日(月)～2月9日(金)

【回答率】 大学院生 36.0%

【その他】 ・「メンタルヘルス相談」「ハラスメント相談」「健康相談」は利用度ではなく利便性を問いている

・1～5の5段階評価とし、5が最大評価値である

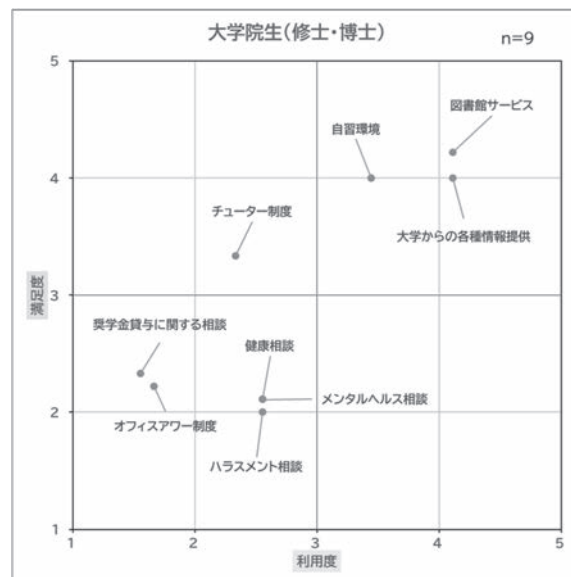
・分布図内のマーカーは、回答の平均値を示している

・「自習環境」について、大学院生の実状にあわせた設問に変更した

(変更前：ラーニング・ポッド等 変更後：院生室、サテライトキャンパス等)

(1) 大学院生の結果

「大学からの各種情報提供」「図書館サービス」の満足度・利用度が高い結果であった。



V 看護学研究科博士後期課程教育活動

1. カリキュラム

1) 教育目的・目標

赤十字の理念である「人道 (humanity)」の実現を目指し、いかなる場合でも一人ひとりの尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現することを共通の理念としている。さらに、高度な実践知を基盤として、自立した研究活動と研究指導ができる研究者、質の高い看護学の教育ができる教育者、知的複眼思考・論理的思考に基づき発展的に看護を実践できる人材の育成を目指す。

【教育目標】

- (1) 研究者として、自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力を養う。
- (2) 知的な教養と柔軟性、先見性を兼ね備え、質の高い看護学の教育を行うための教育開発能力、教育能力、課題解決能力を養う。
- (3) 臨床看護実践や教育の場において、リーダーとして活動するための俯瞰力と指導・調整力を養う。
- (4) 国内外の保健・医療・福祉の分野で広く活躍できる能力を養う。

2) ディプロマポリシー

修了要件となる単位を取得するとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格し、次の条件を満たすものに博士（看護学）の学位を授与する。

- (1) 看護学において、高度な専門的業務に従事する上で必要な学識・技術・応用力に基づいて、自立的な研究活動を担える能力を有している。
- (2) 高度な専門性と倫理観を有した、実践者、指導者、管理者、教育者、研究者として、多角的なリーダーシップを発揮できる資質と力量を有している。

3) 教育課程表

区分	授業科目	担当教員	配当年次	単位数		授業形態	
				必修	選択	講義	演習
共通科目	看護理論	村瀬智子	1・2 前		1	○	
	赤十字人道援助論	井上忠男	1・2 後		1	○	
	科学的研究方法論Ⅰ（実験研究）	根本昌宏、村林宏、姫野稔子	1・2 前		1	○	
	科学的研究方法論Ⅱ（臨床介入研究）	伊藤善也、百田武司	1・2 後		1	○	
	科学的研究方法論Ⅲ（尺度開発）	西片久美子、河口てる子	1・2 前		1	○	
	科学的研究方法論Ⅳ（質的研究）	石崎智子、新田純子	1・2 後		1	○	
	科学的研究方法論Ⅴ（文化人類学的研究）	2023 年度は開講なし	1・2 前		1	○	
	科学的研究方法論Ⅵ（理論構築）	河口てる子	1・2 後		1	○	
	臨床倫理論	柳井圭子、石崎智子	1・2 後		1	○	
	小計（9 科目）			9			
専門科目	看護人材開発特論	山田聡子、本田多美枝、原玲子、柳井圭子	1・2 前		2	○	
	療養生活看護学特論	高田由美、東野督子、高橋清美	1・2 前		2	○	
	生涯発達看護学特論	野口眞弓、志賀くに子、永松美雪、大西文子、志賀加奈子	1・2 前		2	○	
	実践看護学特論	百田武司、鎌倉やよい、小松浩子、櫻本秀明	1・2 前		2	○	
	広域連携看護学特論	2023 年度は開講なし	1・2 前		2	○	
	災害救護特論	中信利恵子、田村由美、渡邊智恵	1・2 前		2	○	
	健康科学特論	山本憲志、森田一三、長谷川喜代美	1・2 前		2	○	
	小計（7 科目）			14			
演習	看護学演習	安酸史子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、原玲子、志賀くに子、高田由美、阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、百瀬由美子、山田聡子、野口眞弓、大西文子、東野督子、森田一三、長谷川喜代美、カルデナス暁東、小林尚司、田村由美、中信利恵子、百田武司、小松浩子、櫻本秀明、高橋清美、永松美雪、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子	1 通	2		○	
		小計（1 科目）		2			
ゼミナール 合同研究	合同研究ゼミナール	安酸史子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、原玲子、志賀くに子、高田由美、阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、百瀬由美子、山田聡子、野口眞弓、大西文子、東野督子、森田一三、長谷川喜代美、カルデナス暁東、小林尚司、田村由美、中信利恵子、百田武司、小松浩子、櫻本秀明、高橋清美、永松美雪、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子	1 後	1		○	
		小計（1 科目）		1			
特別研究	特別研究	安酸史子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、河口てる子、原玲子、志賀くに子、高田由美、阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、百瀬由美子、山田聡子、野口眞弓、大西文子、東野督子、森田一三、長谷川喜代美、カルデナス暁東、小林尚司、田村由美、中信利恵子、百田武司、小松浩子、櫻本秀明、高橋清美、永松美雪、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子	2～2 通	8		○	
		小計（1 科目）		8			
	合計（19 科目）			11	23		

修了要件：15 単位以上（共通科目から 2 単位以上、専門科目から 2 単位以上、必修科目 11 単位）を修得していること。

4) カリキュラムポリシー

共同看護学専攻の設置の趣旨及び教育目標を達成するため、科目区分を設け必要な授業科目を配置するとともに、当該科目区分ごとに履修要件単位数を定め、体系的なコースワークによる教育課程を編成している。

- (1) 看護学を導く理論を探求するとともに、高度な実践知を基盤とした理論を構築するための方法及び研究方法を学修し、博士学位論文の作成に結びつけるために共通科目をおく。
- (2) 看護における知識や技術の検証、新たな理論や方法論の創設等、より高度な研究能力を身につけ、広範な健康問題や看護課題について実践的な研究を行うために専門科目をおく。
- (3) 自らの研究テーマに関わる事例や先行研究を分析し、課題解決のための理論と方法論、技法について実証的に研究する手法を探究するために演習をおく。
- (4) 博士学位論文作成に向け、専門領域の垣根を越え異なる専門性の観点から、実現可能な研究に向けての方向性を明確化するために合同研究ゼミナールをおく。
- (5) 保健・医療・福祉の場で科学的視点を持ち教育・研究能力が発揮できる高度専門職業人に必要な研究能力の修得を目指すために特別研究をおく。

5) 大学院博士課程 研究指導教員一覧

職位	氏名	資格	研究指導		研究計画・論文審査	
			主指導	副指導	主査	副査
学長	鎌倉 やよい	主	3名	3名	0名	6名
教授	百瀬 由美子	主	1名	3名	2名	1名
教授	山田 聡子	主	3名	2名	1名	4名
教授	野口 眞弓	主	3名	1名	1名	6名
特任教授	大西 文子	主	2名	1名	1名	2名
教授	東野 督子	主	0名	0名	1名	3名
教授	カルデナス暁東	主	0名	0名	0名	2名
教授	森田 一三	副	-	1名	-	-
教授	長谷川 喜代美	副	-	0名	-	-
教授	小林 尚司	副	-	0名	-	-

6) 研究指導関係スケジュール

日程	D1	D2、3
4月5日(水) 4月8日(土)	オリエンテーション(研究指導体制、看護学演習、研究倫理審査、特別研究報告書について)	オリエンテーション(研究計画書の提出、研究倫理審査、博士論文・審査願の提出について)
4月13日(木)		研究計画書提出①
4月20日(木)	主指導教員の決定(連絡協議会)	研究計画審査員の決定(連絡協議会)①
5月8日(月)		博士論文・審査願提出①
5月19日(金)～ 20日(土)	合同ガイダンス	
5月20日(土)～ 21日(日)		研究計画審査①、博士論文審査①
6月8日(木)		研究計画書提出②
6月15日(木)		研究計画審査員の決定(連絡協議会)②
7月7日(金)～ 8日(土)		研究計画審査②
9月7日(木)		研究計画書提出③
9月21日(木)		研究計画審査員の決定(連絡協議会)③
10月20日(金)	合同研究ゼミナール	
10月20日(金)～ 22日(日)		研究計画審査③
11月1日(水)		博士論文・審査願提出②
11月16日(木)	第1副指導教員の決定(連絡協議会)	
11月24日(金)～ 25日(土)		博士論文審査②
12月21日(木)	第2副指導教員の決定(連絡協議会)	
1月11日(木)		研究計画書提出④
1月18日(木)		研究計画審査員の決定(連絡協議会)④
2月8日(木)		特別研究報告書提出
2月15日(木)		修了判定(連絡協議会)
2月17日(土)～ 18日(日)		研究計画審査④
3月4日(木)		博士論文発表会
3月13日(水)		学位記授与式

<以下には本学在籍学生に係る事項を記載>

- ①指導教員・副指導教員：4月に2023年度入学生の主指導教員を決定した。11月に2023年度入学生の第1副指導教員を決定した。2月に年度末の教員の退職に伴う新年度の研究指導体制の変更について決定した。
- ②研究計画審査：2023年度は審査申請者がいなかった。
- ③博士論文審査：2名の審査を実施し、学位授与を決定した。

7) 学位論文審査基準

(1) 審査体制

審査は論文ごとに、共同看護学専攻を構成する5大学院博士学位審査委員会が提案し、連絡協議会が承認した5名の○合教員から成る専門委員会が行う。その構成は、主・副研究指導教員各1名を含む計5名とし、主査は、主・副研究指導教員以外の教員が担う。

専門委員会による審査結果は、博士学位審査委員会において博士学位論文の合否を判定し、最終的に連絡協議会が合否を決定する。

(2) 博士学位論文審査基準

審査の観点は、博士論文としての学術的価値、実践的な有用性、論理的な観点、完成度から、論文の水準を客観性、厳密性をもって判定する。

- ①看護学研究として学術的な貢献や社会的な意義を有している。

- ②研究方法ならびに成果が、独創性、論理性、体系性、実証性、新規性などの観点においてすぐれている。
- ③課題設定と問題意識の対応、課題解明と研究方法の対応、先行研究の整理・評価と結論の整合性などの論理的
一貫性が保たれている。
- ④章や節の組み立て、脚注や引用方法、著作権の配慮など、学術論文としての体裁が保たれている。
- ⑤学術雑誌における査読付研究論文1編以上の掲載などの研究業績がある。

8) 2023年度 博士学位論文テーマ一覧

タイトル
地域高齢者の生活における食にまつわる意味世界に関する研究
要支援高齢者の摂食嚥下機能の維持向上を目指すセルフマネジメントプログラムの開発

2. 学生の受け入れ

1) アドミッションポリシー

日本赤十字豊田看護大学大学院 共同看護学専攻では、赤十字の理念である「人道 (humanity)」のもとに、いかなる場合でも個人の尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現する人材の育成を目指すため、入学者選抜試験を実施し、次のような資質と能力、意欲をもった人材を幅広く求める。

- (1) 保健・医療・福祉の専門知識を有し、さらに深く追求する意欲のある人
- (2) 常に探求心を持ち、赤十字の看護活動を担う意欲のある人
- (3) 自らの活動範囲を拡げ、看護を発展させる意欲のある人
- (4) 様々な分野の専門家とともに、独創的な研究を志す人
- (5) 社会での実践から得た知識と経験を体系化し変革する意欲のある人
- (6) 国際的な視座で、国内外へ向けて広く成果を発信する意欲のある人
- (7) 真摯に学び、高い倫理性と豊かな人間性をもつ指導者を志す人

2) 入学者選抜試験の方法・募集定員一覧

試験種別	募集定員	必須・選択	科目
一般入学試験	2名	必須	外国語(英語)
			専門科目(小論文)
			面接
			書類審査

3) 入学者選抜試験別志願者数・受験者数・入学者数一覧

(単位:名)

年度		定員	志願者数	受験者	入学者数
2024年度	第1回	2	0	0	0
	第2回		3	3	3
2023年度	第1回	2	0	0	0
	第2回		1	1	1
2022年度	第1回	2	0	0	0
	第2回		1	1	1

3. 学生支援

平日夜間を中心としたオンライン開講に加えて、3年分の学費で4年での履修を可能とする長期履修制度、自習スペースとしても活用できる日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院敷地内に立地するサテライトキャンパスの整備、学外からの文献検索を可能とするVPNライセンスの付与など、様々な方面から院生の働きながらの学びを支援した。

1) 在籍学生数

(単位：名)

入学年度	入学者数	在籍者数	退学者数	退学率	累積退学者数	累積退学率	休学者数	休学率	学位取得者数
2023年度入学生	1	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
2022年度入学生	1	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
2021年度入学生	3	3	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	1
2020年度入学生	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
2019年度以前入学生	-	7	0	0.0%	-	-	5	71.4%	1
合計	-	12	0	0.0%	-	-	6	50.0%	2

退学率：年度内の退学者数 / 在籍者数（退・休学者含む）

休学率：年度内の休学者数 / 在籍者数（退・休学者含む）

累積退学者数：入学以降の累積退学者数 / 入学者数（退・休学者含む）

2) 修業年限内の修了率

(単位：名)

入学年度	標準修業年限	① 入学者数	② ①のうち 2023年度末 までに修了 した学生数	③ ①のうち 2023年度末 までに退学 した学生数	④ ①のうち 2024年度 現在在籍して いる学生数 (留年者数)	④' ④のうち在学 中に休学した 者を除いた 留年者数	⑤ 標準修業年 限内修了率	⑥ 標準修業年 限を通じた 退学率
2021年度入学生 (長期履修者除く)	3年	1	1	0	0	0	100.0%	0.0%
2020年度入学生 (長期履修者のみ)	3→4年	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%

3) 研究費助成制度・獲得状況

2023年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による教育・研究事業（学長裁量事業）

	研究テーマ	研究者	交付金額
1	ICUにおける人工呼吸患者の現実認識を促す看護ケアの構築：アルゴリズム開発	小倉久美子	120,000円
2	妊娠後期と産後1か月の抑うつを予測するモデルの作成	坂井田綾子	412,000円

4) 就職・進路状況

2023年度修了生はすべて有職学生であった。

5) 修了年度 入学年度 論文の投稿状況

修了年度	論文の投稿状況
2022年度 (2022.9 修了)	準備中(学会発表済)
2022年度 (2023.3 修了)	準備中(学会発表済)

VI ヘルスプロモーションセンター

1. 組織

ヘルスプロモーションセンター長：東野督子

2. 地域連携委員会活動報告

目的	1) 地域の保健・医療・福祉の向上に関すること 2) 公開講座の企画及び実施に関すること 3) 地域医療従事者を対象とした研修会の企画及び実施に関すること 4) その他ヘルスプロモーションに関すること																																																			
構成員	委員長：東野督子 委員：カルデナス暁東、清水美代子、深谷由美、千葉朝子、谷口純平、田口栄子、中島伸一 事務局：企画・地域交流課 中根春波、寺本庄吾、奥映理菜																																																			
開催回数	12回																																																			
活動実績	<p>1) 地域の保健・医療・福祉の向上に関すること (1) 大学の近隣地域 大学の近隣地域において、ヘルスプロモーション活動を以下のとおり実施した。(表 1)</p> <p>表 1 大学の近隣地域での講座一覧 (単位：名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>日時</th> <th>来場者</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊田西高等学校豊田・みよし地区探究活動発表会</td> <td>2023年7月28日(金)</td> <td>96</td> <td>愛知県立豊田西高等学校</td> </tr> <tr> <td>豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム 事業「社会人防災マイスター養成講座」(共同)</td> <td>2023年6月20日(火) 2023年10月24日(火)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>宮口上フェスタ</td> <td>2023年11月4日(土)</td> <td>-</td> <td>※救護として参加</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 特定地域 大学の近隣以外の特定地域において、全4回開催した。(表 2)</p> <p>表 2 特定地域での講座一覧 (単位：名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>日時</th> <th>来場者</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊根村地域住民向け講座</td> <td>2023年8月22日(火)</td> <td>34</td> <td>あさがね農園</td> </tr> <tr> <td>尾張旭市総合事業一般介護予防 摂食嚥下予防教室「つばめ教室」</td> <td>2024年1月25日(木)</td> <td>42</td> <td>スカイワードあさひ</td> </tr> <tr> <td>EAS(ブラジル人学校)での身体測定会</td> <td>2024年3月14日(木)</td> <td>35</td> <td>EAS</td> </tr> <tr> <td>豊根村生涯学習講座</td> <td>2024年3月26日(火)</td> <td>7</td> <td>豊根村役場 保健福祉センター</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 公開講座の企画及び実施に関すること 公開講座を2回開催した。(表 3)</p> <p>表 3 公開講座一覧 (単位：名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>日時</th> <th>来場者</th> <th>担当領域</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「あじわう」は健康のもと</td> <td>2024年3月9日(土)</td> <td>25</td> <td>成人</td> <td>益富交流館</td> </tr> <tr> <td>居酒屋健康管理室</td> <td>2024年3月16日(土)</td> <td>12</td> <td>公衆衛生</td> <td>とよた市民活動センター</td> </tr> </tbody> </table>	テーマ	日時	来場者	開催場所	豊田西高等学校豊田・みよし地区探究活動発表会	2023年7月28日(金)	96	愛知県立豊田西高等学校	豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム 事業「社会人防災マイスター養成講座」(共同)	2023年6月20日(火) 2023年10月24日(火)			宮口上フェスタ	2023年11月4日(土)	-	※救護として参加	テーマ	日時	来場者	開催場所	豊根村地域住民向け講座	2023年8月22日(火)	34	あさがね農園	尾張旭市総合事業一般介護予防 摂食嚥下予防教室「つばめ教室」	2024年1月25日(木)	42	スカイワードあさひ	EAS(ブラジル人学校)での身体測定会	2024年3月14日(木)	35	EAS	豊根村生涯学習講座	2024年3月26日(火)	7	豊根村役場 保健福祉センター	テーマ	日時	来場者	担当領域	開催場所	「あじわう」は健康のもと	2024年3月9日(土)	25	成人	益富交流館	居酒屋健康管理室	2024年3月16日(土)	12	公衆衛生	とよた市民活動センター
テーマ	日時	来場者	開催場所																																																	
豊田西高等学校豊田・みよし地区探究活動発表会	2023年7月28日(金)	96	愛知県立豊田西高等学校																																																	
豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム 事業「社会人防災マイスター養成講座」(共同)	2023年6月20日(火) 2023年10月24日(火)																																																			
宮口上フェスタ	2023年11月4日(土)	-	※救護として参加																																																	
テーマ	日時	来場者	開催場所																																																	
豊根村地域住民向け講座	2023年8月22日(火)	34	あさがね農園																																																	
尾張旭市総合事業一般介護予防 摂食嚥下予防教室「つばめ教室」	2024年1月25日(木)	42	スカイワードあさひ																																																	
EAS(ブラジル人学校)での身体測定会	2024年3月14日(木)	35	EAS																																																	
豊根村生涯学習講座	2024年3月26日(火)	7	豊根村役場 保健福祉センター																																																	
テーマ	日時	来場者	担当領域	開催場所																																																
「あじわう」は健康のもと	2024年3月9日(土)	25	成人	益富交流館																																																
居酒屋健康管理室	2024年3月16日(土)	12	公衆衛生	とよた市民活動センター																																																

3) 地域医療従事者を対象とした研修会の企画及び実施に関すること
医療従事者及び専門職者を対象とした研修会を全5回開催した。(表4)

表4 専門職向け研修会一覧

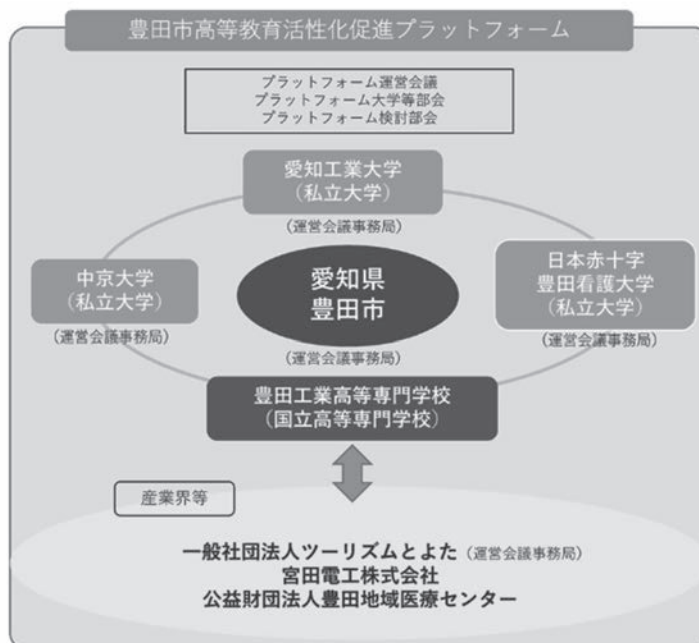
(単位:名)

テーマ	日時	参加者	担当者	開催場所
ケア実践の事例研究: 「ケアの意味をみつめる事例研究」の進め方・まとめ方	2023年7月29日(土) 10:00~11:30	137	山本則子 (東京大学)	ZOOM 開催
学会で発表をしてみよう!	2023年9月9日(土) 14:00~15:30	6	深谷由美	セミナールーム
看護職としてのキャリアと well-being	2023年10月14日(土) 13:00~14:30	46	南谷志野	ZOOM 開催
人とチームを育てるコーチング スキル	2023年12月17日(日) 10:00~11:30	88	出江紳一 (鶴巻温泉病院 副院長)	ZOOM 開催
ケアする人・される人が共に 癒される癒しのアロマハンド マッサージ	2024年2月3日(土) 10:30~12:00	34	千葉朝子	小講義室3

3. プラットフォーム

高等教育機関と豊田市・産業界の連携強化により、人と地域が共に育ち合い、自立した地域社会を実現するため、豊田市に所在する私立大学（愛知工業大学・中京大学・日本赤十字豊田看護大学）、国立高等専門学校（豊田工業高等専門学校）、地方自治体（豊田市）で「豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム」を形成した。2018年9月には、地元産業界より「一般社団法人ツーリズムとよた」が新たに参画することになり、観光をはじめとする地域振興の活性化がより強化されることが期待できる。さらに2019年9月には、豊田PF形成大学等と共同研究を行う宮田電工株式会社が新規参画し、2023年9月には豊田PF形成大学等と共同研究を行う公益財団法人豊田地域医療センターが新規参画した。

本プラットフォームの特徴は、「ものづくり」をはじめとする地域の特性を踏まえ、大学、高等専門学校、地方自治体、産業界等がそれぞれの得意分野を活かして連携・協力して様々な取組を通して、有能な人材の育成と地域社会での活躍を促し、地域社会の発展に寄与するとともに、高等教育の活性化に繋がると考える。現状分析、課題・目標、具体的な実行計画を中長期計画にまとめ、取り組んでいるところである。



1) プラットフォーム活動概要

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績
地元就職の促進	各大学等の強みを活かした就職支援の他、インターンシップ等を通じた豊田市への就職等、地元就職を促進する	(取組2) 豊田市の医療施設への就職を促進するために就職説明会を開催 ○取組方針・具体的内容・目標等：就職説明会を開催することにより、本学学生が豊田市の医療施設へ少しでも多く就職を希望するよう推進する。 ○実施時期・期間等：毎年4月の入学式終了後実施予定 ○目標等：年間1回以上の開催 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組2の活動指標) 1回以上/年	(取組2の活動実績) 2回 2023年4月19日(火)に学内説明会を実施し、資料配付とDVD視聴で病院紹介を実施した。 2023年9月29日(金)に3、4年生を対象に保健師就職説明会を実施した。
健康意識の醸成	地域住民の健康意識を高める	(取組1) ブラジル人学校における身体測定の実施 ○取組方針・具体的内容等：ブラジル人学校に通う児童の身体測定(身長・体重等)を行う。身体計測値を経年的に記録できる用紙(冊子)の作成。 ○実施時期・期間等：毎年7月～9月、ブラジル人学校にて実施予定。 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組1の活動指標) 1回以上/年	(取組1の活動実績) 1回 2024年3月14日(木)に実施し、35名の身体計測を行った。
		(取組2) 体育館、運動場等の施設利用の促進による、地域住民の健康意識の向上 ○取組方針・具体的内容・目標等：体育館・運動場等の施設利用を地域住民に促すことで、積極的に運動等を行っていただき、健康の促進及び健康に対する意識を高める。 ○実施時期・期間等：長期休暇以外施設の利用可。 ○目標等：年間100件以上の利用促進。 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組2の活動指標) 100件以上利用促進/年	(取組2の活動実績) 73件 地域住民に施設利用の促進を行い、73件の運動施設の利用があった。
防災意識の醸成	学生・地域住民の防災意識を高め、災害発生時に備える	(取組2) 共同の防災教育プログラムを実施 ○具体的内容等：キャリアマネジメントを目的とする「防災マイスター養成講座」(履修証明プログラム)を共同で実施する。 ○実施主体(主担当)：愛知工業大学、日本赤十字豊田看護大学、ツーリズムとよた	(取組2の活動指標) 1回以上/年	(取組2の活動実績) 2回 2023年6月20日(火)に愛知工業大学本山キャンパスにおいて、「社会人防災マイスター養成講座 演習」を実施した。 2023年8月1日(火)に研究発表会及び修了式を実施し、第15回の養成講座を修了した。
地域学習支援の推進(学校教育活動の支援)	学生・教員・初等中等教育機関が一体となり、初等中等教育に対する教育活動支援を行う	(取組3) 高校生対象の職業意識を醸成するための進学情報交換会等を実施 ○取組方針・具体的内容・目標等：看護をよく知ってもらい、将来、看護師として就職を希望する者を増やしたいため、進学情報交換会等を実施する。 ○実施時期・期間等：毎年7月中に実施予定。 ○実施体制(主担当)：日本赤十字豊田看護大学	(取組3の活動指標) 1回以上/年	(取組3の活動実績) 1回/年 2023年6月22日(木)にZoomによるオンラインでの進学情報交換会を実施した。参加校は7校であった。 模擬授業 ①豊田高等学校 日時：2023年6月15日(木) 内容：看護師としてのキャリアを考える ②豊田東高等学校 日時：2023年7月10日(月) 内容：看護師としてのキャリアを考える

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績
生涯学習の推進	高等教育機関と地域が一体となり生涯学習を推進する	<p>(取組1) 地域住民に対する公開講座等の実施</p> <p>○取組方針・具体的内容等：地域の保健・医療・福祉の向上及び地域医療の質の向上に寄与することを目的に地域住民を対象とした公開講座を実施する。</p> <p>○実施時期・期間等：1年を通し、約5回の実施予定。</p> <p>○実施体制（主担当）：豊田市、中京大学、日本赤十字豊田看護大学</p>	(取組1の活動指標) 5回以上/年	<p>(取組1の活動実績) 7回/年 公開講座</p> <p>①「あじわう」は健康のもと 日時:2024年3月9日(土) 開催方法：対面 参加者：25名</p> <p>②居酒屋健康管理室 日時:2024年3月16日(土) 開催方法：対面 参加者：12名 専門職向け研修会</p> <p>①ケア実践の事例研究：「ケアの意味をみつめる事例研究」の進め方・まとめ方 日時:2023年7月29日(土) 開催方法：オンライン 参加者：137名</p> <p>②学会で発表をしてみよう！ 日時:2023年9月9日(土) 開催方法：対面 参加者：6名</p> <p>③看護職としてのキャリアとwell-being 日時:2023年10月14日(土) 開催方法：オンライン 参加者：46名</p> <p>④人とチームを育てるコーチングスキル 日時:2023年12月17日(日) 開催方法：オンライン 参加者：88名</p> <p>⑤ケアする人・される人が共に癒される癒しのアロマハンドマッサージ 日時:2024年2月3日(土) 開催方法：対面 参加者：34名</p>
愛知県立豊田高等学校との高大連携		<p>○取組方針・具体的内容等：愛知県立豊田高等学校との高大連携協定を締結したことから、同校普通科に新設された「医療・看護コース」の充実と相互の教育・研究活動を活性化させる。</p> <p>○実施時期・期間等：看護ベーシック（授業） 4月中旬～12月中旬 健康生活支援演習 2023年8月3日～7日</p> <p>○目標等：看護に関する基本的な概念と技術の原理・原則を教授し、看護への関心を高める。</p> <p>○実施体制：日本赤十字豊田看護大学</p>	3年生授業 2コマ/年 2年生健康生活支援演習 1回/年	<p>[3年生] 授業 14項目の学習（2コマを22回実施） 日時：2023年4月12日(水)～12月13日(水) 場所：愛知県立豊田高等学校</p> <p>[2年生] 健康生活支援演習 日時：2023年8月3日(木)～7日(月) 場所：日本赤十字豊田看護大学</p>

VII 学術情報センター・図書館

1. 組織

学術情報センター・図書館長：下間正隆

1) 図書館課

課長：ロベル智子

課員：村瀬悠香代（司書）

池上健二（一般：非常勤嘱託）

水野真理子（司書：常勤嘱託）

高橋美帆（司書補：契約）

2. 情報管理・図書委員会活動報告

活動目的	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学内ネットワークシステム管理運営に関する事項 2) 情報環境の整備に関する事項 3) 情報化の推進に関する事項 4) その他情報管理に関して必要な事項 5) 図書の選定に関する事項 6) 視聴覚資料の選定に関する事項 7) 図書目録の作成及び図書管理に関する事項 8) その他図書館の利用及び管理に関して必要な事項
構成員	<p>委員長：下間正隆</p> <p>委員：森田一三、武田智美、高見精一郎、恒川美智子、村瀬悠香代</p> <p>事務局：総務課、図書館課 村瀬悠香代</p>
委員会開催回数	5回
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学内ネットワークシステム管理運営に関する事項 2) 情報環境の整備に関する事項 3) 情報化の推進に関する事項 4) その他情報管理に関して必要な事項 5) 図書の選定に関する事項 蔵書整備に学生の声を反映するため、前期授業期間中に「学生オンライン選書イベント」を実施し、学生10名が参加、人文社会学系の図書を中心に44冊を整備した。 6) 視聴覚資料の選定に関する事項 高大連携プロジェクトと協働し初年次教育に役立つ医学分野の視聴覚資料7本を整備した。 7) 図書目録の作成及び図書管理に関する事項 2023年度に図書1,295冊（購入および寄贈）を新たに整備・受入れするとともに、新版がでたり、内容が古くなったりした図書636冊を除籍し、最新の資料の充実に努めた。 8) その他図書館の利用及び管理に関して必要な事項 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、定時の換気を2020年度から継続している。 ※座席数については、学生の利用増加に対応するため90席→124席を増やした。 ・図書の企画展示：2024年2月末日まで6回実施 ・学術情報センター・図書館が主体となり、令和6年能登半島地震被災地への本を通じた支援を実施した。具体的には読み終えた不要本を回収し、古本買取業者に査定・買取をしてもらった。その買取金額全額を日本図書館協会を通じて、被災地の図書館支援へと役立てることができた。（期間：2024年2月21日（木）から3月16日（土）まで、115冊回収、寄付金額17,764円）
次年度の課題	<p>学生の調べ学習のあらゆるニーズに応えられるように電子ブックの充実に努める。</p> <p>これにより、次年度の電子教科書の導入に合わせ学生がタブレット上で学習を完結できる環境の構築を目指す。</p>

3. 学術情報センター・図書館主催活動実績

・CINAHL 検索講習会 実施日：2023年7月5日（水）

（単位：人）

院生	2
教員	6
計	8

※ 2023年度はアーカイブ視聴が可能とした
（公開期間 2023年7月5日～2024年3月31日）
視聴人数：16人

- ・助成金募集リスト 53件
- ・学術情報リポジトリ公開 6件

4. 図書・製本雑誌・視聴覚資料

		和(数)	金額(円)	洋(数)	金額(円)	計(数)	金額計(円)
2022年度 累積	図書	47,147	162,138,094	3,059	28,707,182	50,206	190,845,276
	製本雑誌	4,641	8,979,882	593	1,165,534	5,234	10,145,416
	視聴覚資料	2,292	46,285,519	4	32,808	2,296	46,318,327
2023年度 (購入)	図書	1,154	3,684,918	127	460,649	1,281	4,145,567
	製本雑誌	60	156,000	11	28,600	71	184,600
	視聴覚資料	36	1,065,809	0	0	36	1,065,809
2023年度 (寄贈)	図書	14	28,300	0	0	14	28,300
	製本雑誌	0	0	0	0	0	0
	視聴覚資料	0	0	0	0	0	0
2023年度 除籍	図書	636	1,899,684	0	0	636	1,899,684
	製本雑誌	0	0	0	0	0	0
	視聴覚資料	2	24,412	0	0	2	24,412
2023年度 累積	図書	47,679	163,951,628	3,186	29,167,831	50,865	193,119,459
	製本雑誌	4,701	9,135,882	604	1,194,134	5,305	10,330,016
	視聴覚資料	2,326	47,326,916	4	32,808	2,330	47,359,724
						合計	¥250,809,199

〈2023年度受入〉 図書：1,295冊（含洋図書：127冊、含電子ブック168タイトル）
製本雑誌：71冊（含洋製本雑誌：11冊）
視聴覚資料：36タイトル（すべてDVD）
*他に新書・文庫・問題集：140冊（消耗品として購入 ¥227,909）

5. 年間購読新聞

朝日新聞、中日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、Asahi Weekly

計5紙 ¥194,520

6. 年間購読雑誌

購読数（種）

和雑誌	65
洋雑誌	13
計	78

※電子ジャーナル8種含む

7. 電子ジャーナル

【電子ジャーナル一覧】

	購読数 (種)	
メディカルオンライン	1,579	
最新看護索引 Web	18	
CINAHL with FullText/MEDLINE with Full Text	1,732	
Cochrane Library	1	
洋雑誌 (個別契約)	8	
計	3,338	うち洋雑誌 1,741 種

8. 利用者数

【開館日】

	日数 (日)	
22 時閉館	163	
20 時閉館	19	
17 時閉館	93	
18 時閉館	1	※ 6/2 大雨による休講のため

【入館者数】

	人数 (人)
入館者延べ数	32,570
平日平均	134
土曜平均	31

【利用者・資料別年間貸出統計】

	図書		雑誌		視聴覚資料	
	貸出数 (冊)	人数 (人)	貸出数 (冊)	人数 (人)	貸出数 (本)	人数 (人)
1 年生	69	49	9	8	0	0
2 年生	747	444	7	4	19	17
3 年生	1,649	861	20	16	2	2
4 年生	1,194	654	29	17	1	1
大学院生	133	52	1	1	1	1
卒業生・修了生	0	0	—	—	—	—
聴講生等	55	15	5	2	0	0
教職員	1,008	418	50	29	135	88
合計	4,855	2493	121	77	158	109

※ 「—」は貸出対象外

【資料予約件数】

	件数 (件)
1 年生	0
2 年生	11
3 年生	18
4 年生	6
大学院生	0
聴講生等	0
教職員	1
合 計	36

【購入希望図書申込】

申込件数 (件)	0
----------	---

【電子ブック閲覧数】

閲覧回数 (回)	688
----------	-----

【施設・備品利用件数】

	回数 (回)	人数 (人)
AV ルーム / 共同学習室	474	1210
Surface 貸出	104	82

【学外利用者数】

	人数 (人)
来館者	18
うち利用カード作成	0

9. 相互利用件数

	件数 (件)		
	複写	現物貸借	計
他館へ申込	336	4	340
他館より受付	452	4	456

1. 活動目的

- (1) 経営戦略に関する情報の収集・分析・提言
- (2) 教育の質保証に関する情報の収集・分析・提言
- (3) 本学の研究の成果に関する情報の収集・分析・提言
- (4) 国内外の教育研究・大学運営等にかかる情報の収集・分析・提言
- (5) その他学長が必要と認めたこと

2. 構成員

室長：森田一三

室員：大西文子、野口眞弓、原田真澄、清水みどり、高見精一郎、恒川美智子

事務局：総務課 佐藤遼

3. 活動概要

- (1) 経営戦略に関する情報の収集・分析・提言

受験者数の増加、教員の教育力の向上、事務職員の能力向上の具体的方策を示すことを目的とし、収集した情報を基に提言書を作成した。「教育・研究・社会連携の総合施策による魅力向上と持続可能な発展をめざして」をテーマとし、1. 医療分野の最新動向への対応と看護学部の充実強化、2. 産学連携と就職支援の一層の強化、3. 研究環境の向上と研究力強化、4. 教育プログラムの多様性と技術革新への対応、5. 持続可能な大学運営とコミュニケーションの強化、の5項目について提言をまとめた。

- (2) 教育の質保証に関する情報の収集・分析・提言

学修成果の調査結果、授業評価の調査結果、学習時間に関する調査結果を分析しHPにて公表した。

- (3) 本学の研究の成果に関する情報の収集・分析・提言

情報収集者と分析・提言者を定め、主に文部科学省・厚生労働省から発信される情報の収集および分析をした。

- (4) 国内外の教育研究・大学運営等にかかる情報の収集・分析・提言

IR事例の動向を把握するために、IRに関するオンライン講座を受講した。また、情報収集者と分析・提言者を定め、主に文部科学省・厚生労働省から発信される情報の収集および分析をした。

- (5) その他学長が必要と認めたこと

ディプロマポリシー（以下、DP）に示す能力の評価について、数年来評価結果を分析した結果、評価方法の適切性に課題があることが確認できた。現行のルーブリック指標を用いた評価方法は、評価を困難にしている可能性があることを学長へ提言した。その結果、教育の質保証委員会において、DPに示す能力の評価方法について検討を重ねた結果、カリキュラムマップに示す各DPに関連する科目のGPAを客観的指標とし、学生自身の能力習得度についての主観評価をマトリックス法による5段階評価の調査方法を用いることとなった。

IX 国際交流

1. MOU に基づく交流

本学は国際交流活動の一環として、タイ赤十字看護大学（Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing、以下 STIN）と看護に関する交流及び教育研究協力を行う MOU（了解覚書）を交わしており、2017 年から STIN の学生を本学に受け入れ交流を行っている。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け 2020 年度からオンラインのみだった交流を、2023 年度は対面で実施した。

8 月には本学 2 年生 3 名を初めて STIN へ派遣した。学生寮での生活、授業や実習への参加、赤十字関連施設や医療機関の見学を通し、国際的な視野が広がった一週間であった。

12 月には STIN の学生 3 名を受け入れた。近隣医療施設や国際交流団体の見学を実施し、日本の医療や国際貢献について学ぶ機会を提供した。また本学学生が、歓迎会、お別れ会を企画・実施し、互いの文化を理解して友好の輪が広がった。STIN の学生は、ホストファミリーとの思い出や、日本ならではの保健医療体制の学びを胸に帰国の途についた。

異文化を理解し広い視野を持つ看護師を育成するため、今後も STIN との交流を始めとした国際交流事業を拡大・継続していきたいと考えている。

2. 語学研修プログラム

本学では赤十字事業の一つである国際救援事業へ繋げる学びの機会として、希望する学生に海外での語学研修を実施している。

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止としていた語学研修を再開し、オーストラリア ウーロンゴンの地元の家庭でホームステイをしながら、午前中はウーロンゴン大学の附属カレッジの英語コースに参加し、大学医学部・看護学部への訪問、近隣施設・オーストラリア赤十字社の見学などを通し、互いの文化、生活習慣、医療環境等を学んだ。

帰国後には帰国報告会を実施し、自身の経験を振り返ることで今後の学修・行動目標を見つけ出す機会となった。今後もこのような海外での語学研修を通し、広い視野で医療を学ぶ機会を提供する。

X 新型コロナウイルス感染予防対策本部の活動

新型コロナウイルス感染症は2023年5月に感染症法上の5類に移行し、行動制限などは行われなくなった。しかし、本学の学生は病院をはじめとした各医療施設にて実習を行うため、感染予防対策を継続して行った。

2023年度は新型コロナウイルス感染対策本部会議を1回開催し、本学の新型コロナウイルス感染予防対策指針Ver.6に改定し、本指針に基づき感染予防対策を行った。新型コロナウイルス感染予防対策本部については、新型コロナウイルス感染症の感染法上の5類移行に伴い、対策本部の当初の役割は達成したため、11月末日をもって解散することとした。以降の組織的な決定については、ICDから教授会に付議し審議・決定することとなった。

1. 組織図：

(1) 対策本部

	担当者	役割
本部長	学長 鎌倉やよい	・本部を統括する
副本部長	学部長 山田聡子	・本部長を補佐する
	研究科長 百瀬由美子	
	事務局長 小林寿	
ICD	ICD 下間正隆	・感染対策に対する判断と実施
	ICD 東野督子	
本部要員	災害対策委員会委員長 小林洋子	・感染対策の実行
	小児看護学教授 岡田摩理	
	公衆衛生看護学教授 長谷川喜代美	
対策本部事務局	総務課	・連絡窓口、会議調整等

(2) 機能班

班名	担当者	役割
講義・演習班	教務委員会委員長 小林尚司	・授業の調整・実施・検証
実習班	実習検討委員会委員長 カルデナス暁東	・実習での感染予防具体策の提示・物品準備 ・実習施設可否の確認と否の場合は代替案の調整 ・実習施設の実習要件の取りまとめ ・臨地実習における感染予防対策に関する企画
大学院教務・学生班	教務・学生委員会委員長 長谷川喜代美	・大学院授業調整、大学院生健康管理等
学部学生班	学生委員会委員長 岡田摩理	・学生自治会活動に関する自治会長との調整
生活環境班	事務局長 小林寿	・設備に関する感染予防対策の実施管理
一換気	(実務担当：経理課・関電ファシリティーズ)	・機械換気の計画・実施
一食堂	(実務担当：総務課)	・食堂の感染予防対策管理
一スクールバス	(実務担当：経理課)	・スクールバスの運行管理
情報収集班	総務課長	・WHO・国・県・法人本部
設備・備品班	学務課長	・消耗品（マスク等感染防止用品含む）の管理、整備
	事務局長 小林寿	・サポート
学生連絡・調査班	学務課長	・学生からの体調不良連絡の受付・記録・報告
		・学生への連絡事項の発信
学生対応班	学部長 山田聡子	・発症者発生時の学生への個別対応
教職員対応班	総務課長	・教職員からの体調不良者連絡の受付・記録・報告
	事務局長	・テレワーク等の検討・整備
広報班	企画地域交流課長	・HPから本学の感染予防対策に関する情報発信
		・対策本部ページの整備・運用

(3) 作業部会

部会名	責任者		役割
感染症フロー	ICD	下間正隆	・感染症対応手順作成・検証等
	公衆衛生看護学教授	長谷川喜代美	
消毒方法・手順	ICD	下間正隆	・消毒方法手順作成・物品準備・検証等
	公衆衛生看護学准教授	清水美代子	
情報ネットワーク支援	情報ネットワーク支援室長	森田一三	・遠隔教育デバイスの検証等

2. 基本方針：

「新型コロナウイルス感染拡大を予防して、学生・教職員及び地域の安全を守る。」

日本赤十字豊田看護大学 新型コロナウイルス等感染予防対策指針 Ver.6

大学基準	本学の感染予防対策実施方法	
	講義・演習・実習	課外活動等(クラブ・サークル・自治会活動等)【学外対応】
注意	感染予防対策の上で ・講義・演習・実習(対面授業)を実施。	感染予防対策の上で ・課外活動等を実施。 ただし、学外者とともに活動する場合は事前に大学の許可を得ること。
警戒	感染予防対策の上で、 ・講義:原則として対面授業を実施。 ・演習(技術演習・ゼミナール) :対面授業と遠隔授業を併用して実施。 対面授業は人数を制限して実施。 ・体育実技 :体育館で行う場合には十分な換気を行うこと。 ・実習(臨地) :①原則として対面授業を実施。 ②必要に応じて、人数、日程、方法を施設と調整。 ・実習(学内) :人数を制限して対面授業を実施。	クラブ・サークル活動について、「サークル活動再開申請書」を提出の上本学の承認を受けた場合に限り実施することができる。 ただし、臨地実習を控える学生は、実習開始2週間前から参加不可とする。 課外活動等は感染予防対策を徹底した上で、 ・屋外での課外活動が可能。 ・十分な換気を実施のうえで、体育館の利用が可能。 ・十分な換気、飲食禁止のうえで、10分以内の部室への入室が可能。 ・マスクを着用のうえで、飲食を伴わない会議や集会等への参加は可能。 <活動の例> ○ 十分な換気のもとでの体育館での活動 ○ 密を避けた屋内外でのボランティア活動 ○ オンラインでの勉強会 ○ 野外での歌唱・吹奏楽器等の演奏 【感染予防対策を徹底した上で学外者の学内施設ならびに図書館利用を可とする。】
嚴重警戒	感染予防対策の上で、 ・講義は対面授業と遠隔授業を併用して実施。 ・演習・実習は原則として警戒レベルの実施方法とする。 ・感染拡大状況に応じて実施方法を見直し、遠隔に切り替える。	・全ての活動(SNS等ネット上での活動を除く)を中止 【学外者の図書館利用を不可とする。】
危険	感染予防対策の上で、 ・講義の実施(遠隔授業のみ実施) ・演習の実施(遠隔授業のみ実施) ・実習の実施(原則として嚴重警戒レベルの実施方法とする)	・全ての活動(SNS等ネット上での活動を除く)を中止 【学外者の図書館利用を不可とする。】
食事場面・マスク着用の基準	全ての警戒レベルにおいて マスク着用・黙食 を徹底する。	

※本予防対策指針は、本学独自の基準で示す。
※この指針に基づき、実施することを原則とする。

XI 教員研究業績・社会活動一覧

I. 研究業績

1. 著書

- 1) 青田良介監修, 河村諒他: 来るべき巨大災害に向けて 災害時の支援とは何か。連携とは何か。愛知版 災害ケースマネジメントの手引き, 88 (28-29), 認定NPO法人レスキューストックヤード, 愛知県, 2024.3.25
- 2) 堀浩樹, 梶美保, 宇都弘美, 梅本正和, 遠藤幸子, 高岡光江, 長倉里加, 山川紀子 (分担執筆): 保育を学ぶ人のための子どもの保健 [第2版], 9-16, 建帛社, 東京, 2023.12
- 3) 編集 日本口腔ケア学会看護部会; 道重文子, 水谷聖子, 大谷喜美江, 中塚美智子, 山中武志, 神光一郎, 糸田昌隆, 諏訪部武, 岸本裕充, 貴島真佐子, 江尻晴美, 石原佳代子, 鈴木紀子, 清水三紀子, 東野督子, 田口栄子, 米澤知恵, 佐伯香織, 大野晶子, 山本司: ライフステージに沿った口腔ケアガイド 看護職のための根拠に基づいたケア実践, 136-138, 143-145, 171-186, 208-225, メヂカルフレンド社, 東京都, 2023.8.31
- 4) 水谷信子, 水野敏子, 高山成子監修, 天木伸子: 最新老年看護学第4版, 第4章B1, 第5章B3, 110-111, 195-199, 日本看護協会出版会, 東京, 2024.2.1
- 5) 村瀬智子, 小林洋子: ポストパンデミックとケア共創看護学, 村瀬雅俊編著 (2024) 自然の知覚 第5章, ナカニシア出版, 京都府, 2024.3
- 6) 下間正隆: イラスト二条城, 京都新聞出版センター, 京都市, 2023.12.10
- 7) 泊祐子, 岡田摩理 (編著), 市川百香里, 馬場恵子, 竹村淳子, 鈴木美佐, 中北裕子 (分担執筆): 小児看護学実習ハンドブック, 22-26, 39-70, 98-113, 117-125, 186-188, 中央法規, 東京, 2023.7

2. 学術論文

- 1) 赤羽根章子, 部谷知佐恵, 岡田摩理, 叶谷由佳, 遠渡絹代, 市川百香里, 濱田裕子, 泊祐子: 2018年時点の全国の訪問看護ステーショ

ンにおける小児の訪問看護の実態からみた課題, 日本看護研究学会雑誌, 46 (4), 657-670, 2023.10

- 2) 天木伸子, 百瀬由美子, 藤野あゆみ: 介護老人福祉施設における認知症ケア評価指標の作成と信頼性・妥当性の検討, 老年看護学, 28 (1), 41-50, 2023.7
- 3) 千葉朝子, 村瀬智子, 森田一三: 母親が母乳育児に感じる心地よさ尺度の開発, 日本赤十字看護学会誌, 24 (1), 140-150, 2024.1
- 4) 江尻晴美, 鈴木紀子, 東野督子, 水谷聖子, 石原佳代子, 道重文子, 大野晶子, 大谷喜美江, 佐伯香織, 米澤知恵: 看護学生への口腔ケアの啓発を目指した3か年モデル事業-初年次からの活動報告と今後の課題-, 日本口腔ケア学会雑誌, 18 (1), 67-71, 2023.6
- 5) 深谷由美, 田島真智子, 山幡朗子, 藤原奈佳子: 通所介護における要介護者の受け入れに影響する医療的ケアとその課題の探索, 日本ヒューマンヘルスケア学会, 8 (2), 41-50, 2023.7
- 6) 東野督子: 口腔ケアがもたらすアウトカム; 生きる力を支援する口腔ケア, 日本リハビリテーション学会誌, 13 (1), 9-15, 2023.12
- 7) 市川百香里, 岡田摩理, 泊祐子: 障がい児の在宅生活を専門的に支援する看護師によるコーディネーションのプロセス, 日本小児看護学会誌, 32, 9-17, 2023.12
- 8) 飯田大輔, 岡田摩理: 成人の場面緘黙当事者がポジティブな効果を感じた体験と望んでいる支援, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 19 (1), 33-49, 2024.3
- 9) 小林洋子: 本学における災害看護学教育, 看護人間工学会誌, 第5巻, 12-15, 2024.3.
- 10) 近藤絵美, 正木治恵: 一般病棟看護師に対する「豊かな存在としての高齢者のあり様」に着目したリフレクシオンシートの有用性の検討, 千葉看護学会会誌, 29 (2), 77-87, 2024.2
- 11) 小山順子, 東野督子, 石田咲: 在宅要介護高齢者に実施する口腔ケアに関する全国の介護支援専門員の実態調査, 日本口腔ケア学会雑誌, 18

- (2), 39-48, 2023.12
- 12) **Morita I, Sakuma S, Kondo K** : Impact of the Coronavirus Disease 2019 Pandemic on Dental Visits in Japan, *Oral Health and Preventive Dentistry*, 21, 179-184, 2023.5
- 13) **森田一三**, 松本祐介, 杉浦石根, 稲川祐成, 中畷誠治, 野村岳嗣, 阿部義和, 丸山智美 : オーラルフレイルが現れる年齢の推定の試み, *日本歯科医療管理学会雑誌*, 58 (2), 116-121, 2023.8
- 14) **Mori T, Cardenas X** : The relationship between sense of coherence and cross-culture adjustment among Chinese nurses in Japan, *Journal of International Nursing Research*, 未定, 未定, 2024.3
- 15) **中島佳緒里** : 軽擦法における眠気に注目した身体反応の特徴, *看護人間工学会誌*, 5, 30-38, 2024.3
- 16) **南谷志野**, 三枝克磨, 原田博子, 白井麻希, 佐藤美子 : 認定看護管理者の病院における看護管理実践の実態～認定更新審査時の看護管理実践報告書の内容分析～, *日本看護管理学会誌*, 27 (1), 1-9, 2023.8
- 17) **西村美帆**, 白鳥さつき, **谷口純平**, 山幡朗子, 伊藤眞由美 : 輸液ボトルへのびん針の穿刺時に生じる薬液漏出の検証－第一報 看護学生を対象とした実験より－, *日本健康医学会誌*, 32 (3), 378-384, 2023.10
- 18) **小倉久美子**, **河村諒**, 市川敦子 : 救急外来における救急看護認定看護師による院内トリアージの実践, *日本救急看護学会誌*, 26, 20-31, 2024.2
- 19) **岡田摩理**, 市川百香里, 泊祐子 : 障がい児の在宅生活を専門的にコーディネートする看護師のアセスメントの様相と必要なスキル, *日本小児看護学会誌*, 32, 125-133, 2023.12
- 20) **Okatsu A, Kanie A, Kataoka Y** : Evaluation of the effect of a midwife-led online program using cognitive behavioral therapy for pregnant women at risk for anxiety disorder in Japan: A pilot randomized controlled trial, *PLOS ONE*, 18 (5), DOI:10.1371/journal.pone.0281632, 2023.5
- 21) **Otsuka K, Okatsu A, Wada S, Nobuaki Mitsuda, Yaeko Kataoka** : A survey of screening and support systems for socially high - risk pregnancies at obstetric facilities in Japan, *Japan Journal of Nursing Science*, 21 (1), DOI:10.1111/jjns.12581, 2024.1
- 22) **岡津愛子**, 片岡弥恵子 : 周産期うつ病の予防にむけた認知行動療法を活用した助産師主導介入プログラムの開発, *聖路加国際大学紀要*, 10, 19-30, 2024.3
- 23) **佐藤晶子**, **百瀬由美子** : 認知機能障害を有する高齢者への身体拘束に関する急性期病棟看護師の行動に影響する要因, *日本看護福祉学会誌*, 29 (2), 29-39, 2024.3
- 24) **清水美代子**, **野口眞弓**, **鎌倉やよい** : 就労介護者のインタビュー結果からみた就労を阻害する要因と継続する要因, *日本看護科学会誌*, 43, 252-260, 2023.9
- 25) **下里志寿子**, **野口眞弓** : 帝王切開を受ける女性の体験における覚悟と納得のプロセスの測定尺度作成の試み, *母性衛生*, 64 (4), 512-521, 2024.1
- 26) **鷺見正子**, **大西文子**, **岡田摩理** : 小児病棟において発達障害の特性をもつ児に入院生活中の看護援助をする看護師の困難の状況と影響要因, *日本赤十字豊田看護大学紀要*, 19 (1), 3-17, 2024.3
- 27) **鳥居千洋**, **東野督子** : 人工関節全置換術を受けた高齢者の社会参加に影響を及ぼす要因, *日本運動器看護学会誌*, 19, 37-46, 2024.2
- 28) **鳥居賀乃子**, **岡田摩理**, 佐々木典子, **神道那実**, **遠藤幸子**, **大西文子** : 地域で暮らす医療的ケア児を支援する施設を組み合わせた小児看護学領域の統合実習における学生の学び, *日本小児看護学会誌*, 32, 134-142, 2023.12
- 29) **Watanabe A, Inoue S, Okatsu A, Eto H, Oguro M, Kataoka Y** : Complementary and alternative medicine use by pregnant women in Japan: a pilot survey, *BMC Complementary Medicine and Therapies*, 23 (1), DOI:10.1186/s12906-023-04126-1, 2023.8

- 30) 山本さやか, 百瀬由美子: 回復期リハビリテーション病棟の看護師による退院支援状況と影響要因, 日本看護科学会誌, 43, 234-241, 2023.12
- 31) 山根友絵, 百瀬由美子: 近距離から通って高齢者を介護する別居介護者の介護負担, 日本看護福祉学会誌, 29 (2), 133-140, 2024.3

3. 学会発表

- 1) カルデナス暁東, 大平智祉緒, 長内志津子, 小貫恵梨香, 大元雅代, 新田マリア, 油谷典子: わが国の外見ケアにおける化粧ケアの実態に関する文献検討, 第43回日本看護科学学会学術集会(筆頭), 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口県下関市, 2023.12.9-10
- 2) 深谷由美, 岡田摩理, 松田優子, 泊祐子: 医療的ケアを必要とする子どもと家族を支援する際の相談支援専門員の考え方, 第43回日本看護科学学会, 山口県, 2023.12.9-10
- 3) 福田由紀子, 富士美恵子, 武田 智美, 又吉忍, 杉浦美佐子, 柘窪優二: ジャーナリズム専攻学生による筋萎縮性側索硬化症療養者のドキュメンタリー映像作成の取り組み, 日本エンドオブライフケア学会, 群馬県, 2023.9.16-17
- 4) 福岡友理恵, 山田聡子, 中島佳緒里: 実地指導者役割の遂行状況と支援の関連, 第27回日本看護管理学会学術集会, 東京, 2023.8.25-26
- 5) 古尾麻紀, 松浦正子, 南谷志野: 専従医療安全管理者の経験を有する看護師長の病棟における医療安全管理, 第27回日本看護管理学会学術集会, 東京都, 2023.8.26
- 6) 後藤有輝, 生田理, 吉澤尚子, 森田一三: 新型コロナウイルス感染症拡大前後の1歳6か月児健康診査受診者の精神発達の変化について, 令和5年度愛知県公衆衛生研究会, 愛知県, 2024.1.17
- 7) 原田真澄, 式守晴子: 地域で暮らす中高年の精神障がいをもつ人の家族の危機に関わる関係性の特徴, 日本家族看護学会第30回学術集会, 大阪府, 2023.9.9-10
- 8) 橋本亜弓, 近藤香苗, 白井おおり, 清水みどり, 小林尚司: 心不全を持つ超高齢者に対し適切な活動の支援ができるようになった看護学実習における病態教授活動, 日本看護学教育学会第33回学術集会, 福岡, 2023.8.27
- 9) 橋本亜弓, 白井裕子, 小塩泰代, 佐々木裕子: 新聞記事から見る野宿生活者の襲撃事件の一考察, 日本看護学教育学会第26回学術集会, 神奈川(Web開催), 2023.9.2-9.3
- 10) Higashino T, Ishida E, Koyama J, Ishiguro C, Ishihara K: Factors that affect the performance of oral care assessments by visiting nurse in carerequiring elderly, 第3回国際口腔ケア学会総会・学術大会, 東京, 2023.4.20-21
- 11) 東野督子, 小山順子, 石田咲, 河村諒, 田口栄子: 在宅要介護高齢者に実施する口腔ケアに関する全国の介護支援専門員(ケアマネジャー)の実態調査, 第20回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 東京, 2023.4.20-21
- 12) Higashino T, Koyama J, Ishida E, Kawamura R, Taguchi E: Survey of Care Managers on oral care provided to care-requiring elderly living at home, 第3回国際口腔ケア学会総会・学術大会, 東京, 2023.4.20-21
- 13) Hosono T, Tochikawa A: Re-analyzing a meta-synthesis of phenomenological studies on experiences related to diabetes in Sweden focusing on learning to live with diabetes, 40st International Human Science Research Conference, Tokyo, 2023.8.7-11
- 14) 堀田佳世, カルデナス暁東: 外来におけるがん薬物療法を受ける大腸がん患者への療養支援の実態, 第61回全国自治体病院学会, 北海道, 2023.8.31-9.1
- 15) 石田咲, 東野督子: 通所事業所の口腔に関する取り組みの実態, 第20回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 東京, 2023.4.20-21
- 16) Ishida E, Higashino T: Status of efforts for the oral cavity at day services, 第3回国際口腔ケア学会総会・学術大会, 東京, 2023.4.20-21
- 17) 石黒千映子, カルデナス暁東, 田口栄子, 石原

- 佳代子, 谷口純平, 河村諒, 石田咲, 栩川綾子, 東野督子: 成人慢性期看護学臨地実習直前に実施するシミュレーション演習の学習効果, 一般社団法人日本看護研究学会第28回東海地方会学術集会, Web開催, 2024.3.9
- 18) 金田彩霞, 鈴木令佳, 山岸由紀子, 加藤千尋, 岡津愛子, 片岡弥恵子: 産前産後の訪問看護に関する調査, 第37回日本助産学会学術集会, 東京 (Web開催), 2023.10.8-9
- 19) Kawamura R, Taniguchi J, Matsuda Y, Chompunud S, Boonyaratakalin P: Challenges in protect vulnerable people in need from torrential rain and flood disasters -Literature review of national and international literature, 27th East Asia Forum of Nursing Scholars 2024 EAFONS 2024, Hong Kong, 2024.3.6-7
- 20) 近藤絵美, 石井優香: 応答性の観点からみた急性期病院に入院している高齢者への看護実践－国内文献による知見の統合－, 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口, 2023.12.9-10
- 21) 巻野雄介, 近藤絵美, 高下翔: 人体の構造と機能に関する知識の習得と活用における看護学生の経験, 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口, 2023.12.9-10
- 22) 松田優子, 岡田摩理, 深谷由美, 泊祐子: 医療的ケア児と家族の在宅生活を支援する相談支援専門員の活動の実態, 第70回日本小児保健協会学術集会, 神奈川県 (Web開催), 2023.6.17-18 (Web2023.6.26-7.18)
- 23) 松浦正子, 井川順子, 井上真奈美, 井本英津子, 岩谷美貴子, ウィリアムソン彰子, 小淵美紀子, 佐藤ひとみ, 南谷志野, 三谷千代子: (指定インフォメーションエクステンジ3) 看護管理学会の研究助成の扉を開けよう! 情報を手に入れ、活用のチャンスをつかもう!, 第27回日本看護管理学会学術集会, 東京都, 2023.8.26
- 24) Matsuzaki K: How Japanese Students Choose their Destination: English-Medium Instruction or Angrophone countries, NAFSA:Association of International Educators 75th Annual Conference, Washington, USA, 2023.5
- 25) Matsuzaki K: Rationale for Students Choosing EMI Study Abroad: A Case Study of Thailand, East Asia Forum on Secondary and Higher Education Study, 名古屋, 愛知, 2023.6
- 26) 松崎久美: 非英語圏 EMI 留学選択の動機と再評価のプロセス, 日本国際教育学会, 大阪, 2023.9
- 27) 宮田淳, 木村知子, 南谷志野: 回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師がセラピストに感じるコンフリクト, 第27回日本看護管理学会学術集会, 東京都, 2023.8.25
- 28) 森田一三, 佐久間重光, 近藤香苗: 新型コロナウイルス感染症の流行が歯科治療に与えた影響, 第64回日本歯科医療管理学会総会・学術大会, 岐阜県, 2023.7.16
- 29) 森田一三, 高見精一郎, 佐久間重光: 前歯部歯列画像に対する畳み込みニューラルネットワーク (CNN) の回転耐性, 第64回日本歯科医療管理学会総会・学術大会, 岐阜県, 2023.7.16
- 30) 森田一三, 高見精一郎, 佐久間重光: 畳み込みニューラルネットワークにおける前歯部歯列回転画像の判別能力, 第82回日本公衆衛生学会, 茨城県, 2023.10.31
- 31) 長尾優子, カルデナス暁東: 介護を必要とする患者の口腔ケアにおけるスタッフの認識・知識・技術に関する現状調査, 第11回大阪府看護学会, 大阪府大阪市, 2023.12.2
- 32) 中川加奈子, 木村知子, 南谷志野: コロナ禍における新人看護職員研修責任者の新人看護職員への思いと研修の工夫, 第27回日本看護管理学会学術集会, 東京都, 2023.8.25
- 33) 中村早希, 増澤祐子, 岡津愛子, 山本真実, 片岡弥恵子: 院内助産・助産師外来に関する文献検討～英国, オランダ, ニュージーランド, オーストラリアにおける助産師主導の継続ケアと院内助産の現状とその効果・安全性について～, 第37回日本助産学会学術集会, 東京 (Web開催), 2023.10.8-9

- 34) 中村早希, 増澤祐子, **岡津愛子**, 山本真実, 片岡弥恵子: 院内助産・助産師外来の安全性と利用満足度に関する国内の文献検討, 第37回日本助産学会学術集会, 東京 (Web 開催), 2023.10.8-9
- 35) **中島佳緒里**: 身体接触技術のエビデンスと臨床導入 - ICU 患者の睡眠支援 -, 第5回看護人間工学会学術集会, 愛知, 2023.9.16
- 36) **中島佳緒里**: レジリエンスによる災害ボランティア体験の捉え方の違い, 第29回日本災害医学会総会・学術集会, 京都, 2024.2.22-24
- 37) 中谷千恵, **カルデナス暁東**: 消化器外科手術を受ける後期高齢患者の早期離床に関する術前オリエンテーションの現状, 第11回大阪府看護学会, 大阪府大阪市, 2023.12.2
- 38) **南谷志野**: フルタイム勤務看護師の「短時間勤務看護師との協働意識」に影響を及ぼした経験と認識, 第27回日本看護管理学会学術集会, 東京都, 2023.8.25
- 39) **南谷志野**, 田中春美, 長田佳予子, 津島準子, 奥野佐千子, 杉本百合香, 谷口孝江, 澤邊綾子, 坂本美佳子: (インフォメーションエクステンション) 認定看護管理者として取り組む新たな地域連携の形, 第27回日本看護管理学会学術集会, 東京都, 2023.8.25
- 40) **西久保ひろみ**, **巻野雄介**, **竹内貴子**, **高下翔**, **近藤絵美**, **福岡友理恵**, **中島佳緒里**, **山田聡子**: フィジカルアセスメントにおける超音波画像診断装置を用いた動脈触知及び膀胱内尿量測定の効果の検討, 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口, 2023.12.9-10
- 41) **岡田摩理**, 松田優子, **深谷由美**, 泊祐子: 医療的ケア児と家族の在宅生活を支援する相談支援専門員が認識する活動上の課題, 第70回日本小児保健協会学術集会, 神奈川県 (Web 開催), 2023.6.17-18 (Web2023.6.26-7.18)
- 42) **岡田摩理**, **深谷由美**, 松田優子, 泊祐子: 医療的ケア児と家族の生活支援のために多職種協働をする相談支援専門員のアセスメントの視点, 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口県 (Web 開催), 2023.12.9-10 (Web2024.1.16-2.29)
- 43) **Okatsu A**, **Kataoka Y**: Feasibility and efficacy of a midwife-led remote cognitive behavioral therapy to prevent perinatal depression: a pilot randomized controlled trial, International Confederation of Midwives 2023, インドネシア, バリ, 2023.6.11-14
- 44) **岡津愛子**: シンポジウム: ポストコロナのメンタルヘルスを支える一妊産婦への認知行動療法の実装 - 「助産師による認知行動療法を活用したプログラムと実装への試み」, 第37回日本助産学会学術集会, 東京 (Web 開催), 2023.10.8-9
- 45) **岡津愛子**, 片岡弥恵子: 不安障害のリスクを有する妊婦にむけた認知行動療法を活用したオンライン介入の実行可能性, 第37回日本助産学会学術集会, 東京 (Web 開催), 2023.10.8-9
- 46) **岡津愛子**, 青山さやか, 片岡弥恵子: 周産期メンタルヘルス支援としての認知行動療法を活用した出産前集団教育導入にむけた取り組み, 第37回日本助産学会学術集会, 東京 (Web 開催), 2023.10.8-9
- 47) **岡津愛子**: シンポジウム1 妊産婦のメンタルヘルスへのアプローチ「助産師による認知行動療法を活用したオンラインプログラム」, 第30回日本行動医学会学術集会, 東京, 2023.12.2-3
- 48) **Okatsu A**, **Kataoka Y**: Development and Initial Validation of the Cognitive and Behavior Change with CBT Scale for Perinatal Women, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 香港, 2024.3.6-7
- 49) **岡津愛子**, 青山さやか, 横山知加, 大塚公美子, 片岡弥恵子: 周産期領域における助産師による認知行動療法の実装にむけたオンラインラーニンググループの評価, 第8回近畿周産期精神保健研究会, 大阪, 2024.2.23-24
- 50) 太田勝正, 前田樹海, 青石恵子, 中山奈津紀, 新實夕香理, 嶋崎和代, **山田聡子**: Z世代のケアならびにケアの担い手に対するイメージについて - 高校生へのアンケート調査から -, 日本看護倫理学会第16回年次大会, 東京, 2023.6.3-4
- 51) 田崎あゆみ, **大西文子**, 石田雅美, 杉浦将人: 慢性腎臓病をもつ学童期の子どものセルフケア獲得のために必要な自立支援プログラムの

- 構築 (第1報), 日本小児看護学会第33回学術集会, 神奈川県 (Web開催), 2023.7.15-16 (Web2023.7.15)
- 52) 田崎あゆみ, **大西文字**, 杉浦将人, 石田雅美: 慢性腎臓病をもつ学童期の子どものセルフケア獲得のために必要な自立支援プログラムの構築 (第2報), 日本小児看護学会第33回学術集会, 神奈川県 (Web開催), 2023.7.15-16 (Web2023.7.15)
- 53) 大西幸恵, **山田聡子**: 看護系大学におけるプロフェッショナルリズム教育に関するシラバス分析, 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口, 2023.12.9-10
- 54) 小野愛結佳, **東野督子**, **石田咲**: N95 マスクを継続使用する状況時の適切な保管方法の検討 - 細菌学的指標を用いた比較 -, 第20回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 東京, 2023.4.20-21
- 55) 大野晶子, 大谷喜美江, 道重文子, **東野督子**, 水谷聖子, 江尻晴美, 鈴木紀子, **石原佳代子**, 佐伯香織: 医療施設内の看護職による口腔ケアの現状と課題 (第2報) - 現任教育の課題 -, 第20回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 東京, 2023.4.20-21
- 56) 大山千夏, **カルデナス暁東**: HCU に入室する術後患者のせん妄予防におけるパンフレットを用いたオリエンテーションの効果, 第11回大阪府看護学会, 大阪府大阪市, 2023.12.2
- 57) 大谷喜美江, 大野晶子, 道重文子, **東野督子**, 水谷聖子, 江尻晴美, 鈴木紀子, **石原佳代子**, 佐伯香織: 医療施設内の看護職による口腔ケアの現状と課題 (第1報) - 認知と関心, 第20回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 東京, 2023.4.20-21
- 58) 坂井志織, **棚川綾子**, 細野知子, 池口佳子, 北尾良太, 村上優子, 齋藤貴子: 現象学的看護研究の成果を伝えるための論文投稿一採択に向けた Tips 一, 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口県, 2023.12.9-10
- 59) **清水美代子**: 就労介護者の仕事と介護の役割遂行における葛藤のアセスメント指標項目案の内容妥当性の検討, 第96回日本産業衛生学会, 栃木県 (オンデマンド), 2023.6.1-6.26
- 60) 下之内陽子, **カルデナス暁東**, 山本優子: 有職糖尿病患者への医療チームによる「初回フットケア指導」の有効性の検討, 第28回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 岡山県岡山市, 2023.9.23-24
- 61) 篠原佐和, **カルデナス暁東**, 中村大輔, 中本敬, 坂田泰史, 星賀正明: 塩分・水分の管理を必要とする外来通院中の高齢心不全患者を支える高齢家族の思い, 日本循環器学会第135回近畿地方会, 大阪府吹田市, 2023.7.15
- 62) 篠原佐和, **カルデナス暁東**, 中村大輔, 中本敬, 坂田泰史, 星賀正明: 塩分・水分の管理を必要とする外来通院中の高齢心不全患者を支える高齢家族のサポート, 日本慢性看護学会第17回学術集会, 神奈川県川崎市, 2023.9.2-3
- 63) 杉浦石根, 松本祐介, 稲川祐成, 中畠誠治, 野村岳嗣, 阿部義和, 丸山智美, **森田一三**: 咀嚼時間と咀嚼可能食品数および食事満足度の関係, 第82回日本公衆衛生学会, 茨城県, 2023.10.31
- 64) Sunaba T, Kawanaka H, Watanabe N, **Kamakura Y**, Oguri K: Automated Extracting the Region of Common Carotid Artery Based on the Contour Shape in Ultrasound Imaging of Neoglottis, 2023 IEEE 12th Global Conference on Consumer Electronics, Nara Japan, 2023.10.10-13
- 65) 田島真智子, **深谷由美**, 山幡朗子, 藤原奈佳子: 通所介護の看護職が認識する医療的ケアを必要とする利用者受け入れの課題, 第43回日本看護科学学会, 山口県, 2023.12.9-10
- 66) 田島真智子, **深谷由美**, 山幡朗子, 藤原奈佳子: 通所介護管理者の介護保険制度の医療的ケアに関する要望, 日本ヒューマンヘルスケア学会, 岐阜県, 2023.9.23
- 67) **高下翔**, **巻野雄介**, 竹内貴子, 西久保ひろみ, **近藤絵美**, **福岡友理恵**, **中島佳緒里**, **山田聡子**: 看護基礎教育における超音波画像診断装置を用いた採血演習の教育効果の検討, 第24回日本赤十字看護学会学術集会, 宮城, 2023.7.29-30
- 68) 谷川摩里子, 木村知子, **南谷志野**: 外来で勤務

- する非正規看護職員が現職場で職務継続できる要因, 第27回日本看護管理学会学術集会, 東京都, 2023.8.26
- 69) 田野辺和美, 山田聡子, 中島佳緒里: 手術室看護師による術前看護の実践状況と関連要因, 第27回日本看護管理学会学術集会, 東京, 2023.8.25-26
- 70) Tochikawa A: Details of nursing practices for inpatients with diabetic foot lesions-The nurse who exists with patients as a collaborating partner-, 40th International Human Science Research Conference, Tokyo, 2023.8.7-11
- 71) 栩川綾子: 糖尿病足病変患者の在宅療養に向けた看護実践の成り立ち, 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口県, 2023.12.9-10
- 72) 栩川綾子, 東野督子, 河村諒, 谷口純平, 石田咲, 石黒千映子, 田口栄子, 石原佳代子, カルデナス暁東: 成人急性期看護学実習前シミュレーション演習の効果, 一般社団法人日本看護研究学会第28回東海地方会学術集会, Web開催, 2024.3.9
- 73) 外山さゆり, 大西文子, 岡田摩理: 小児病棟のレスパイトケアにおける看護の実態, 日本小児看護学会第33回学術集会, 神奈川県 (Web開催), 2023.7.15-16 (Web2023.7.20-8.20)
- 74) 外山さゆり, 大西文子, 岡田摩理: 小児病棟のレスパイトケアに対する看護師の認識と困難感, 日本小児看護学会第33回学術集会, 神奈川県 (Web開催), 2023.7.15-16 (Web2023.7.20-8.20)
- 75) 渡邊直美, 鎌倉やよい, 深田順子: 食道発声のための構音訓練法の構築~シングルケースデザインによる効果の検証~, 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口, 2023.12.9
- 76) 渡邊佑季子, 岡津愛子, 佐々木美幸, 山田静江, 片岡弥恵子: 「産後ケア事業における評価質問票」の信頼性・妥当性の検討, 第37回日本助産学会学術集会, 東京 (Web開催), 2023.10.8-9
- 77) 山根友絵, 百瀬由美子: 近距離から通って高齢者を介護する別居介護者の介護負担の現状, 第28回日本在宅ケア学会学術集会, 大阪府, 2023.11.11-12
- 78) 山田則子, 松浦正子, 南谷志野: 日本赤十字社に所属する看護管理者ではない看護職の事業管理要員としての国際活動, 第27回日本看護管理学会学術集会, 東京都, 2023.8.26
- 79) 山口ひなの, カルデナス暁東: 手術室における清掃方法の標準化の効果について, 第11回大阪府看護学会, 大阪府大阪市, 2023.12.2
- 80) 横山知加, 岡津愛子: 周産期のうつ, 不安, ストレスに対する認知行動療法, 日本認知・行動療法学会 第49回大会, 北海道 (Web開催), 2023.10.7-9
- 81) 米山真里奈, カルデナス暁東: 勤務体制に伴いCOVID-19病棟で働く看護師の内発的モチベーションの変化の実態調査, 第11回大阪府看護学会, 大阪府大阪市, 2023.12.2
- 82) 吉田美香子, カルデナス暁東: 意思疎通困難の脳膿瘍併発卵巣がん患者に対するACP支援の事例研究, 日本緩和医療学会第5回関西支部学術大会, 大阪府堺市, 2023.9.2

4. その他刊行物

- 1) 原田真澄, 飯田大輔, 山本壮則: 精神看護学実習における携帯型タブレットを用いた遠隔での実習カンファレンスについての一考察, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 19 (1), 93-97, 2024.3
- 2) 橋本亜弓, 小林尚司, 清水みどり, 近藤香苗: 老年看護学実習における遠隔カンファレンスを経験した教員の振り返り, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 19 (1), 89-92, 2024.3
- 3) 石黒千映子, 田口栄子, 石原佳代子, カルデナス暁東, 谷口純平, 河村諒, 和田友美, 石田咲, 栩川綾子, 東野督子: 成人慢性期看護学実習前シミュレーション演習における学習効果, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 19 (1), 67-82, 2024.3
- 4) 鎌倉やよい: リハビリテーション医学・医療の歴史秘話“あの時なにが?” (9) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, Journal of clinical rehabilitation, 32 (10), 1023-1026, 2023.10
- 5) 小林洋子: 日本赤十字豊田看護大学20周年記念誌

- 6) 小林尚司, 清水みどり, 橋本亜弓, 白井かおり, 近藤香苗, 深谷由美, 松田優子, 百瀬由美子, 原田真澄, 初田真人, 飯田大輔, 山本壮則: 携帯型タブレットを用いた遠隔実習指導の実際, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 18 (1), 2023.3
- 7) 巻野雄介: 末梢静脈穿刺の安全と安楽を目指す技術, 日本看護評価学会誌, 13 (1), 32-36, 2023.12
- 8) 百瀬由美子, 會田信子, 小野光美, 桑原良子, 佐藤晶子, 千田陸美, 藤野あゆみ, 山崎尚美, 山根友絵: 教育活動推進委員会による調査報告, 老年看護学, 28 (2), 115-122, 2024.1
- 9) 中島佳緒里: 身体接触技術のエビデンスと臨床導入 - ICU 患者の睡眠支援 -, 看護人間工学会誌, 5, 1-5, 2024.3
- 10) 白井裕子, 橋本亜弓, 小塩泰代, 佐々木裕子: 新聞記事からみる野宿生活者の襲撃事件の一考察 第2報, 地域ケアリング, 26 (1), 75-77, 2023.12
- 11) 部谷知佐恵, 岡田摩理, 市川百香里, 赤羽根章子, 遠渡絹代, 濱田裕子, 泊祐子: 特集 小児訪問看護で絶対に外しちゃいけないこと: 診療報酬算定はできないが, 必要に迫られ行っていること - 暮らしの豊かさをもとめた現場の実践, 訪問看護と介護, 29 (2), 98-103, 2023.3
- 12) 棚川綾子, 河村諒, 谷口純平, 石田咲, 石黒千映子, 田口栄子, 石原佳代子, カルデナス暁東, 東野督子: 成人急性期看護学実習前シミュレーション演習の効果, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 19 (1), 53-65, 2024.3
- 13) 山田聡子, 巻野雄介, 竹内貴子, 高下翔, 近藤絵美, 西久保ひろみ, 福岡友理恵, 中島佳緒里: 基礎看護学領域における超音波画像診断装置を用いた看護技術演習の学習効果, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 19 (1), 99-100, 2024
- 2) 映像メディア英語教育学会
中部支部再建懇談会副代表: 鈴木寿摩
- 3) 看護人間工学会
評議員: 中島佳緒里
- 4) 国際口腔ケア学会
理事: 東野督子
- 5) 子どもの健康フォーラム
理事: 大西文子
- 6) 子どもの療養環境研究会
理事: 大西文子
- 7) 産業・組織心理学会
理事: 南谷志野
- 8) 千葉大学看護実践・教育・研究共創センター運営協議会
評議員: 鎌倉やよい
- 9) 東海医療安全研究会
代表幹事: 下久保亮太
- 10) 東海学校保健研究
編集委員長: 森田一三
- 11) 東海学校保健学会
評議委員: 森田一三
- 12) 日本医療・病院管理学会
研究倫理委員会 委員: 南谷志野
- 13) 日本学校保健学会
代議員: 森田一三
- 14) 日本看護科学学会
理事: 鎌倉やよい
代議員: 山田聡子, 百瀬由美子, 野口眞弓, 岡田摩理, 大西文子
看護倫理検討委員: 近藤絵美
英文誌編集委員会委員: 野口眞弓
- 15) 日本看護学教育学会
評議員: 山田聡子, 大西文子
専任査読者: 山田聡子
- 16) 日本看護学教育評価機構
評議員: 鎌倉やよい
評価委員会委員: 山田聡子
- 17) 日本看護管理学会
学術活動推進委員会 委員: 南谷志野
- 18) 日本私立看護系大学協会
理事: 百瀬由美子
大学運営・大学経営委員会 委員長: 百瀬由美子

II. 社会活動

1. 学会理事等役員・委員会委員

- 1) 愛知県看護協会
学会委員会 委員: 南谷志野
広報委員会 委員: 下久保亮太

- 19) 日本看護系大学協議会
代表理事：鎌倉やよい
社員：山田聡子
「看護学教育における倫理指針」改訂ワーキングメンバー：山田聡子
- 20) 日本看護研究学会
評議員：山田聡子, 野口眞弓, 大西文子
- 21) 日本看護福祉学会
監事：百瀬由美子
- 22) 日本看護倫理学会
理事・編集委員会委員長：山田聡子
代議員：百瀬由美子
- 23) 日本口腔ケア学会
常務理事：東野督子
看護部長：東野督子
- 24) 日本公衆衛生学会
代議員：森田一三
- 25) 日本災害看護学会
代議員：小林洋子
- 26) 日本在宅ケア学会
代議員：百瀬由美子
- 27) 日本小児がん看護学会
評議員：大西文子
広報委員会：大西文子
- 28) 日本小児看護学会
評議員：大西文子
- 29) 日本小児保健協会
代議員：大西文子
小児救急の社会的サポート委員会：大西文子
- 30) 日本助産学会
選挙管理委員会：岡津愛子
母子訪問看護ワーキング：岡津愛子
- 31) 日本赤十字看護学会
理事：鎌倉やよい
評議員：山田聡子, 東野督子, 小林洋子
広報委員：竹内貴子
研究助成選考委員会委員：山田聡子
- 32) 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
理事長：鎌倉やよい
- 33) 日本場面緘黙研究会
理事：岡田摩理
- 34) 日本老年医学会
用語委員会 委員：百瀬由美子
- 35) 日本老年医学学会
倫理委員会 委員：百瀬由美子
- 36) 日本老年看護学会
理事：百瀬由美子
代議員：鎌倉やよい
教育活動推進委員会 委員長：百瀬由美子
- 37) 認定看護管理者会
常務理事：南谷志野
研究プロジェクト メンバー：南谷志野
- 38) 臨床実践の現象学会
編集委員：栩川綾子
- ## 2. 学術集会の企画・実行委員等
- 1) 第1回多言語・多文化研究会
実行委員：鈴木寿摩
- 2) 第2回多言語・多文化研究会
副会長, 司会：鈴木寿摩
- 3) 国際教育夏季研究大会 2023
実行委員：松崎久美
- 4) NAFSA:Association of International Educators
JAPAN-SIG
Co-chair：松崎久美
- 5) 第5回看護人間工学会学術集会
学術集会長：中島佳緒里
- 6) 第39回愛知県看護学会
学会委員：南谷志野
- 7) 第20回日本口腔ケア学会総会・学術大会
看護部会教育講演企画：東野督子
- 8) 臨床実践の現象学会第7回大会
実行委員：栩川綾子
- 9) 第21回小児がん看護学会
看護一般口演6「AYA世代の患者の支援」
NO6-1～NO6-3 座長：大西文子
- ## 3. 省庁・地方自治体の委員会委員
- 1) 愛知県立豊田高等学校
学校評議員：野口眞弓
- 2) NPO 法人あいち福祉オンブスマン
電話相談員：橋本亜弓
オンブスマン委員：橋本亜弓
- 3) 刈谷市医療的ケア運営協議会

- 委員：岡田摩理
- 4) 厚生労働省・医道審議会
専門委員：鎌倉やよい
 - 5) 厚生労働省・厚生労働科学特別研究事業中間・事後評価委員会
委員：鎌倉やよい
 - 6) 厚生労働省・社会保障審議会（統計分科会生活機能分類専門委員会）
専門委員：鎌倉やよい
 - 7) 高浜市母子保健ネットワーク会議
アドバイザー：野口真弓
 - 8) 豊田市感染症審査協議会
委員：下間正隆
 - 9) 豊田市健康づくり運動プラン（第四次）策定委員会
策定委員：清水美代子
 - 10) 豊田市こどもにやさしいまちづくり推進会議
会長：野口真弓
 - 11) 豊田市食育推進会議
委員：鎌倉やよい
 - 12) 豊田市地域保健審議会
委員：長谷川喜代美
 - 13) 豊田市不良な生活環境を解消するための審議会
委員：原田真澄
 - 14) 豊田市慢性疾病児童等地域支援協議会
委員・議長：岡田摩理
 - 15) 豊田訪問看護師育成センター
部会長：百瀬由美子
 - 16) 日進市介護認定審査会
介護認定委員：清水美代子
 - 17) みよし市介護保険運営審議会
委員：長谷川喜代美
 - 18) みよし市地域包括支援センター運営協議会
委員：長谷川喜代美
 - 19) みよし市地域密着型サービス運営審議会
委員：長谷川喜代美
 - 20) みよし市保健対策推進協議会
委員：清水美代子
4. 研修会・講演会の講師
- 1) 天木伸子：令和5年度あま市地域包括ケアシステム講演会，災害時に誰も孤立させない地域づくり，2023.9.11
 - 2) 天木伸子：特別養護老人ホーム施設職員研修会，認知症ケアについて，2023.8.30
 - 3) 飯田大輔：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院看護部研修令和5年度「事例で学ぶ対象理解」，患者・家族と良い人間関係を成立するために，2023.8.26
 - 4) 大西文子：日本小児保健協会小児救急の社会的サポート委員会基礎コース，小児救急電話相談スキルアップ研修会，2023.9.16
 - 5) 岡田摩理：岐阜県看護協会 重症心身障がい者看護人材育成研修，重症心身障がい児者の看護：倫理について，2023.11.7
 - 6) カルデナス暁東：大阪府市立柏原病院看護研究，臨床のアドリアを研究に，2023.5～2024.1月に1回
 - 7) カルデナス暁東：高槻市役所主催市民講座，「カルデナス先生のカラーセラピー講座」，2023.8.25・2023.11.20
 - 8) 小林尚司：豊田市地域医療人材育成センター研修会，在宅における認知症の人の看護，2023.10.19
 - 9) 小林尚司：豊田市地域医療人材育成センター研修会，学会発表にチャレンジしてみよう，2024.1.16
 - 10) 小林尚司：西尾市民病院看護研究研修会，看護研究について，2023.5.27
 - 11) 小林尚司：豊田市地域医療センター研修会，看護研究について，2023.7.13
 - 12) 小林洋子：看護人間工学学会，本学における災害看護学教育，2023.9.16
 - 13) 清水美代子：健康教室づくりの極意講座 第5回，教室・事業を評価する，2023.4.16
 - 14) 清水美代子：愛知陸運永年勤続者慰労会研修，これからの健康づくり，2023.9.16
 - 15) 清水美代子：長野県伊那弥生ヶ丘高等学校1年生模擬授業，看護職への道，2023.12.6
 - 16) 千葉朝子：名古屋市臨地実習指導者講習会，実習指導の実際（母性看護学），2023.9.20
 - 17) 栩川綾子：臨床実践の現象学会第7回プレセミナー，みんなで現象学的分析を体験しよう，2023.08.19

- 18) **中島佳緒里**：独立行政法人地域医療推進機構東海北陸地区新任副看護師長研修，ファシリテーションに関する基礎知識，2023.8.1
- 19) **中島佳緒里**：愛知県立豊田東高等学校1年生進路ガイダンス，看護師としてのキャリアを考える，2023.7.10
- 20) **中島佳緒里**：名古屋掖済会病院 看護研究，文献クリティーク，2023.8.12
- 21) **中島佳緒里**：名古屋市立緑高等学校医療看護ワークショップ，看護の世界，2023.12.18
- 22) **南谷志野**：令和5年度滋賀県病院事業庁看護管理I研修，看護管理の基礎知識 - 副看護師長の役割と組織分析 - ，2023.5.27
- 23) **南谷志野**：愛知県立豊田高等学校 令和5年度2年生出前授業，看護師としてのキャリア，2023.6.15
- 24) **南谷志野**：日本赤十字豊田看護大学専門職向け研修会，看護職のキャリアとwell-being，2023.10.14
- 25) **南谷志野**：令和5年度認定看護管理者会東海ブロック研修会，教育現場から見る認定看護管理者～看護管理学教育の現状と大学教員というキャリアの選択～，2023.11.3
- 26) **南谷志野**：北海道看護協会室蘭支部 令和5年度医療に関する研修会，看護職のキャリアとwell-being，2024.2.17
- 27) **南谷志野**：CandY Link（メディカ出版のeラーニング），看護補助者との協働推進のための看護職員研修，2024.3～
- 28) **原田真澄**：令和5年度日本精神科看護協会愛知県支部看護研究発表会 講師，2023.9.29
- 29) **東野督子**：長久手市民生委員・児童委員協議会高齢者部会講演会，健康増進に寄与できる口腔ケアについて考える～オーラルフレイルって何？～，2023.7.9
- 30) **東野督子**：第77回浜松市リハビリテーションセミナー，健康増進に寄与できる口腔ケア～求められる支援を考える～，2023.9.22
- 31) **東野督子**：第18回新潟口腔ケア研究会，健康増進に寄与できる口腔ケア～求められる支援を考える～，2023.9.10
- 32) **深谷由美**：専門職向け研修会，学会で発表してみよう，2023.9.9
- 33) **百瀬由美子**：岐阜聖徳大学FD研修会，良質な教育は良質な研究から，2023.9.12
- 34) **百瀬由美子**：国立長寿医療研究センター高齢者医療・在宅医療総合看護研修，高齢者のエンドオブライフ・ケア「高齢者の権利擁護・倫理」，2023.11.3
- 35) **百瀬由美子**：第10回東海口腔ケアフォーラム・教育講演，介護老人福祉施設における看護・介護スタッフによる認知症高齢者の口腔セルフケア支援の試み，2024.3.10
- 36) **森田一三**：日本赤十字豊田看護大学FD・SD研修，ころりん，2023.12.22
- 37) **山田聡子**：一宮市立市民病院 キャリアラダー研修，研究①③，2023.7.24・2024.2.29
- 38) **米澤知恵**，**宇佐美康子**，**石原佳代子**：第20回日本口腔ケア学会総会・学術大会，看護部会ハンズオンセミナー オーラルフレイル予防へつなぐ～粘膜マッサージと唾液腺マッサージ～，2023.4.21

5. 災害関連の活動

- 1) **遠藤幸子**：刈谷防災推進委員会，推進委員（保健・医療・子ども関連），市民館・市民センターなど，毎月定例会 継続
- 2) **河村諒**：愛知県被災者支援センター甲状腺エコー検診・健康相談 / 交流会，健康相談員，名南病院，2023.11.26
- 3) **河村諒**：名古屋市荒子学区自主防災訓練，まちの減災支援ナース指導者，名古屋市立荒子小学校，2023.12.10

2023 年度 日本赤十字豊田看護大学年報

2024 年 7 月 発行

編集・発行 学校法人日本赤十字学園
日本赤十字豊田看護大学 自己点検・評価委員会
〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲 12 番 33
TEL 0565-36-5111
<https://www.rctoyota.ac.jp/>

印 刷 株式会社コームラ

